

一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査

(平成22年度調査)

報 告 書

平成23年3月

NPO法人 日本緩和医療学会

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」



報告書目次

I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	8
1	あなたご自身のことについて	9
(1)	自分自身のがんの経験の有無	9
(1) - 1	一番最初のがんと診断された時期	10
(1) - 2	がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無	11
(2)	現在の通院状況	12
(3)	医療職・非医療職別	14
2	あなたのご家族について	16
(1)	家族の中のがん経験者の有無	16
(1) - 1	家族の中のがん経験者との関係	18
(1) - 2	家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無	20
3	緩和ケアについて	22
(1)	「緩和ケア」という言葉の認知	22
(1) - 1	「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路	25
(2)	「緩和ケア」を受ける時期の認識	28
(3)	居住地にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知	31
(3) - 1	「緩和ケア」が受けられると思う場所	34
(4)	周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知	36
(5)	周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無	39
4	「緩和ケア」情報について	42
(1)	「緩和ケア」について知りたい情報	42
(2)	「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段	46
5	医療用麻薬について	50
(1)	がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知	50
(2)	医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知	53
(3)	医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感	56
6	「オレンジバルーンプロジェクト (Orange Balloon Project)」	59
(1)	「オレンジバルーンプロジェクト」の認知	59
(1) - 1	「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路	62

7	緩和ケアの各項目についての認知	63
	(1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する	64
	(2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる	67
	(3) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる	70
	(4) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている	73
	(5) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない	76
	(6) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない	79
	(7) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる	82
	(8) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている	85
8	「オレンジバレーンプロジェクト」に期待すること	88
III	自由回答一覧	92
IV	調査票（単純集計結果付）	131
V	2010年度メンバー紹介	138

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査目的

がん対策基本法の中で重点課題のひとつとしてあげられている「緩和ケアの推進」のための前段階として、一般市民の「緩和ケア」に関する認知度や意見を把握し、また、2年前に実施した同調査との比較を行なうことで、今後の「緩和ケア」の正しい知識普及の参考とすることを目的とする。

2 調査方法

郵送調査法（郵送配布郵送回収法）
（住民基本台帳で閲覧した対象者に郵送で調査を実施）

3 調査項目

- (1) 自分のがんの経験
- (2) 家族のがんの経験
- (3) 緩和ケアの認知度
- (4) 緩和ケアについての情報
- (5) 医療用麻薬の認知度
- (6) オレンジバルーンプロジェクトの認知度
- (7) 緩和ケア治療についての各項目の認知度
- (8) オレンジバルーンプロジェクトに期待すること

4 調査対象

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女個人
- (3) 標本数 6,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づく層化2段無作為抽出法
- (5) 地点 150地点

5 調査時期

2010年 11月19日～12月28日
調査票投函：2010年 11月19日～11月24日
督促葉書投函：2010年 11月29日～12月3日

6 調査実施委託機関

社団法人 新情報センター

7 回収結果

有効回収数(率) 2,312人 (38.5%)

*回収調査票が無記入のものは有効回収から除外

8 調査対象者の基本属性

(1) 年 齢

	総数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
総数(人)	2312	192	294	330	426	558	498	14
構成比(%)	100.0	8.3	12.7	14.3	18.4	24.1	21.5	0.6

(2) 性 別

	総数	男性	女性	無回答
総数(人)	2312	1020	1284	8
構成比(%)	100.0	44.1	55.5	0.3

(3) 性×年齢

	総数	男性 20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
総数(人)	2312	80	105	121	203	269	236	
構成比(%)	100.0	3.5	4.5	5.2	8.8	11.6	10.2	
		女性 20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
		112	189	209	223	288	261	16
		4.8	8.2	9.0	9.6	12.5	11.3	0.7

(4) 居住地

	総数	北海道・東北	関東	中部・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	無回答
総数(人)	2312	269	679	420	417	254	255	18
構成比(%)	100.0	11.6	29.4	18.2	18.0	11.0	11.0	0.8

9 前回調査の概要（参考）

①調査方法

郵送調査法（郵送配布郵送回収法）
（住民基本台帳で閲覧した対象者に郵送で調査を実施）

②調査時期

2008年11月21日～2009年1月12日
調査票投函：2008年11月21日～11月26日
督促葉書投函：2008年12月1日～12月5日

③調査実施委託機関

社団法人 新情報センター

④回収結果

有効回収数(率) 2,215人(36.9%)
*回収調査票が無記入のものは有効回収から除外

⑤前回調査と今回調査の調査項目の変更箇所

前回調査と今回調査では、基本的に質問項目は同じであるが、今回調査では以下の質問において、変更があった。

- ・問5-2
→ 質問文が変更。
- ・問7
→ 質問文が変更。
→ 前回の（ア）～（ケ）の9項目が、
今回は（ア）～（ク）の8項目に変更（1問削除）。
→ 前回の「正しいと思う」が、今回は「知っている」に、
前回の「どちらともいえない」が、今回は「少し知っている」に、
前回の「間違っていると思う」が、今回は「全く知らない」に、
それぞれ変更。

本報告書を読む際の注意

- 図表類の単位は%で、数表は横に足して合計となる。
%の合計数字の表示は省略している。
- nは回答者人数の合計（無回答も含む）。nの最大は、全員に質問したときは、2,312である。一部の者に質問したとき（補問）や、分析の軸（＝表側）では、その都度個別にnを表示している。
- %数字は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで算出。そのため、合計の数字が100%ちょうどにならない場合もある。
- 複数回答（○はいくつでも）を認める質問の%数字は、その質問に回答すべきn全員を100%として、選択肢（カテゴリー）ごとに個別に算出して%表示。従って、合計は100%以上となる。
- 統計図表等に用いた符号は次のとおりである。
－：回答者がいないもの
- （郵送調査に関して）調査結果には、統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。各回答の標本誤差は、各質問での回答者総数（n）と各選択肢の回答率によって異なる。
今回の母集団人口から層化二段無作為抽出として調査した場合の回答結果について、95%以上信頼できる統計的な誤差率の幅は、概略下表のとおり。
（誤差にはその他に、回答者の回答ミスなど計算できない非標本誤差もある。）

各回答の n 比率	10% (又は 90%)	20% (又は 80%)	30% (又は 70%)	40% (又は 60%)	50%
2,312	±1.2	±1.6	±1.9	±2.0	±2.0
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,500	±1.5	±2.0	±2.3	±2.5	±2.5
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4
100	±5.9	±7.8	±9.0	±9.6	±9.8

見方例 …… クロス表で、分析の軸（＝表側）に表示された、あるグループの回答者総数が1,000人で、そのうちある選択肢の回答率が90%なら、その回答率の標本誤差の範囲は+1.9から-1.9%までの間であり、母集団での真実の値は、90%の可能性を最高に、かなりずれたとしても91.9%から88.1%の間におさまる。

- 調査結果の分析においては、全体平均と比べ、統計的に有意差のあるものを中心にふれている。なお、誤差を考慮し、nが50未満のものについてはふれていない場合がある。
- [互いに独立なパーセントの差の検定について]

本報告書では、前回調査（2008年度調査サンプル数=2,215）と今回調査の集計結果を比較し、本文中にグラフと表を掲載している。

その表の中で、前回調査に比べて、今回調査の比率が99%の水準で有意差がある場合は今回調査の比率の横に〔±±〕と表記している。また、95%の水準で有意差がある場合は今回調査の比率の横に〔±〕と表記している。

尚、比較のグラフと表を掲載しているのは、質問文と選択肢が同一の質問項目のみである。

- 本調査で用いた地域ブロック区分は次のとおりである。

	都道府県		都道府県
北海道・東北	北海道	近畿	三重
	青森		滋賀
	岩手		京都
	宮城		大阪
	秋田		兵庫
	山形		奈良
	福島		和歌山
関東	茨城	中国・四国	鳥取
	栃木		島根
	群馬		岡山
	埼玉		広島
	千葉		山口
	東京		徳島
	神奈川		香川
中部・北陸	新潟	九州・沖縄	愛媛
	富山		高知
	石川		福岡
	福井		佐賀
	山梨		長崎
	長野		熊本
	岐阜		大分
	静岡		宮崎
	愛知		鹿児島
	沖縄		

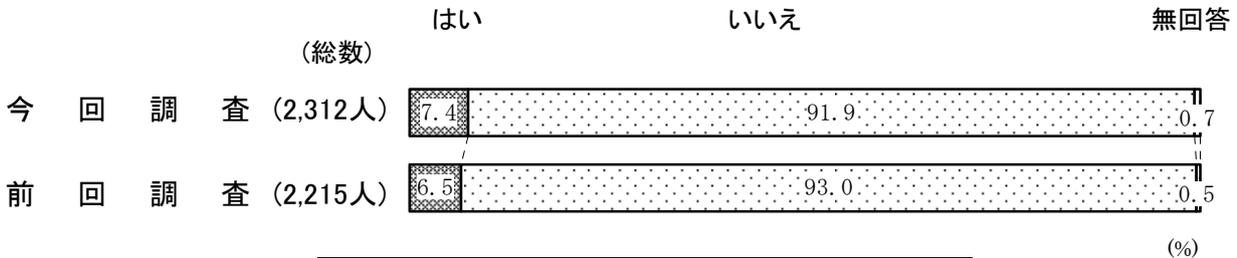
Ⅱ 調査結果の概要

II 調査結果の概要

1 あなたご自身のことについて

(1) 自分自身のがんの経験の有無

問1-4 あなたは、がんを経験されたことはありますか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	7.4	91.9	0.7
前回調査	2215	6.5	93.0	0.5

がんの経験があるかをきいたところ、「はい」が7.4%となっている。

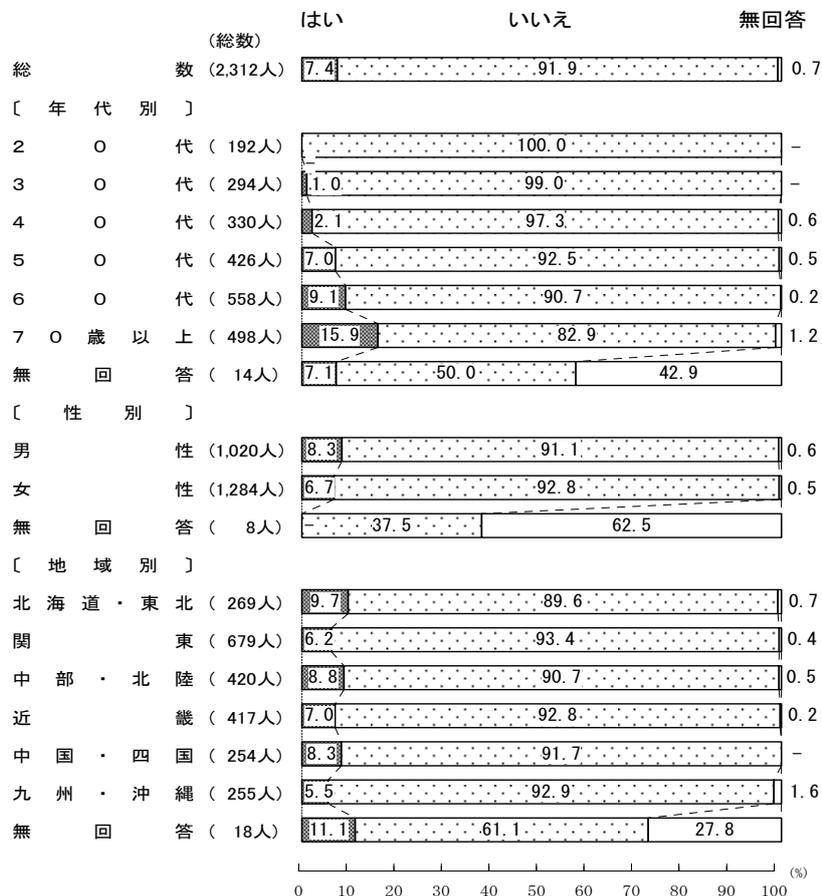
前回調査では、「はい」が6.5%であり、今回とは有意差はみられない。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上では15.9%と高くなっている。

性別、地域別での差はみられない。

<図1-4>

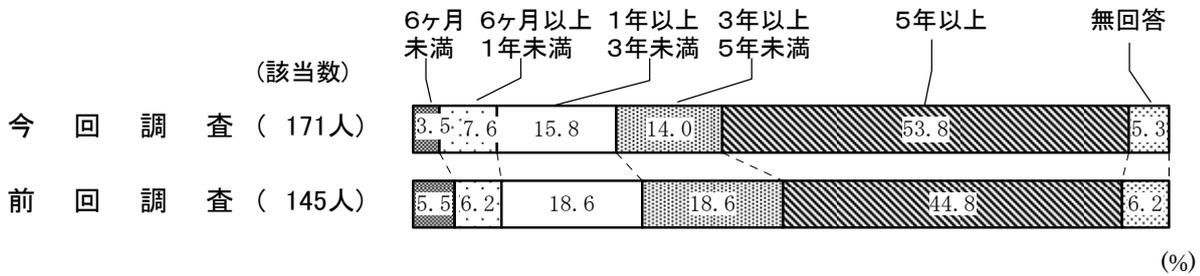
図1-4 自分自身のがんの経験の有無



(1) - 1 一番最初にがんと診断された時期

問1-4 補問1 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)

一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。(〇は1つ)



	該当数	6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
今回調査	171	3.5	7.6	15.8	14.0	53.8	5.3
前回調査	145	5.5	6.2	18.6	18.6	44.8	6.2

がんの経験があると答えた者(171人)に、一番最初にがんと診断されたのは今からどの位前になるかをきいたところ、「6ヶ月未満」(3.5%)と「6ヶ月以上1年未満」(7.6%)を合わせた“1年未満”(11.1%)が1割強となっている。「1年以上3年未満」が15.8%、「3年以上5年未満」が14.0%、「5年以上」が53.8%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「5年以上」が9ポイント高くなっているものの、該当数が少ないために有意差はみられない。

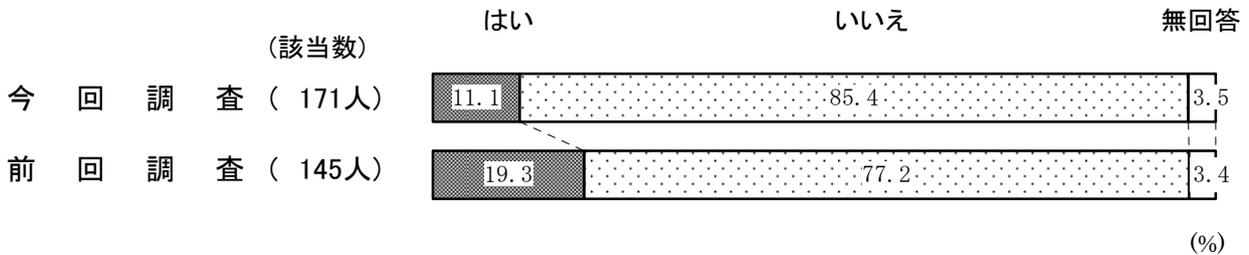
※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

(1) - 2 がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問1-4 補問2 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。

(○は1つ)



	該当数	はい	いいえ	無回答
今回調査	171	11.1	85.4	3.5
前回調査	145	19.3	77.2	3.4

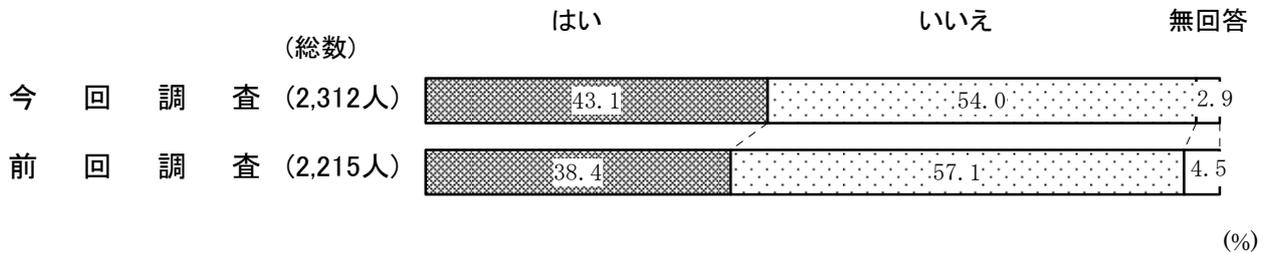
がんの経験があると答えた者(171人)に、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が11.1%、「いいえ」が85.4%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」は19.3%から11.1%に減少し、有意差がみられる。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

(2) 現在の通院状況

問1-5 あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。
(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	43.1++	54.0-	2.9--
前回調査	2215	38.4	57.1	4.5

現在、がん以外の何らかの病気で通院しているかをきいたところ、「はい」が 43.1%、「いいえ」が 54.0%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が5ポイント高くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、60代(54.8%)、70歳以上(71.7%)では過半数を占めている。

性別にみると、「はい」は男性(47.5%)が女性(39.7%)を8ポイント上回っている。

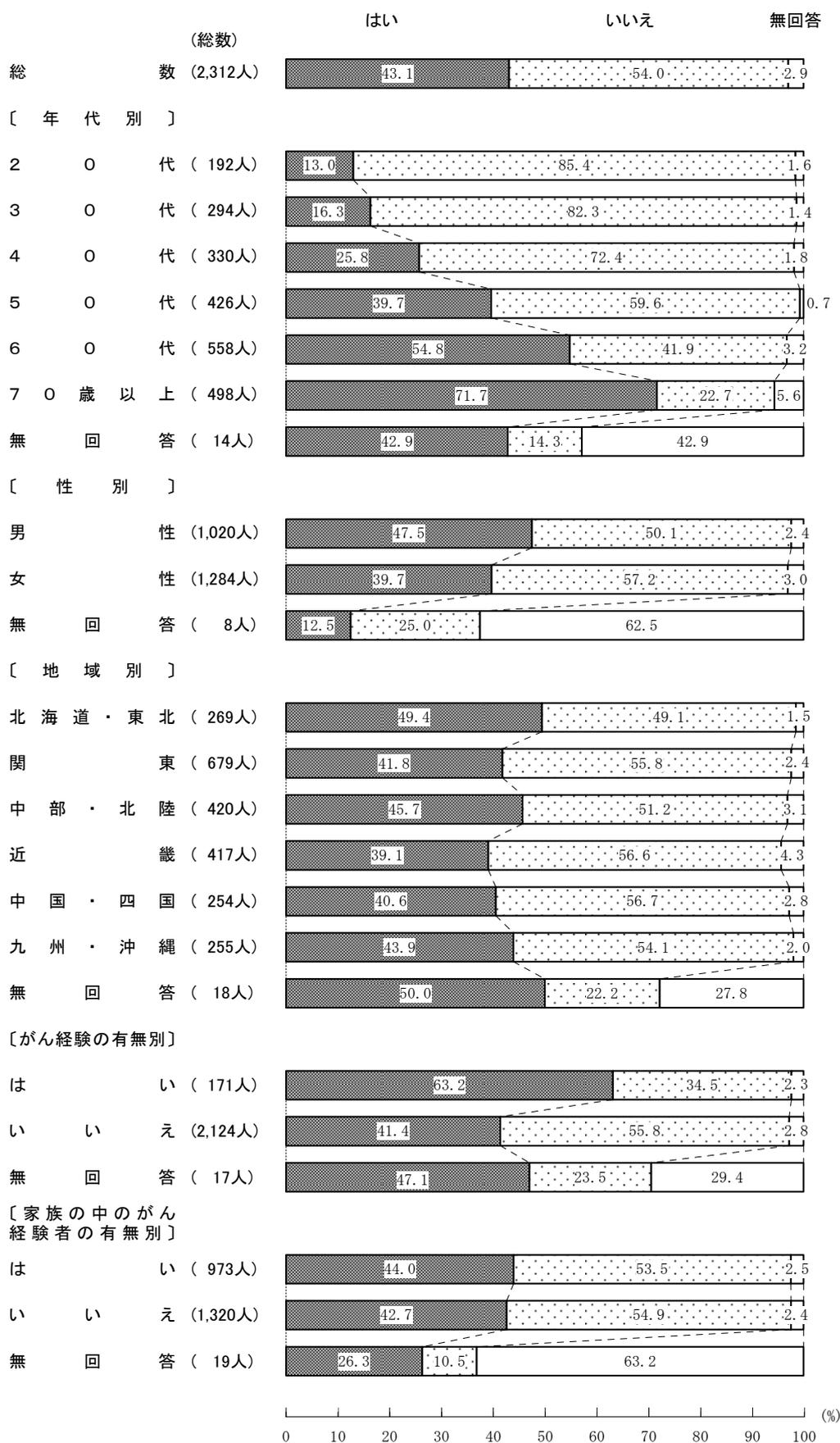
地域別にみると、「はい」が北海道・東北(49.4%)でやや高く、近畿(39.1%)と中国・四国(40.6%)でやや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」は63.2%となっている。

家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

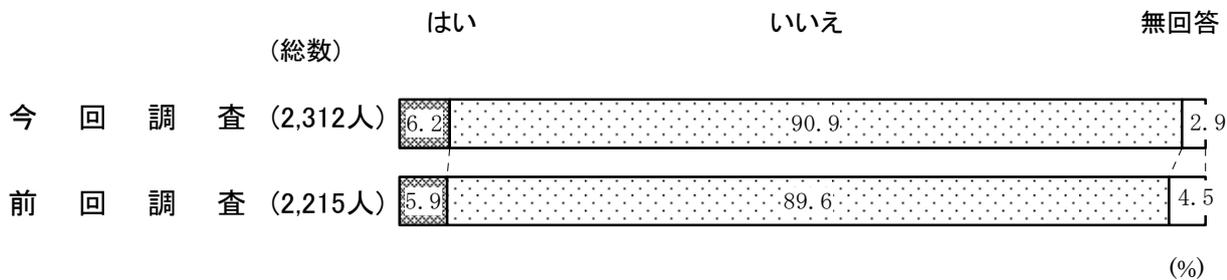
<図1-5>

図 1-5 現在の通院状況



(3) 医療職・非医療職別

問1-6 あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。(〇は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	6.2	90.9	2.9
前回調査	2215	5.9	89.6	4.5

現在、医療職（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）に就いているかをきいたところ、「はい」が6.2%となっている。

前回調査では、「はい」が5.9%で、今回とは有意差はみられない。

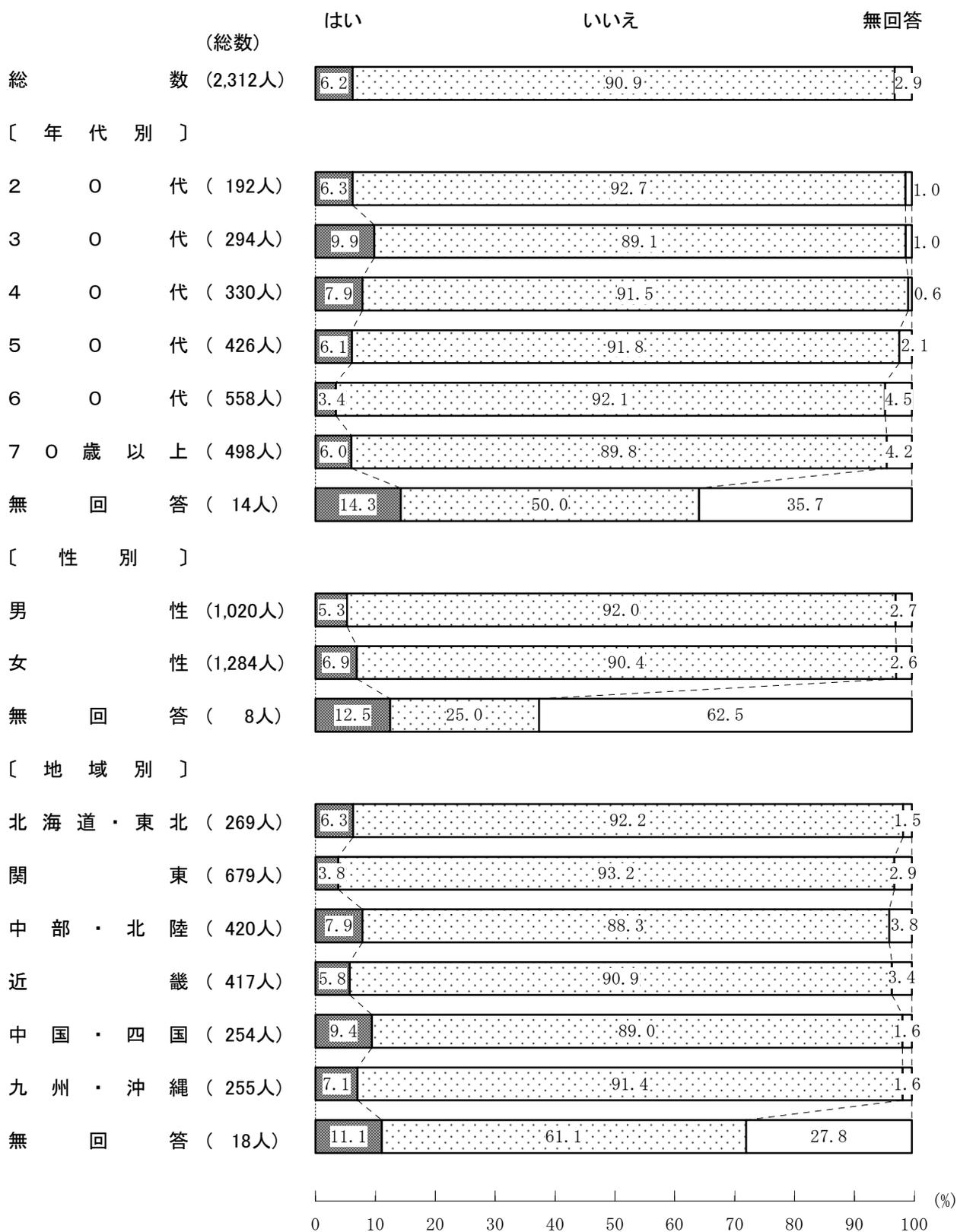
年代別にみると、「はい」は30代(9.9%)でやや高く、60代(3.4%)でやや低くなっている。

性別では大きな差はみられない。

地域別にみると、「はい」は関東(3.8%)でやや低くなっている。

<図1-6>

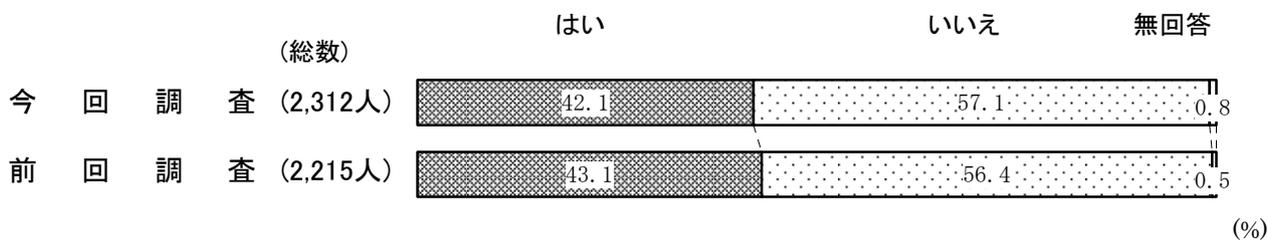
図 1-6 医療職・非医療職別



2 あなたのご家族について

(1) 家族の中のがん経験者の有無

問2-1 あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	42.1	57.1	0.8
前回調査	2215	43.1	56.4	0.5

家族の中のがんの経験者がいるかをきいたところ、「はい」が42.1%、「いいえ」が57.1%となっている。

前回調査では、「はい」が43.1%で、今回とは有意差はみられない。

年代別にみると、「はい」が40代(48.2%)と50代(47.9%)でやや高くなっている。

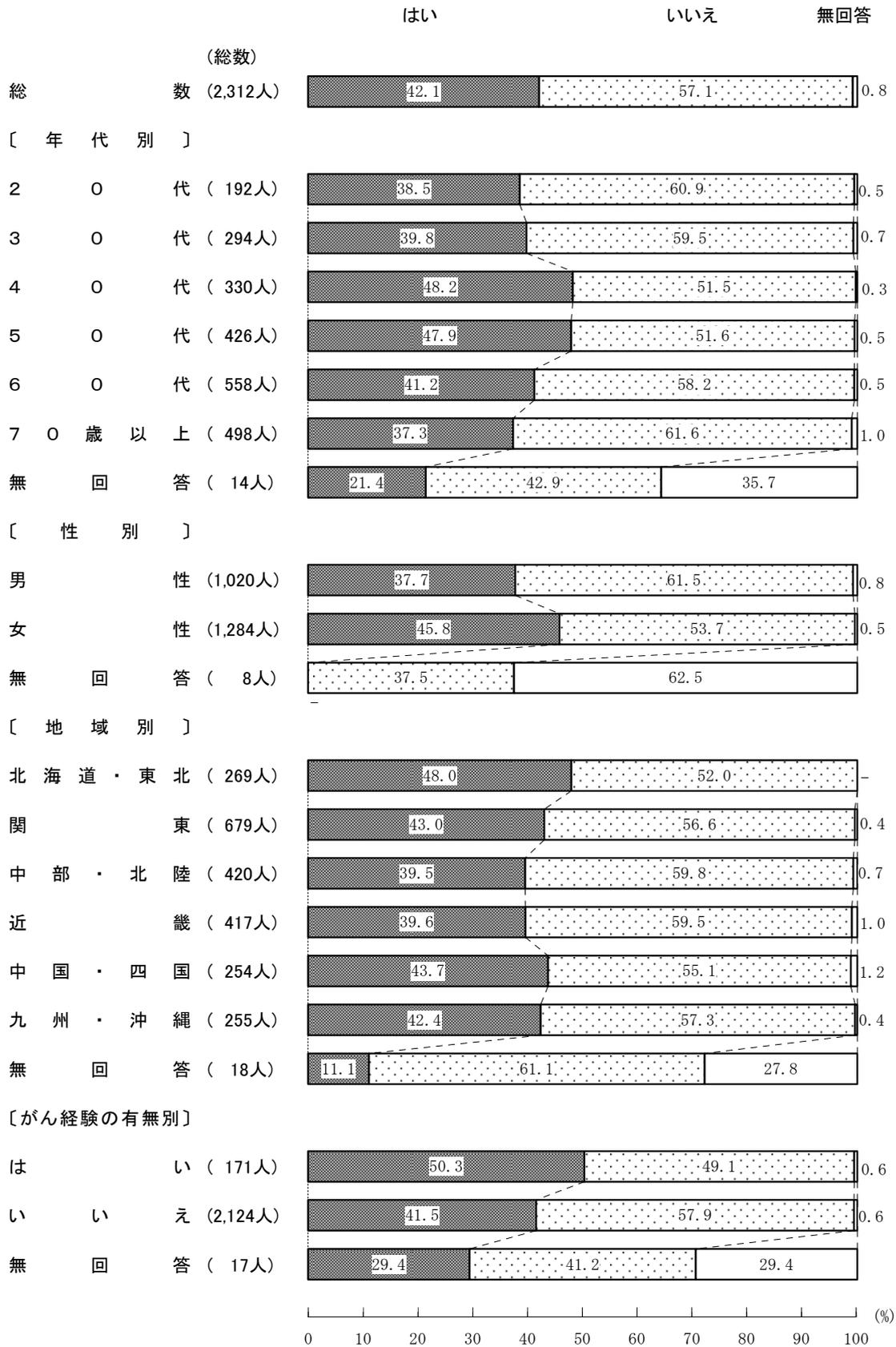
性別にみると、「はい」は女性(45.8%)が男性(37.7%)を8ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」は北海道・東北(48.0%)でやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」が50.3%とほぼ半数を占めている。

<図2-1>

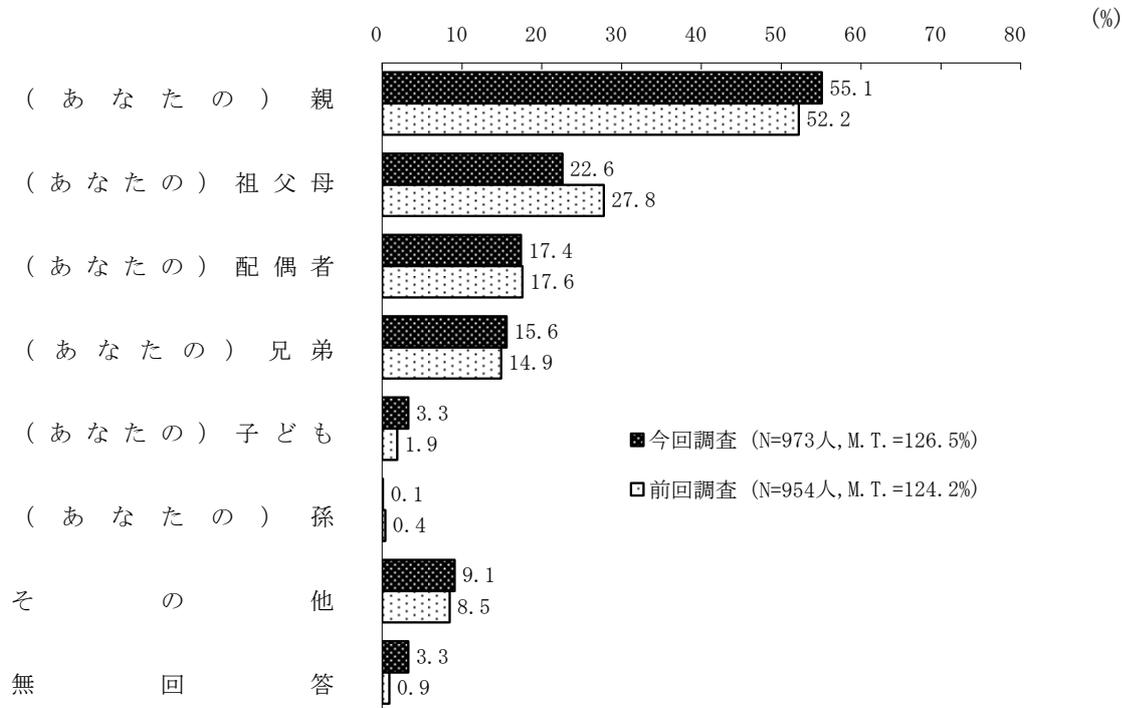
図 2 - 1 家族の中のがん経験者の有無



(1) - 1 家族の中のがん経験者との関係

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
(〇はいくつでも)



	該当数	(あなたの) 配偶者	(あなたの) 子ども	(あなたの) 親	(あなたの) 兄弟	(あなたの) 孫	(あなたの) 祖父母	その他	無回答	回答計
今回調査	973	17.4	3.3	55.1	15.6	0.1	22.6	9.1	3.3	126.5
前回調査	954	17.6	1.9	52.2	14.9	0.4	27.8	8.5	0.9	124.2

家族の中のがんの経験者がいると答えた者(973人)に、その人との関係をきいたところ、「(あなたの) 親」が55.1%で最も高く、以下、「(あなたの) 祖父母」(22.6%)、「(あなたの) 配偶者」(17.4%)、「(あなたの) 兄弟」(15.6%)、「(あなたの) 子ども」(3.3%)、「(あなたの) 孫」(0.1%)の順となっている。

前回調査と比較すると、順位、割合ともに大きな差はみられないものの、「祖父母」の比率が減少しており、有意差がみられる。

年代別にみると、「親」が40代(69.2%)、50代(76.5%)で、「祖父母」が20代(75.7%)、30代(48.7%)で、「配偶者」が70歳以上(42.5%)で、それぞれ高くなっている。

性別にみると、「親」は男性(61.6%)でやや高い。

地域別での差はみられない。

<表2-1-1>

表 2-1-1 家族の中のがん経験者との関係

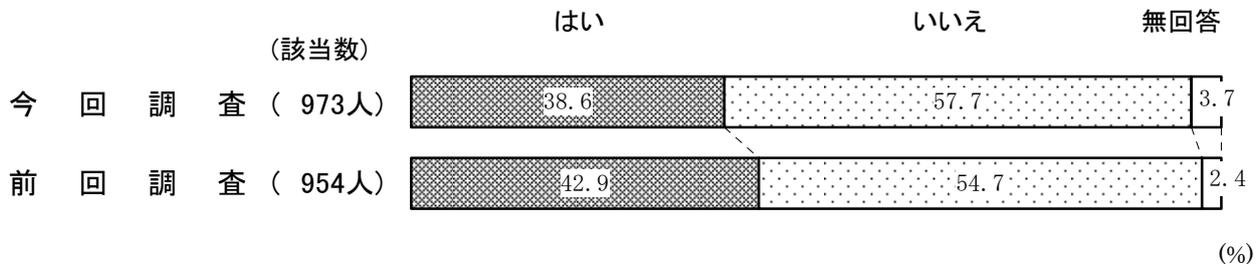
(%)

	該当数	(あなた の) 親	(あなた の) 祖父母	(あなた の) 配偶者	(あなた の) 兄弟	(あなた の) 子ども	(あなた の) 孫	その他	無回答	回答計
総 数	973	55.1	22.6	17.4	15.6	3.3	0.1	9.1	3.3	126.5
問 1-1〔年代別〕										
20代	74	21.6	75.7	1.4	-	-	-	10.8	2.7	112.2
30代	117	47.9	48.7	0.9	1.7	-	-	11.1	6.0	116.2
40代	159	69.2	34.0	3.1	3.1	1.9	-	11.9	3.8	127.0
50代	204	76.5	14.7	11.8	13.7	1.5	-	11.8	2.0	131.9
60代	230	53.9	6.5	25.7	24.8	3.9	-	8.3	2.6	125.7
70歳以上	186	38.2	4.3	42.5	31.7	9.1	0.5	3.2	3.8	133.3
無回答	3	100.0	-	-	33.3	-	-	-	-	133.3
問 1-2〔性別〕										
男性	385	61.6	20.3	15.6	15.1	3.6	-	3.4	3.6	123.1
女性	588	50.9	24.1	18.5	16.0	3.1	0.2	12.9	3.1	128.7
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
問 1-3〔地域別〕										
北海道・東北	129	51.2	26.4	17.8	19.4	2.3	-	12.4	1.6	131.0
関東	292	56.8	22.3	17.1	14.4	2.1	-	8.2	2.7	123.6
中部・北陸	166	54.2	22.9	16.9	16.9	3.6	-	10.2	4.8	129.5
近畿	165	57.6	16.4	18.8	15.2	4.2	-	9.7	4.2	126.1
中国・四国	111	51.4	27.9	19.8	11.7	4.5	0.9	9.9	1.8	127.9
九州・沖縄	108	57.4	23.1	13.9	15.7	4.6	-	4.6	4.6	124.1
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0

(1) - 2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問2-1 補問2 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けた方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)



	該当数	はい	いいえ	無回答
今回調査	973	38.6	57.7	3.7
前回調査	954	42.9	54.7	2.4

家族の中のがんの経験者がいると答えた者(973人)に、その家族の人が、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が38.6%、「いいえ」が57.7%となっている。

自分自身ががんの経験があると答えた者(171人)では、「はい(自分は受けたことがある)」の割合が11.1%であるので、それに比べると、家族の中のがん経験者は「はい(家族は受けたことがある)」の割合がかなり高くなっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が4ポイント低くなっているが、有意差はみられない。

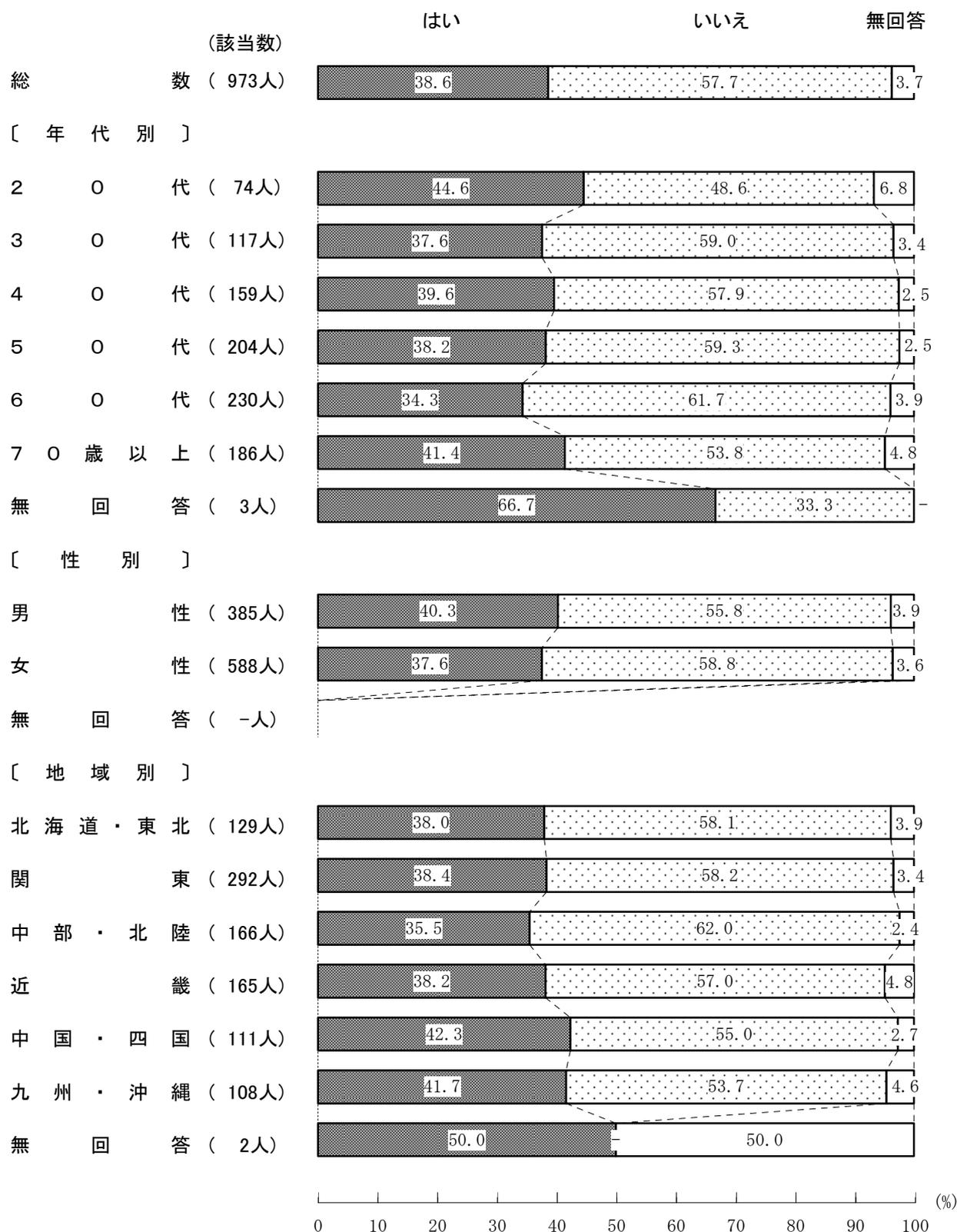
年代別にみると、「はい」は20代(44.6%)と70歳以上(41.4%)でやや高い。

性別では差はみられない。

地域別では大きな差はみられない。

<図2-1-2>

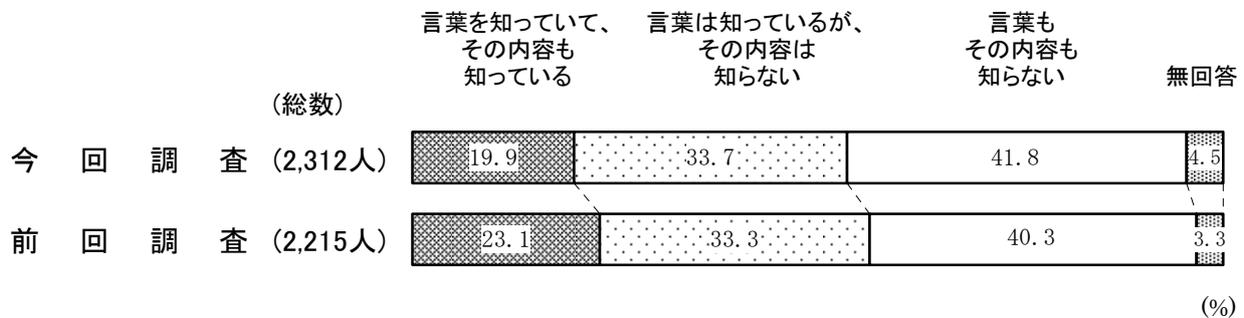
図 2-1-2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無



3 緩和ケアについて

(1) 「緩和ケア」という言葉の認知

問3-1 「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(〇は1つ)



	総数	言葉も内容も知っている	言葉は知っている、内容は知らない	言葉もその内容も知らない	無回答
今回調査	2312	19.9	33.7	41.8	4.5+
前回調査	2215	23.1	33.3	40.3	3.3

緩和ケアという言葉を知っているかをきいたところ、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が19.9%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が33.7%、「言葉もその内容も知らない」が41.8%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「言葉を知っていて、その内容も知っている」が3ポイント低くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」は40代(28.5%)で高く、一方、「言葉もその内容も知らない」は20代(58.9%)で高くなっている。

性別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が女性(23.8%)で高く、「言葉もその内容も知らない」が男性(50.6%)で高くなっている。

地域別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」は中国・四国(26.0%)でやや高くなっている。

がん経験の有無別では、「言葉を知っていて、その内容も知っている」に差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が25.2%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が37.6%、「言葉もその内容も知らない」が33.6%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が25.5%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が37.1%、「言葉もその内容も知らない」が33.2%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

「オレンジバレープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が78.8%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が13.5%、「言葉もその内容も知らない」はわずかに1.9%で、「言葉を知っている」人の割合がかなり高くなっている。

<図3-1(1)、図3-1(2)>

図3-1(1) 「緩和ケア」という言葉の認知

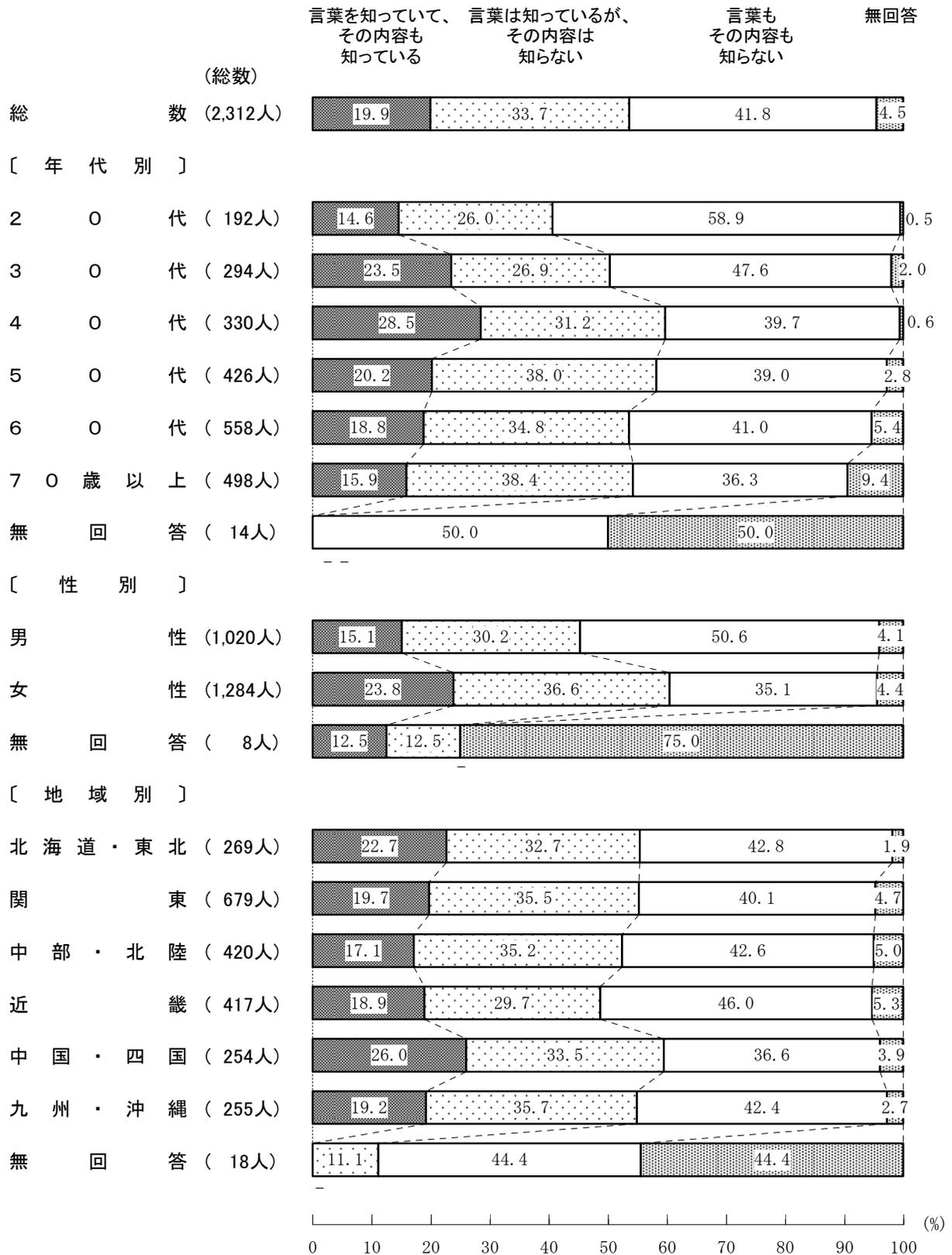
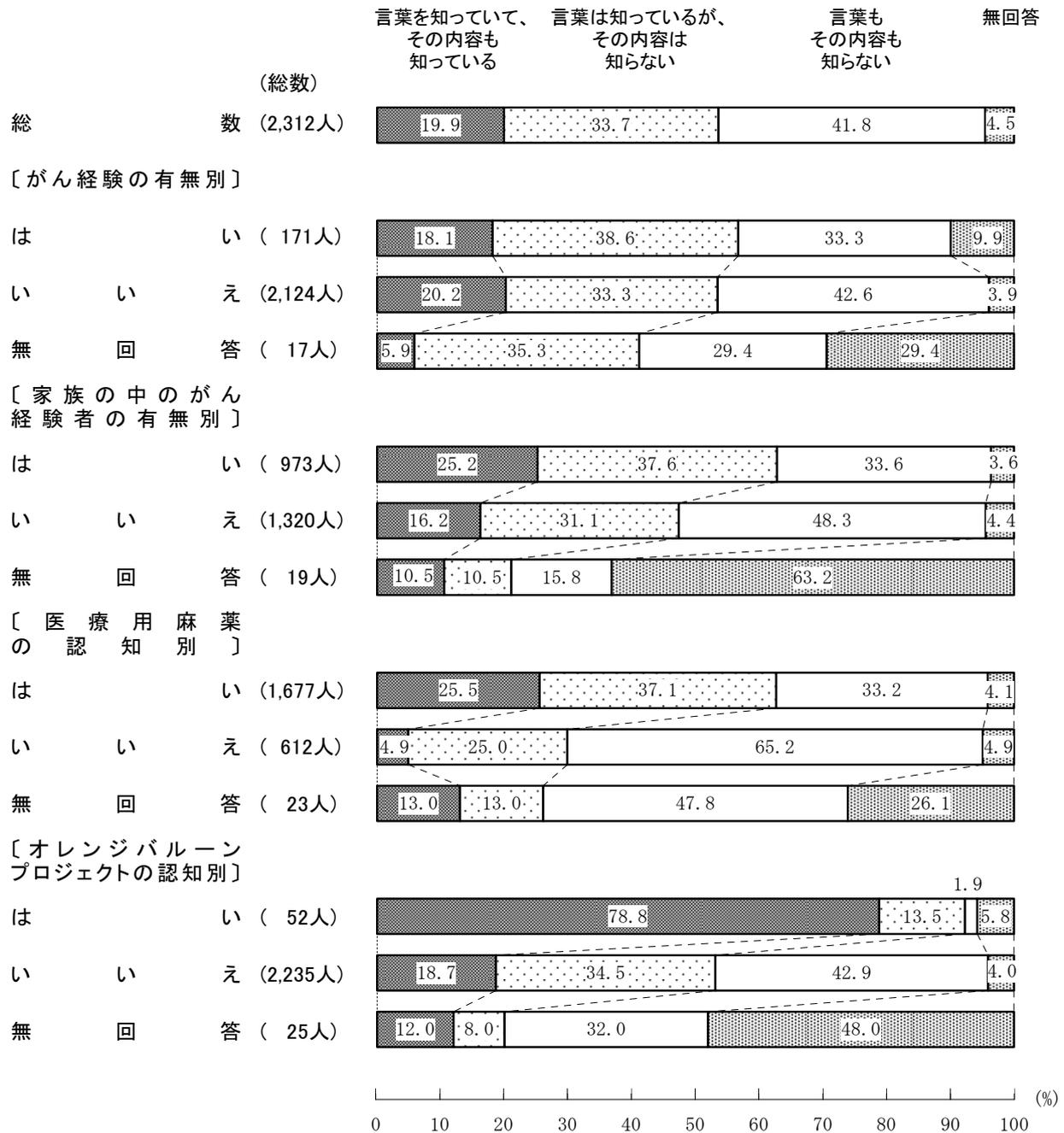
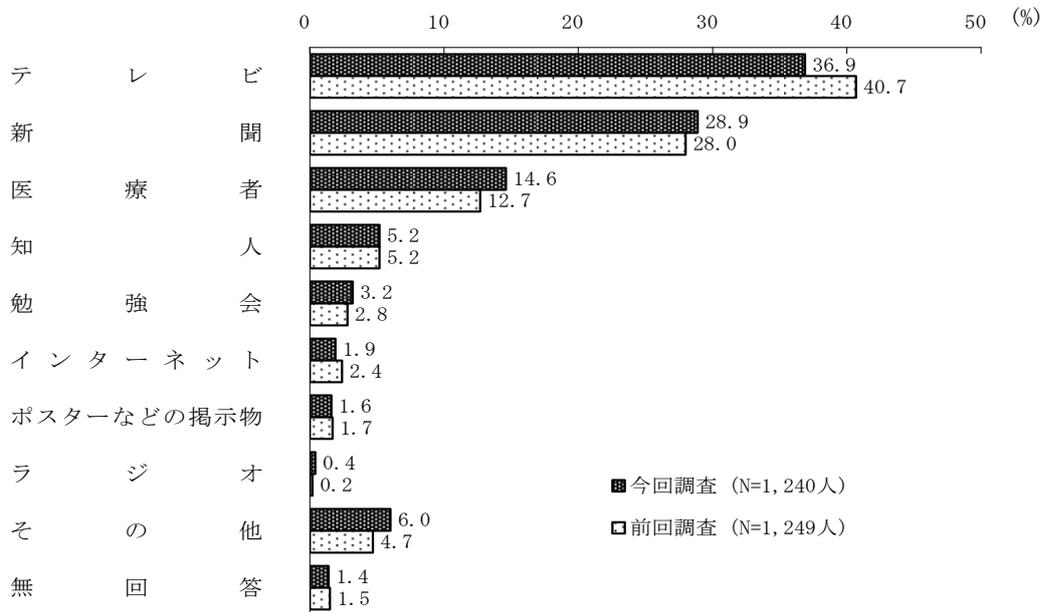


図 3-1 (2) 「緩和ケア」という言葉の認知



(1) - 1 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)
 「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(〇は1つ)



	該当数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
今回調査	1240	1.9	28.9	36.9	0.4	1.6	3.2	14.6	5.2	6.0	1.4
前回調査	1249	2.4	28.0	40.7	0.2	1.7	2.8	12.7	5.2	4.7	1.5

緩和ケアという言葉を知っていると答えた者(1240人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「テレビ」が36.9%で最も高く、次いで「新聞」が28.9%であげられている。以下は、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」(14.6%)、「知人」(5.2%)、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」(3.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、順位、割合ともに、大きな差はなく、有意差はみられない。

年代別にみると、50代までは「テレビ」が最も高い割合を占めているが、60代では「新聞」と「テレビ」の割合が拮抗し、70歳以上では「新聞」(45.2%)が最も高くなっている。

性別にみると、男性は「新聞」と「テレビ」の割合が拮抗し、女性は「テレビ」(38.3%)が最も高くなっている。

地域別にみると、すべての地域で「テレビ」が最も高い割合を占めている。「新聞」は関東(33.1%)での割合が最も高い。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「医療者」の割合が比較的高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」人は医療者(28.4%)の割合が高く、「その内容は知らない」人は「テレビ」(42.5%)の割合が高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「医療者」(35.4%)が最も高い割合を占めている。

<図3-1-1(1)、図3-1-1(2)>

図3-1-1 (1) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

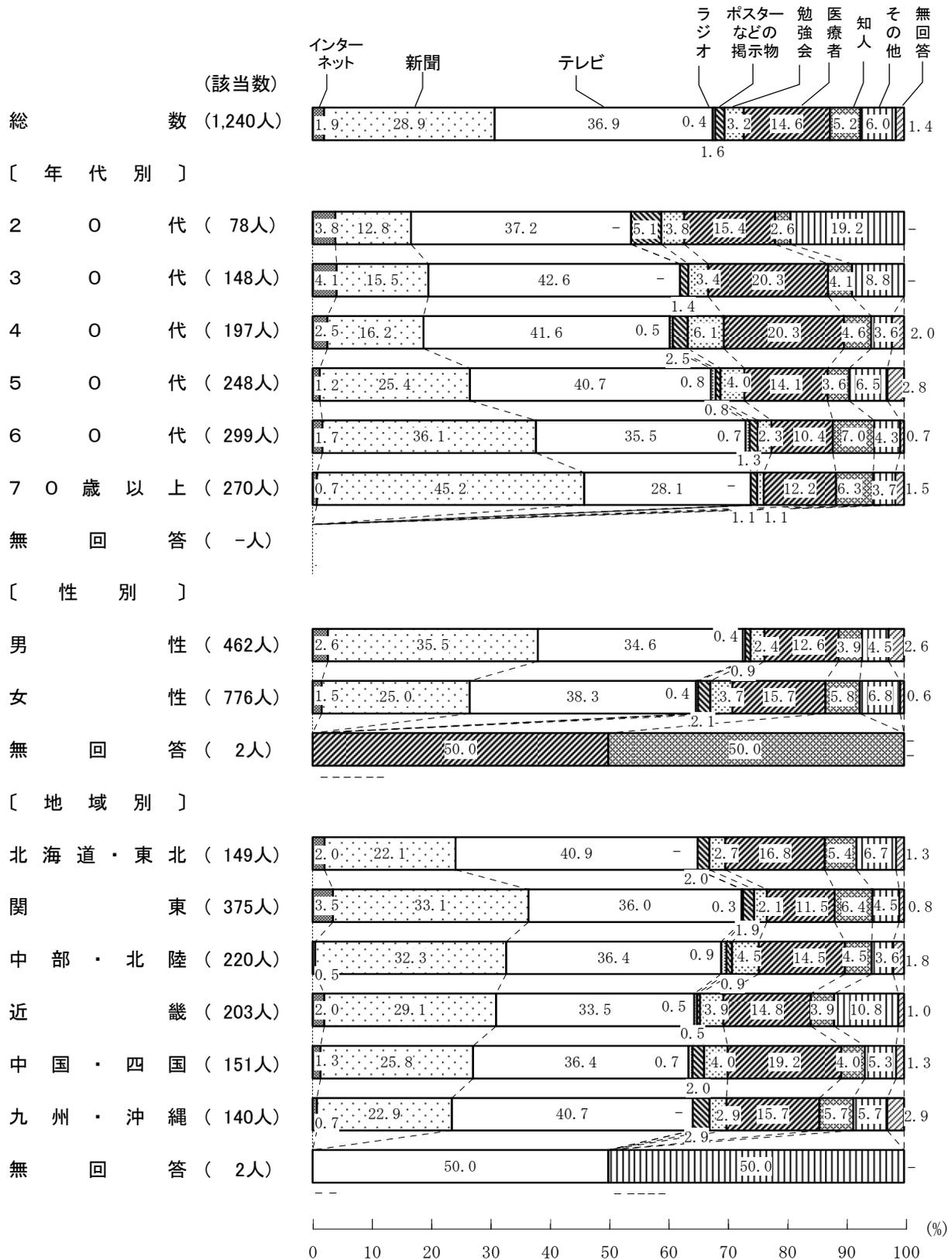
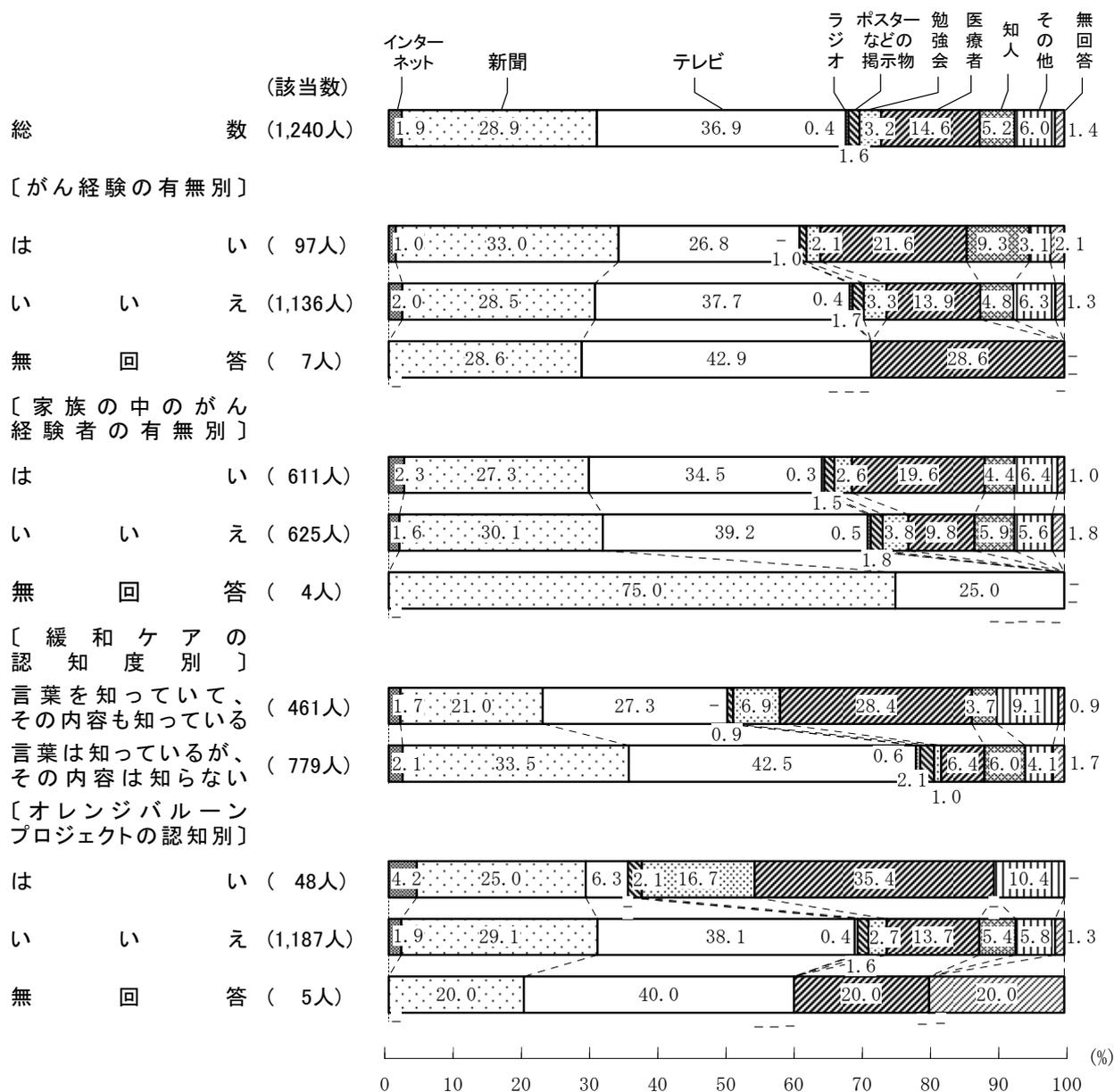
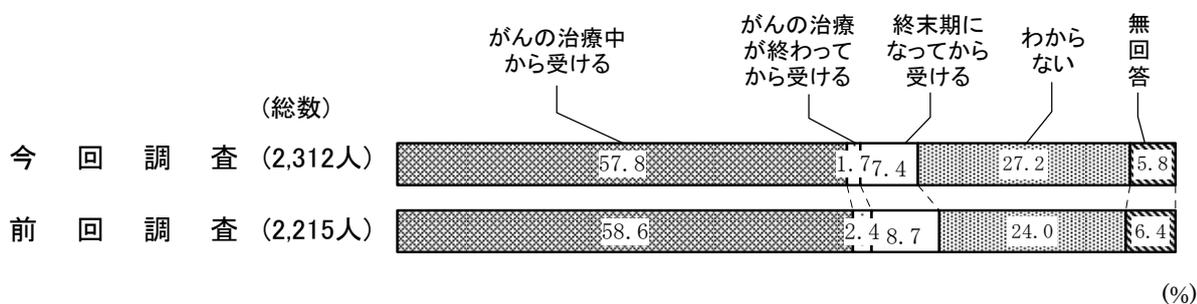


図3-1-1(2) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路



(2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

問3-2 「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
 「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は1つ）



	総数	がんの治療中から受ける	がんの治療が終わってから受ける	終末期になってから受ける	わからない	無回答
今回調査	2312	57.8	1.7	7.4	27.2+	5.8
前回調査	2215	58.6	2.4	8.7	24.0	6.4

緩和ケアを受ける時期についてどのように考えるかをきいたところ、「がんの治療中から受ける」（57.8%）が最も高く、ほぼ6割を占めている。「がんの治療が終わってから受ける」が1.7%、「終末期になってから受ける」が7.4%である。また、「わからない」が27.2%で、「無回答」（5.8%）と合わせると3人に1人の割合となっている。

前回調査と比較すると、ほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「がんの治療中から受ける」は30代から50代では7割前後と高くなっている。

性別にみると、「がんの治療中から受ける」は女性（63.8%）が男性（50.2%）を14ポイント上回っている。

地域別にみると、いずれの地域でも「がんの治療中から受ける」が過半数を占めており、特に関東（62.9%）で高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が全体平均より約9ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が61.7%を占めて高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「がんの治療中から受ける」と「終末期になってから受ける」の割合がともに高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が62.3%を占めて高くなっている。

「オレンジバレープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」（73.1%）が7割以上を占めている。

<図3-2 (1)、図3-2 (2)>

図3-2(1) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

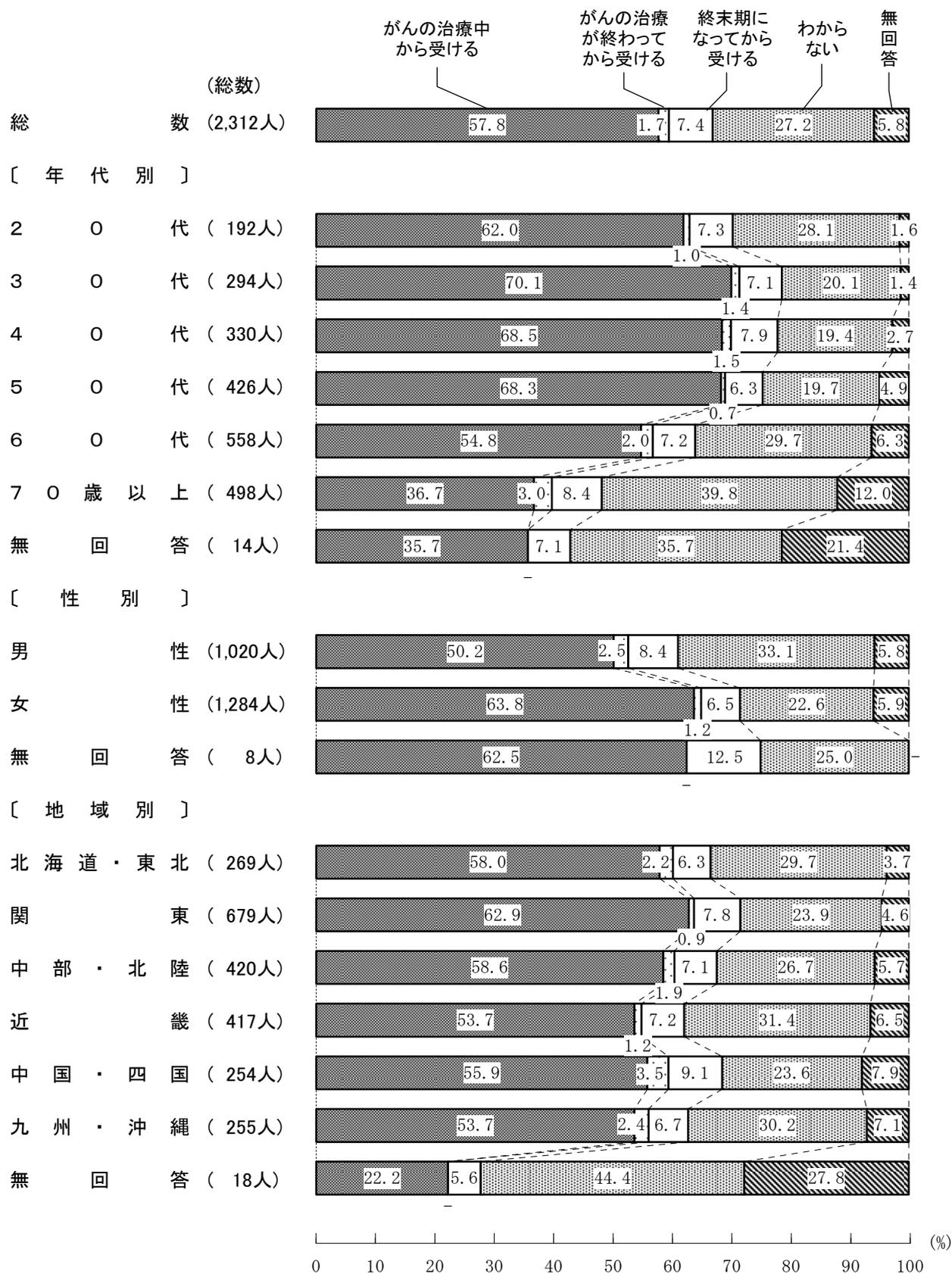
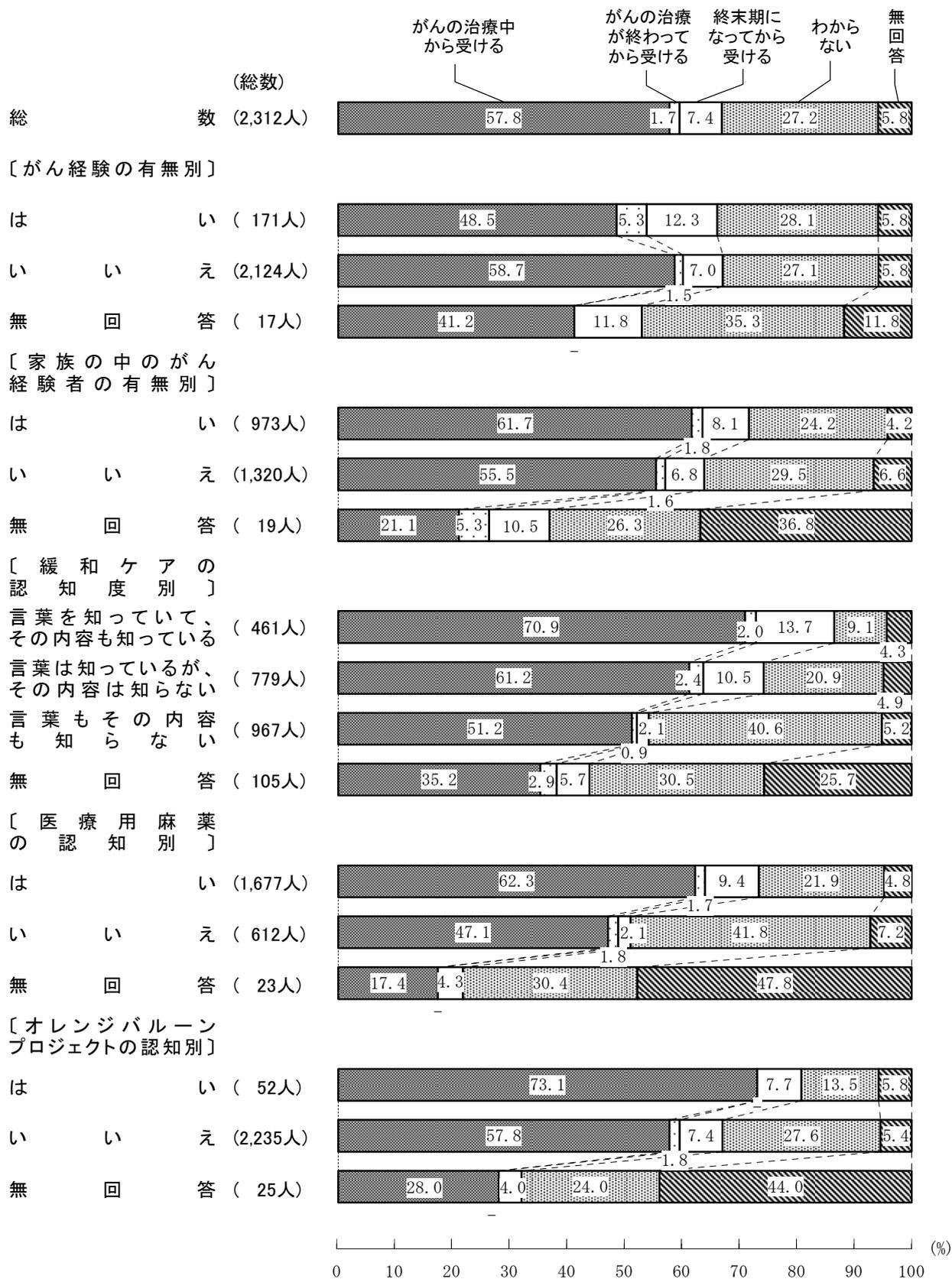
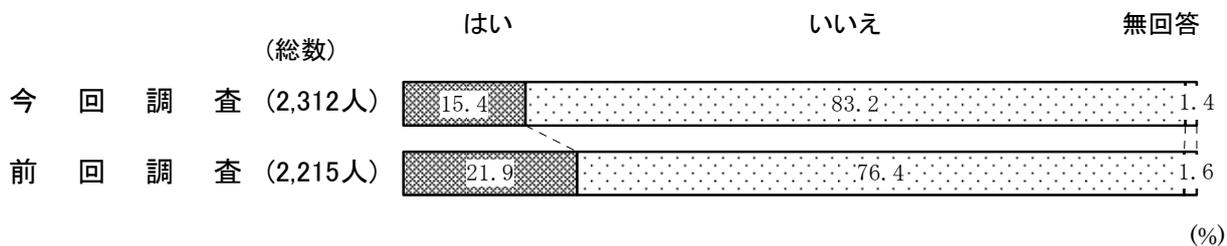


図3-2 (2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識



(3) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

問3-3 お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。(〇は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	15.4	83.2	1.4
前回調査	2215	21.9	76.4	1.6

居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っているかをきいたところ、「はい」が 15.4%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が7ポイント低くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、「はい」は40代(18.8%)で最も高く、20代(9.4%)で最も低い。

性別にみると、「はい」は女性(17.4%)が男性(12.6%)を5ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」は中国・四国(22.0%)でやや高く、関東(11.9%)でやや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」は19.9%である。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」は21.1%である。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている”人では46.9%と5割近くを占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が19.5%と全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が53.8%と高くなっている。

<図3-3(1)、図3-3(2)>

図 3-3 (1) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

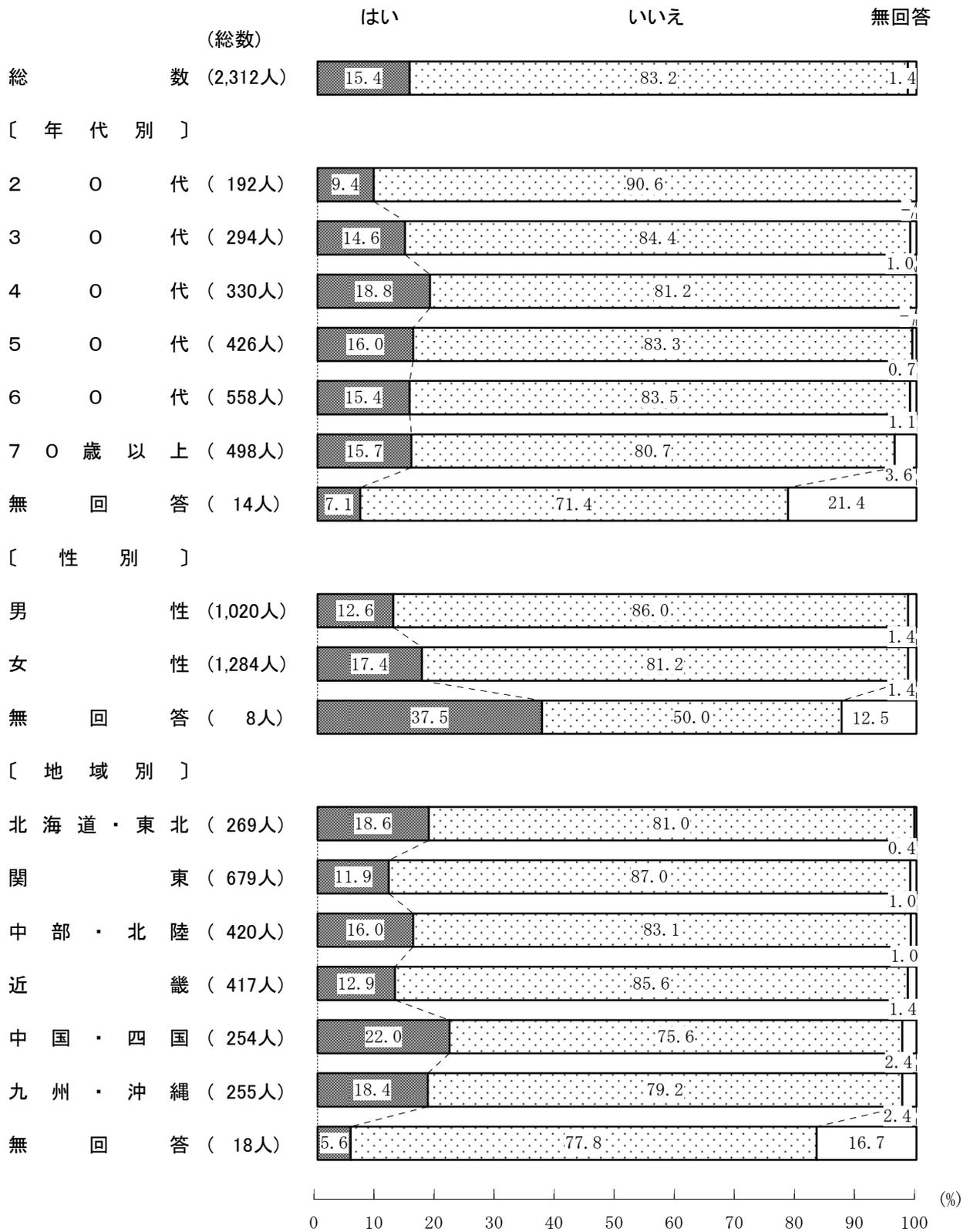
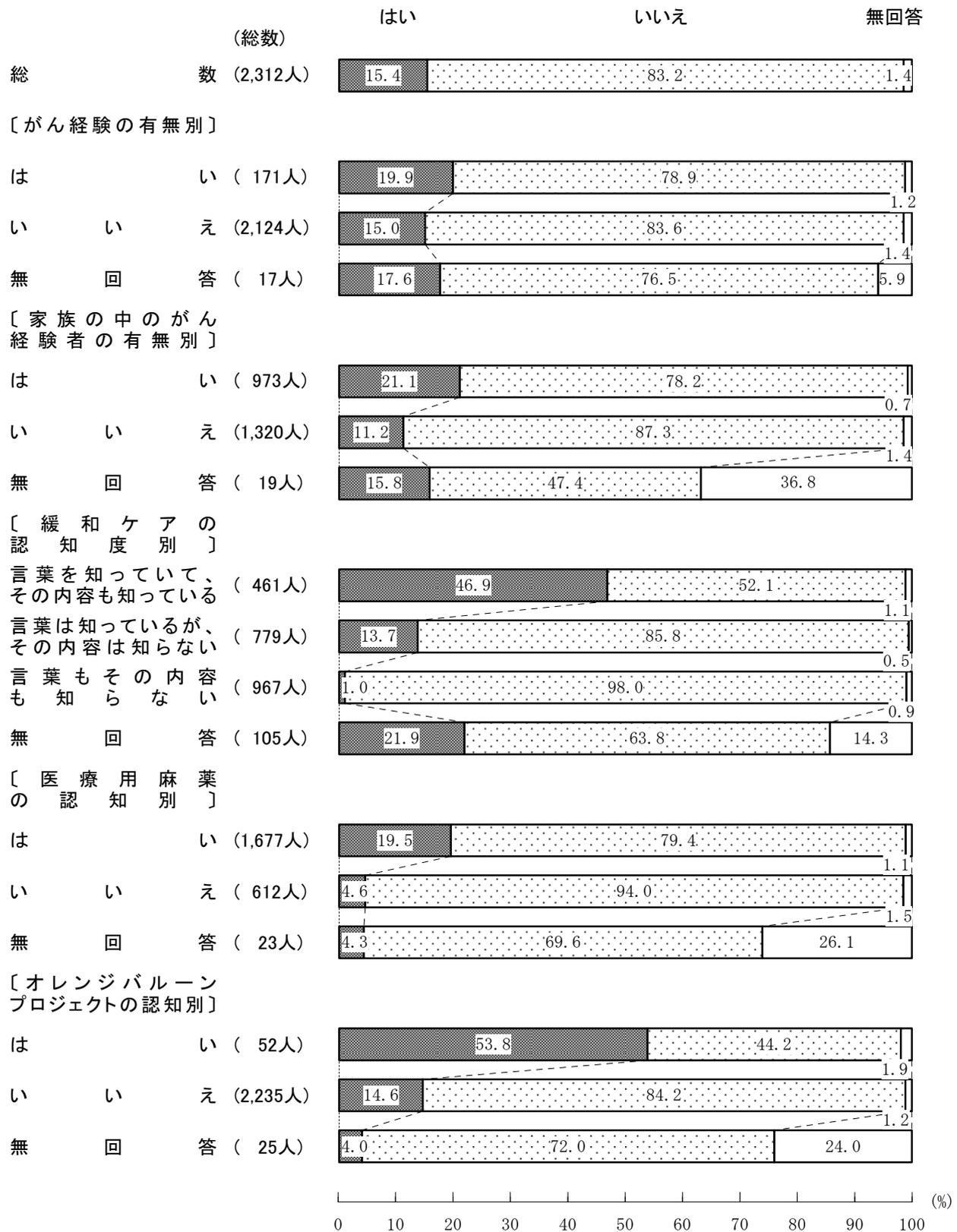


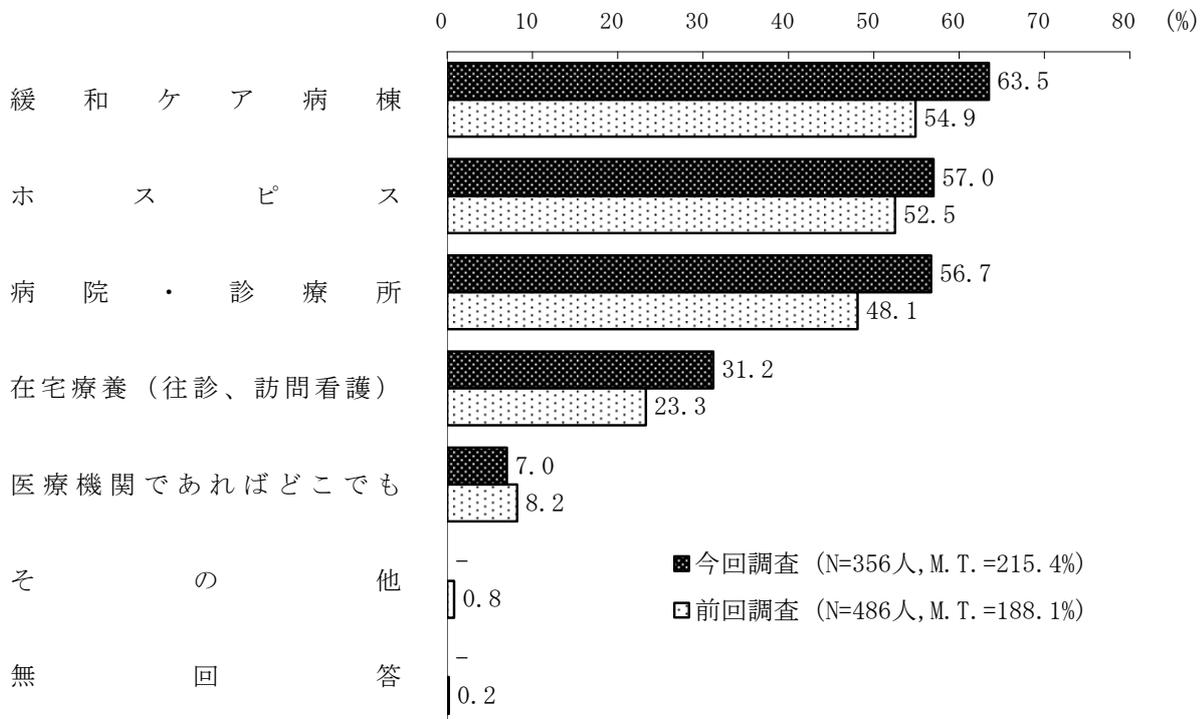
図3-3 (2) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知



(3) - 1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

問3-3 補問1 (問3-3で1「はい」をお選びの方に)

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。(〇はいくつでも)



	該当数	病院・診療所	緩和ケア病棟	ホスピス	在宅療養 (往診、訪問看護)	医療機関であればどこでも	その他	無回答	回答計
今回調査	356	56.7+	63.5+	57.0	31.2+	7.0	-	-	215.4
前回調査	486	48.1	54.9	52.5	23.3	8.2	0.8	0.2	188.1

居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っていると答えた者(356人)に、「緩和ケア」が受けられると思う場所をきいたところ、「緩和ケア病棟」が63.5%で最も高く、次いで「ホスピス」(57.0%)、「病院・診療所」(56.7%)、「在宅療養(往診、訪問看護)」(31.2%)の順であり、「医療機関であればどこでも」は7.0%となっている。

前回調査と比較すると、「緩和ケア病棟」が9ポイント、「病院・診療所」が9ポイント、「在宅療養(往診、訪問看護)」が8ポイント、それぞれ今回の割合が高くなっており、有意差がみられる。

性別にみると、男性が「病院・診療所」(62.8%)、「緩和ケア病棟」(58.9%)、「ホスピス」(47.3%)の順であるのに対し、女性では「緩和ケア病棟」(66.5%)、「ホスピス」(62.9%)、「病院・診療所」(53.6%)と上位3項目の順位に違いがみられる。

<表3-3-1>

※ 年代別は、各年代ともサンプル数が少ないため、クロス集計表のみ記載。分析記述はなし。

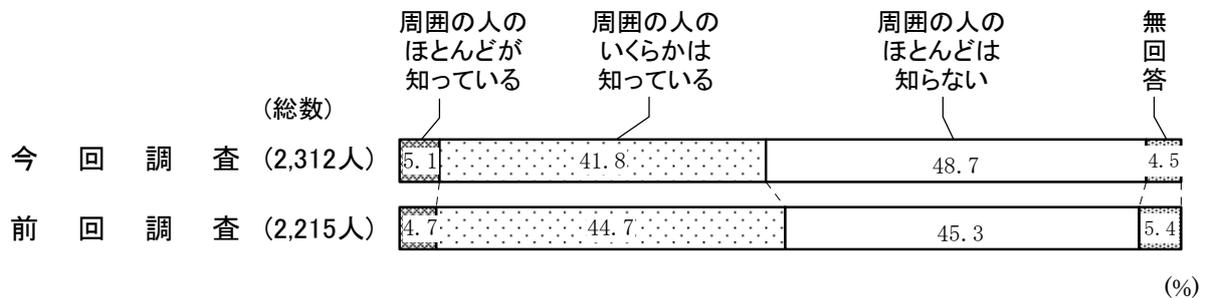
表 3-3-1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

(%)

	該当数	緩和ケア 病棟	ホスピス	病院・ 診療所	在宅療養 (往診、 訪問 看護)	医療機関 であれば どこでも	その他	無回答	回答計
総 数	356	63.5	57.0	56.7	31.2	7.0	-	-	215.4
問 1-1 [年代別]									
20代	18	77.8	50.0	83.3	44.4	5.6	-	-	261.1
30代	43	65.1	72.1	62.8	51.2	7.0	-	-	258.1
40代	62	74.2	71.0	56.5	38.7	8.1	-	-	248.4
50代	68	63.2	67.6	52.9	30.9	1.5	-	-	216.2
60代	86	66.3	53.5	50.0	24.4	7.0	-	-	201.2
70歳以上	78	48.7	33.3	59.0	19.2	11.5	-	-	171.8
無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
問 1-2 [性別]									
男性	129	58.9	47.3	62.8	24.0	8.5	-	-	201.6
女性	224	66.5	62.9	53.6	35.7	6.3	-	-	225.0
無回答	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	100.0

(4) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

問3-4 あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(○は1つ)



	総数	周囲の人のほとんどが知っている	周囲の人のいくらかは知っている	周囲の人のほとんどは知らない	無回答
今回調査	2312	5.1	41.8	48.7+	4.5
前回調査	2215	4.7	44.7	45.3	5.4

自分の周囲の人は「緩和ケア」という言葉を知っているかをきいたところ、「周囲の人のほとんどが知っている」が5.1%、「周囲の人のいくらかは知っている」が41.8%、「周囲の人のほとんどは知らない」が48.7%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「周囲の人のほとんどが知っている」がほぼ同率で、「周囲の人のいくらかは知っている」が3ポイント低く、有意差はみられないが、「周囲の人のほとんどは知らない」は3ポイント高く、有意差がみられる。

年代別にみると、「周囲の人のほとんどは知らない」が20代(56.8%)と30代(57.1%)で高くなっている。

性別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」では男女差はみられないが、「周囲の人のいくらかは知っている」が女性(45.0%)で、「周囲の人のほとんどは知らない」が男性(52.5%)で、それぞれ高くなっている。

地域別にみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が中国・四国(50.4%)で高くなっている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が半数近くを占めやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲の人のほとんどが知っている」、「周囲の人のいくらかは知っている」の割合が高くなっている。“その内容も知っている”人では、「周囲の人のほとんどが知っている」が15.4%、「周囲の人のいくらかは知っている」が68.3%を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」(48.9%)がほぼ5割に達している。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲の人のほとんどが知っている」が21.2%、「周囲の人のいくらかは知っている」が55.8%を占め、高くなっている。

<図3-4(1)、図3-4(2)>

図3-4 (1) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

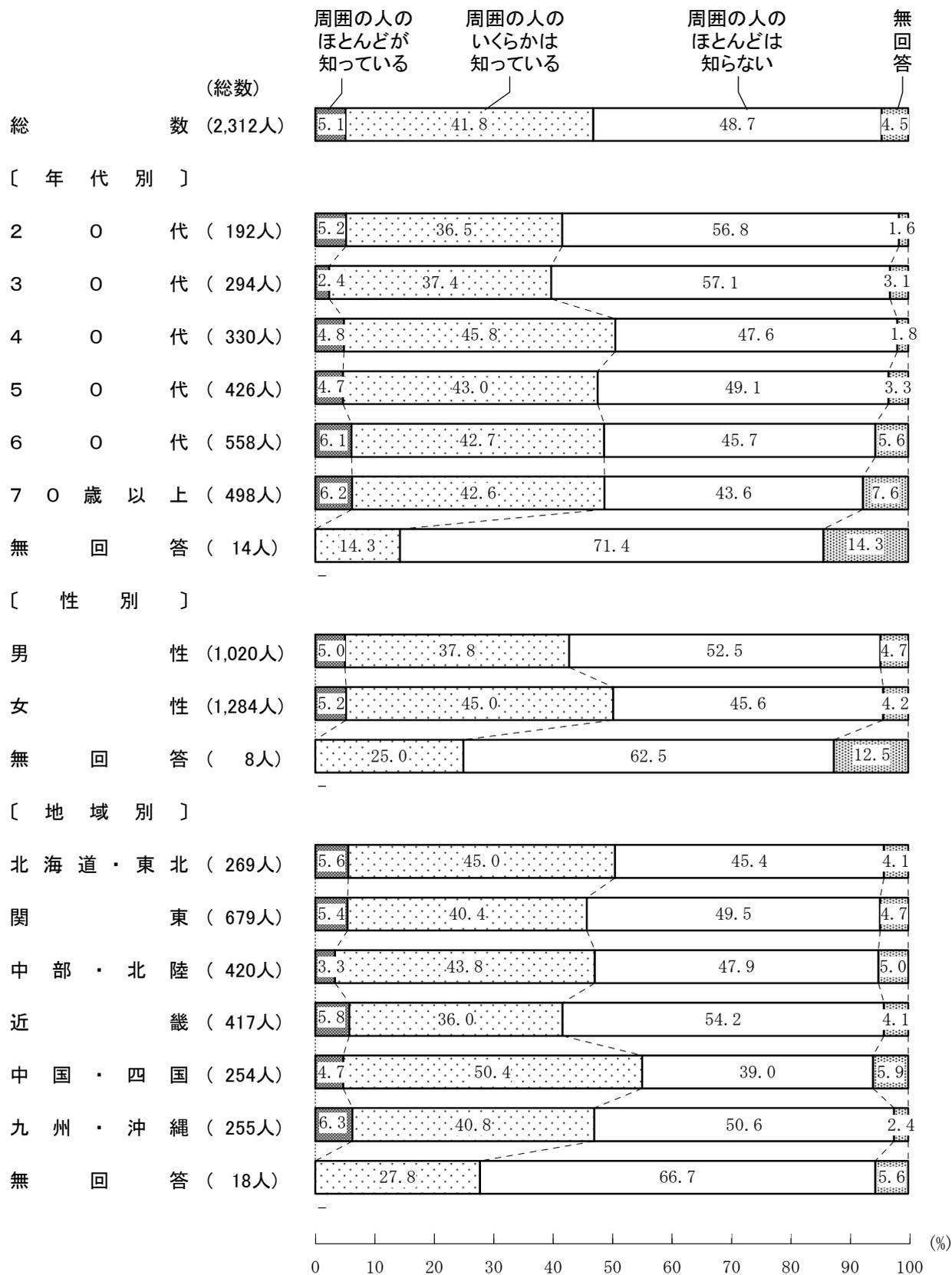
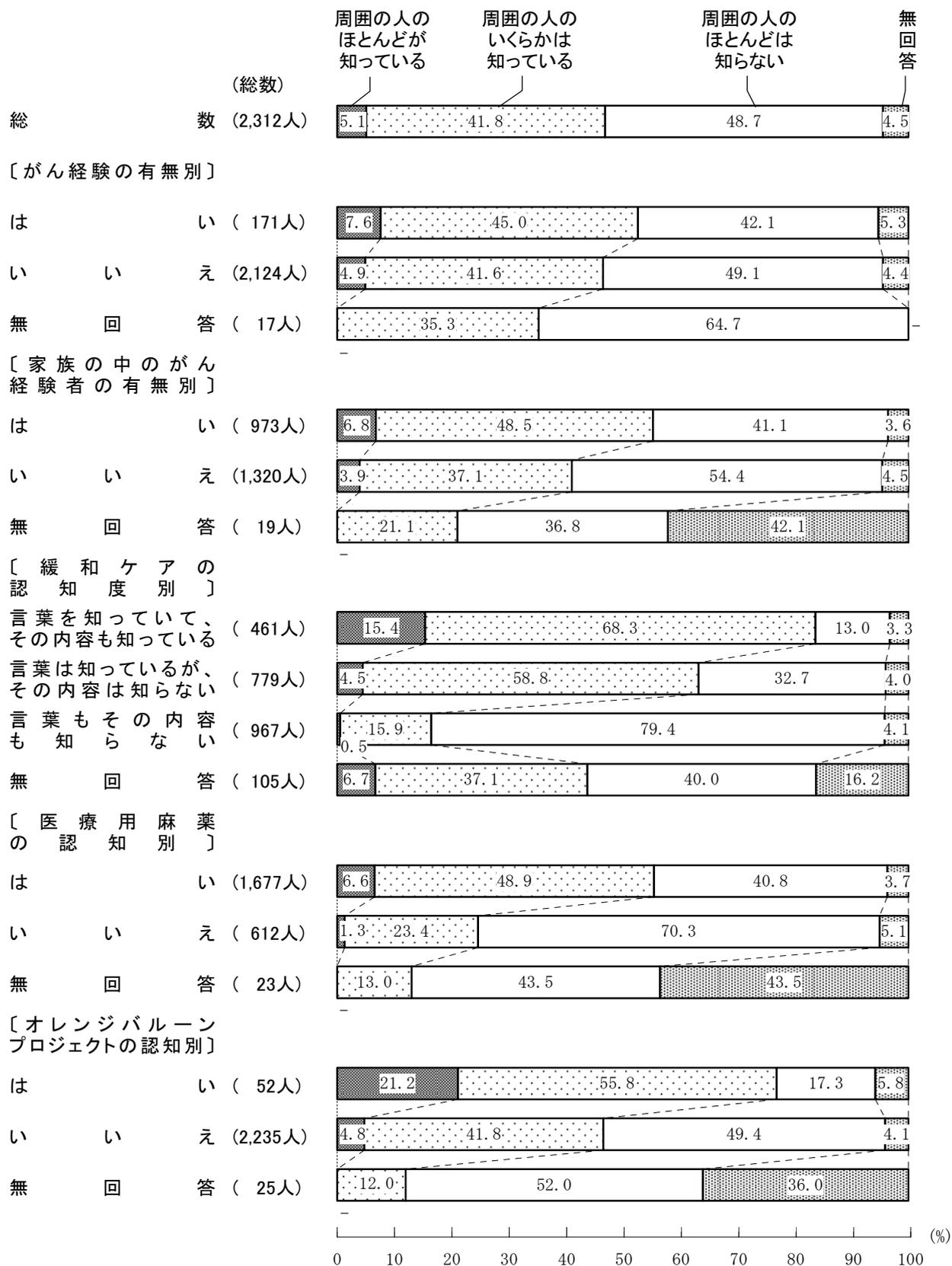
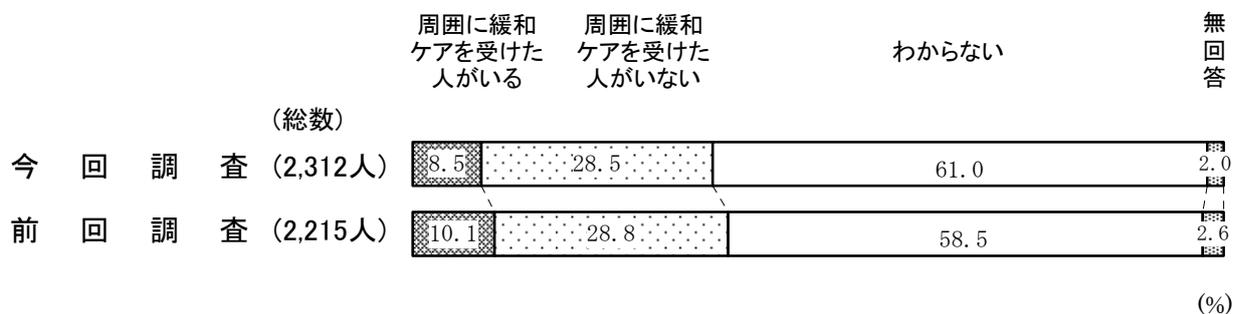


図3-4 (2) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知



(5) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

問3-5 あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。(○は1つ)



(%)

	総数	周囲に緩和ケアを受けた人がある	周囲に緩和ケアを受けた人がいない	わからない	無回答
今回調査	2312	8.5	28.5	61.0	2.0
前回調査	2215	10.1	28.8	58.5	2.6

自分の周囲で「緩和ケア」を実際に受けた人がいるかをきいたところ、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が8.5%、「周囲に緩和ケアを受けた人がいない」が28.5%である。また、「わからない」(61.0%)が6割を占めている。

前回調査と比較すると、いずれの項目もほとんど差はなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」の割合は40代(10.0%)、50代(10.3%)、60代(9.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」の割合は、女性(10.0%)が男性(6.5%)よりやや高くなっている。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」が13.6%で、やや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」は11.2%で全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がある」が23.1%と高くなっている。

<図3-5 (1)、図3-5 (2)>

図3-5 (1) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

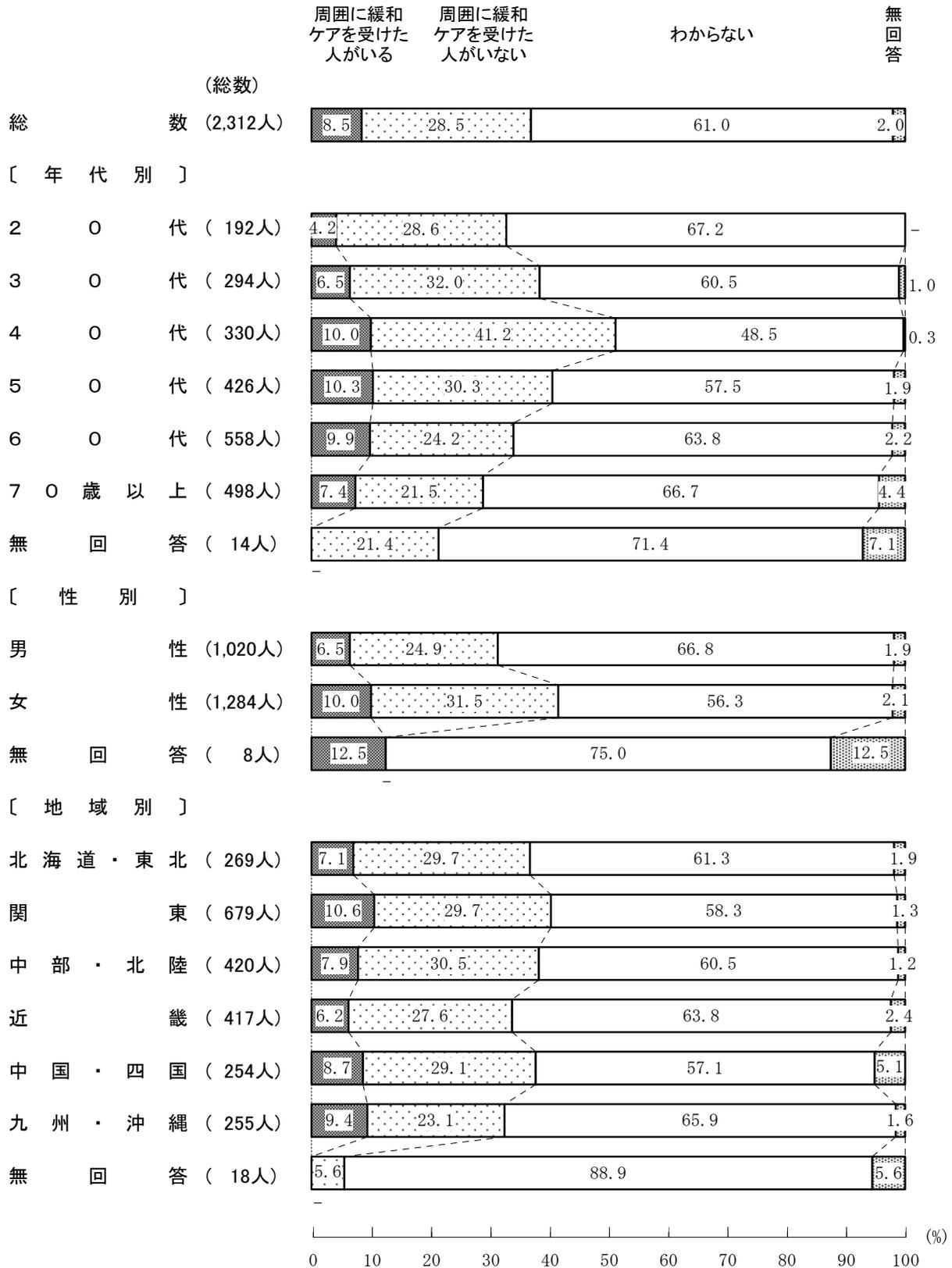
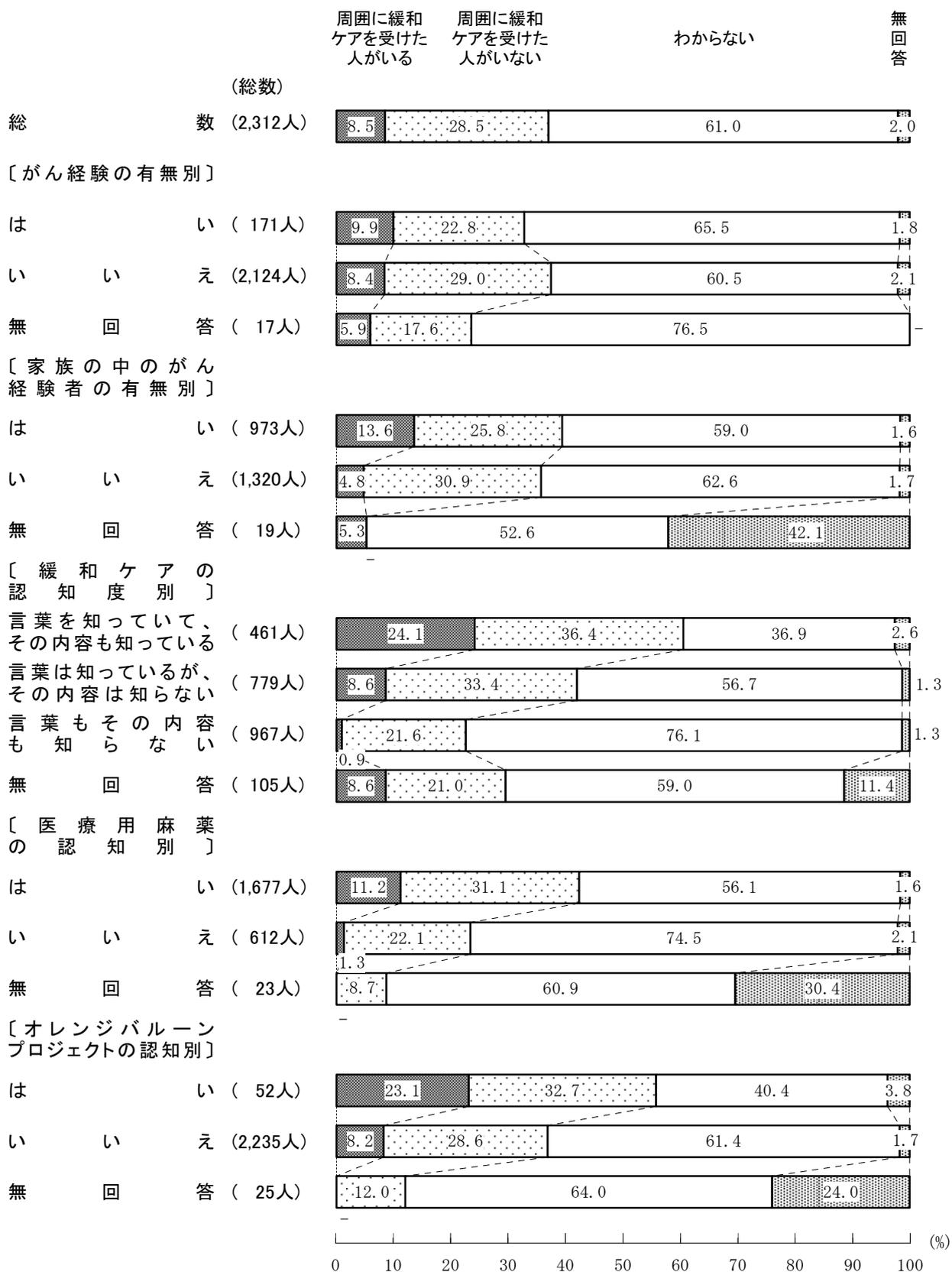


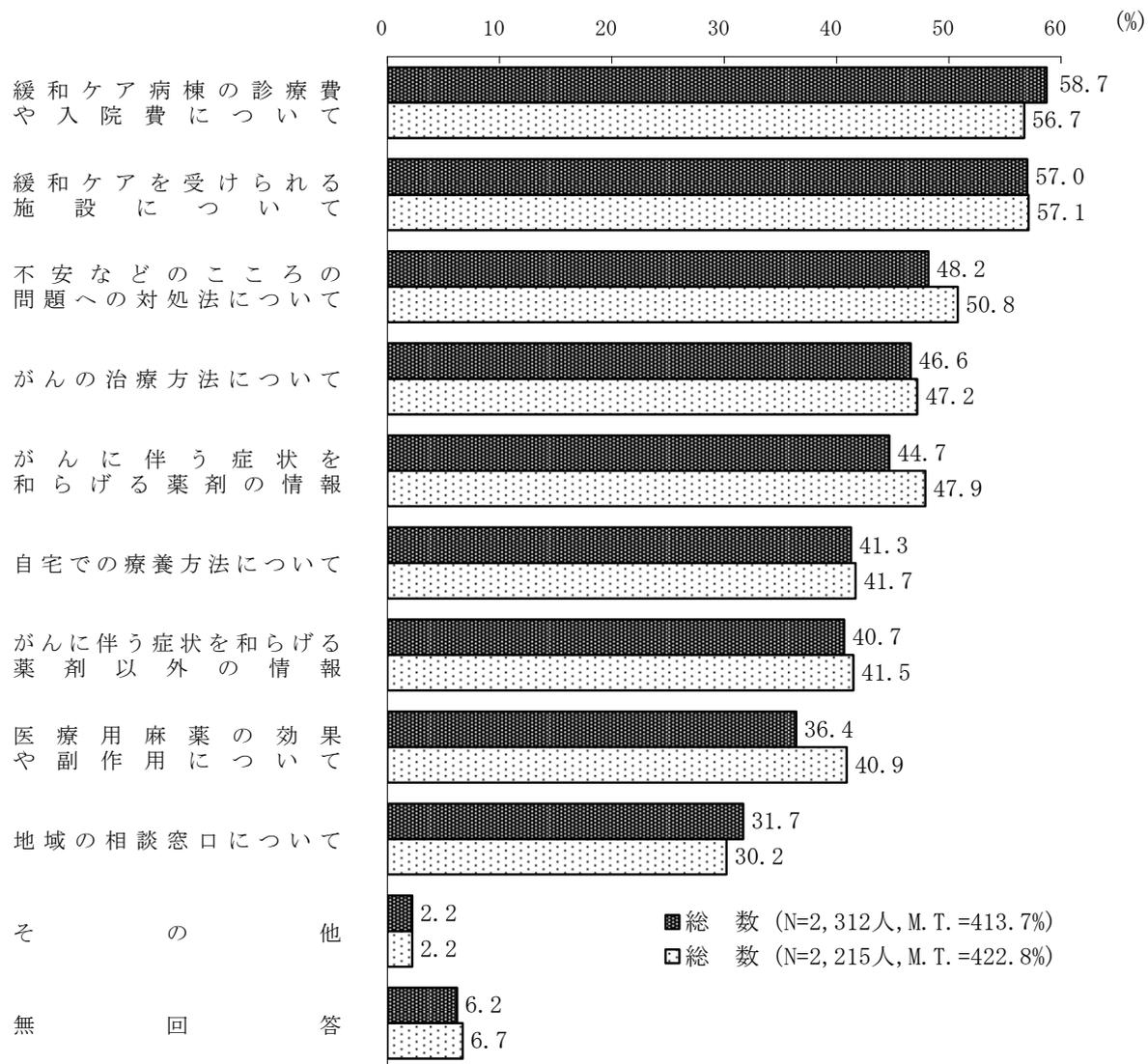
図3-5 (2) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無



4 「緩和ケア」情報について

(1) 「緩和ケア」について知りたい情報

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。(〇はいくつでも)



	総数	がんの治療方法について	がんの症状を和らげる薬剤の情報	がんの症状を和らげる薬剤以外の情報	不安などのこころの問題への対処法	医療用麻薬の効果や副作用について	緩和ケアを受けられる施設について	緩和ケア病棟の診療費や入院費	自宅での療養方法について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
今回調査	2312	46.6	44.7	40.7	48.2	36.4	57.0	58.7	41.3	31.7	2.2	6.2	413.7
前回調査	2215	47.2	47.9	41.5	50.8	40.9	57.1	56.7	41.7	30.2	2.2	6.7	422.8

「緩和ケア」について知りたい情報をきいたところ、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」が58.7%で最も高く、以下、「緩和ケアを受けられる施設について」(57.0%)、「不安などのこころの問題への対処法について」(48.2%)、「がんの治療方法について」(46.6%)、「がんに伴う症状(痛み、吐き気、体のだるさなど)を和らげる薬剤の情報」(44.7%)などの順となっている。回答数の総合計(M.T.)は413.7%である。これは、回答者が一人当たりほぼ4項目に〇をつけたことをあらわしている。

前回調査と比較すると、項目の順位にやや変動がある。割合には大きな変動はみられないものの、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」は3ポイント減少し、「医療用麻薬の効果や副作用について」は5ポイント減少しており、この2項目には有意差がみられる。

年代別にみると、割合が5割を超えているのは「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」と「緩和ケアを受けられる施設について」が20代から60代までで、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんの治療方法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」では20代から50代までとなっている。

性別にみると、知りたい情報への関心度は女性で高くなる傾向が見られ、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「緩和ケアを受けられる施設について」、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「自宅での療養方法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」、「医療用麻薬の効果や副作用について」はすべて、男性より女性で高くなっている。

地域別にみると、「緩和ケアを受けられる施設について」が関東で高くなっている。

がん経験者に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも低い割合となっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも高い割合となっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「がんの治療方法について」を除く8項目すべてで、“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも高い割合となっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「緩和ケアを受けられる施設について」と「がんの治療方法について」がいずれも全体平均より20ポイント低くなっている。

<表4-1(1)>

表4-1(1) 「緩和ケア」について知りたい情報

(%)

	総数	緩和ケア 病棟の診 療費や入 院費	緩和ケア を受けら れる施設 について	不安など のこころ の問題へ の対処法	がんの治 療方法に ついて	がんの症 状を和ら げる薬剤 の情報	自宅での 療養方法 について	がんの症 状和らげ る薬剤以 外の情報
【総数】	2312	58.7	57.0	48.2	46.6	44.7	41.3	40.7
問1-1〔年代別〕								
20代	192	59.9	53.6	54.7	56.8	51.0	45.8	43.2
30代	294	68.4	63.6	59.2	56.5	55.8	48.6	51.4
40代	330	68.2	64.2	60.3	50.6	54.2	42.7	49.7
50代	426	62.2	61.5	52.1	52.8	51.9	43.4	47.4
60代	558	57.2	57.0	43.9	43.4	38.5	40.1	37.5
70歳以上	498	45.8	45.8	33.5	33.1	30.7	33.7	26.3
無回答	14	21.4	50.0	21.4	28.6	21.4	42.9	14.3
問1-2〔性別〕								
男性	1020	52.9	51.4	41.1	47.8	40.0	37.0	33.7
女性	1284	63.3	61.4	53.9	45.7	48.4	44.6	46.4
無回答	8	37.5	50.0	50.0	37.5	37.5	62.5	25.0
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	269	59.5	54.6	49.4	49.1	40.1	39.0	42.4
関東	679	61.4	61.1	49.9	46.7	48.2	43.7	42.6
中部・北陸	420	60.2	55.0	50.0	45.7	42.9	44.0	37.1
近畿	417	55.2	57.6	44.1	50.1	47.0	41.5	41.7
中国・四国	254	58.3	54.3	46.5	39.4	43.3	35.8	40.2
九州・沖縄	255	55.7	55.3	49.8	48.2	41.6	38.8	40.8
外国	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	27.8	22.2	27.8	33.3	27.8	16.7
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	171	53.2	50.9	36.3	39.8	40.4	37.4	33.3
いいえ	2124	59.2	57.5	49.2	47.3	45.1	41.5	41.3
無回答	17	41.2	52.9	52.9	35.3	41.2	58.8	41.2
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	973	63.4	61.6	53.0	47.2	50.2	46.7	47.5
いいえ	1320	55.8	53.9	44.9	46.5	40.9	37.4	36.0
無回答	19	15.8	31.6	31.6	26.3	26.3	36.8	26.3
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	461	65.3	59.9	60.1	39.5	52.9	46.6	48.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	62.0	62.6	51.0	49.3	47.5	44.2	43.5
言葉もその内容も知らない	967	54.3	52.6	42.2	48.9	40.4	37.3	36.2
無回答	105	44.8	41.9	31.4	37.1	26.7	33.3	26.7
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1677	62.6	59.9	51.9	47.0	47.3	43.3	43.5
いいえ	612	49.7	50.7	39.5	47.1	38.7	36.9	34.3
無回答	23	13.0	13.0	13.0	8.7	8.7	13.0	13.0
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕								
はい	52	65.4	36.5	53.8	26.9	30.8	30.8	32.7
いいえ	2235	58.8	57.7	48.3	47.2	45.3	41.7	41.2
無回答	25	28.0	32.0	32.0	32.0	20.0	24.0	20.0

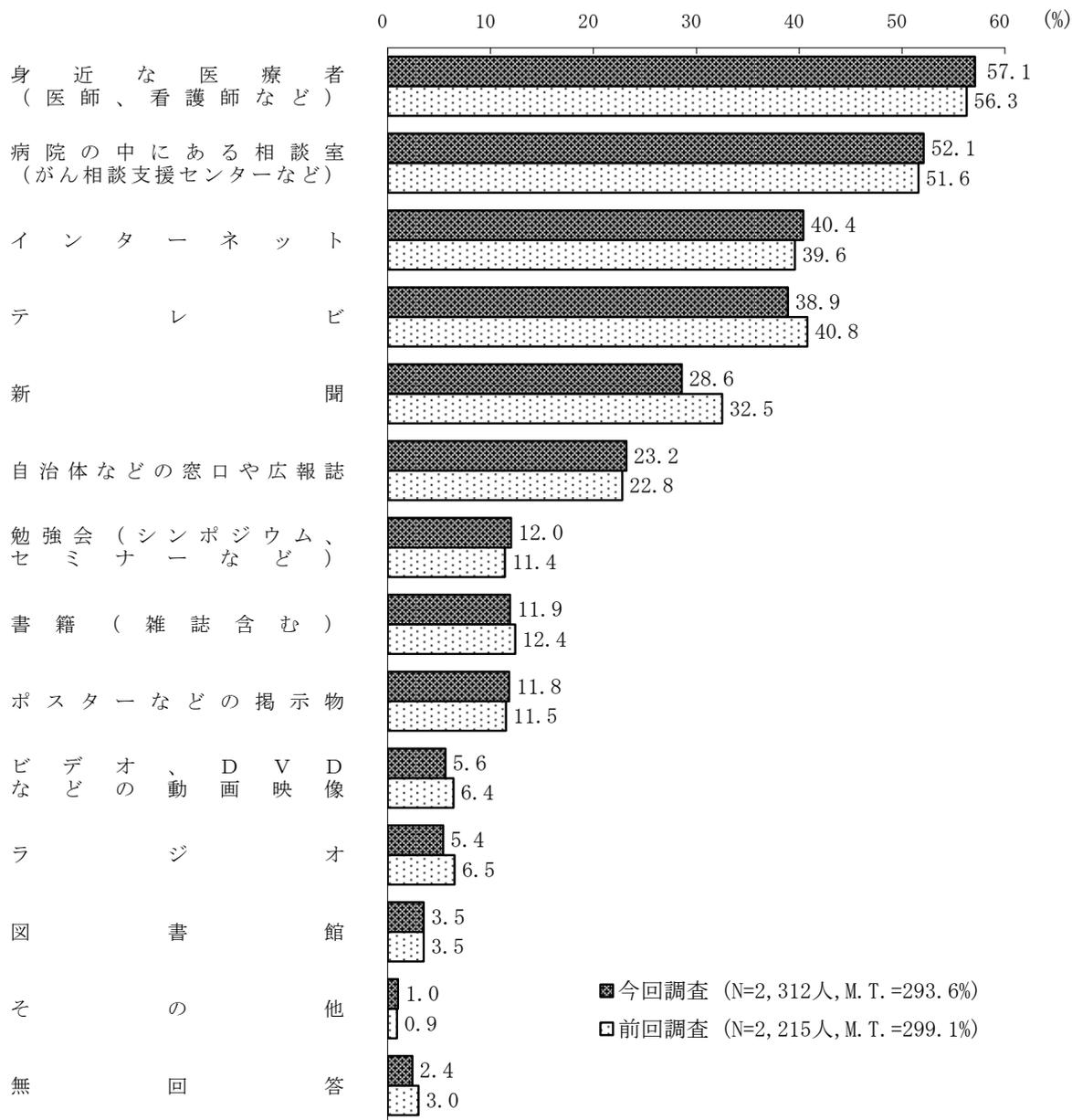
表4-1 (1) つづき 「緩和ケア」について知りたい情報

(%)

	総数	医療用麻薬の効果や副作用について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
【総数】	2312	36.4	31.7	2.2	6.2	413.7
問1-1〔年代別〕						
20代	192	44.8	24.0	3.6	4.2	441.7
30代	294	46.3	32.3	2.4	3.7	488.1
40代	330	40.0	36.1	2.4	1.2	469.7
50代	426	40.4	32.6	1.9	5.2	451.4
60代	558	33.7	33.7	2.7	4.3	391.9
70歳以上	498	24.7	28.1	1.4	14.3	317.5
無回答	14	28.6	35.7	-	28.6	292.9
問1-2〔性別〕						
男性	1020	31.9	31.3	2.9	7.2	377.2
女性	1284	40.0	32.0	1.7	5.5	443.0
無回答	8	37.5	25.0	-	12.5	375.0
問1-3〔地域別〕						
北海道・東北	269	36.1	27.1	2.6	6.3	406.3
関東	679	39.3	34.0	2.1	5.6	434.6
中部・北陸	420	36.4	30.7	1.7	7.1	411.0
近畿	417	33.3	34.8	2.6	5.3	413.2
中国・四国	254	35.4	26.8	2.8	7.5	390.2
九州・沖縄	255	34.9	32.9	2.0	5.1	405.1
外国	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	11.1	5.6	27.8	266.7
問1-4〔がん経験の有無別〕						
はい	171	32.2	26.9	2.3	9.9	362.6
いいえ	2124	36.7	32.0	2.2	5.9	417.8
無回答	17	41.2	35.3	5.9	5.9	411.8
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕						
はい	973	42.7	32.0	2.5	3.5	450.1
いいえ	1320	31.8	31.4	2.1	7.7	388.6
無回答	19	31.6	31.6	-	42.1	300.0
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕						
言葉知っている、内容も知っている	461	38.2	32.8	2.4	2.4	448.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	40.1	33.9	1.9	2.3	438.3
言葉もその内容も知らない	967	33.7	29.7	2.3	9.8	387.5
無回答	105	25.7	28.6	3.8	19.0	319.0
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕						
はい	1677	39.1	33.2	2.0	3.8	433.4
いいえ	612	29.9	28.6	3.1	10.6	369.1
無回答	23	8.7	4.3	-	69.6	165.2
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕						
はい	52	26.9	28.8	9.6	7.7	350.0
いいえ	2235	36.7	31.9	2.1	5.7	416.6
無回答	25	24.0	20.0	4.0	48.0	284.0

(2)「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(〇はいくつでも)



	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ビデオ、DVDなどの動画映像
今回調査	2312	57.1	52.1	40.4	28.6	38.9	5.4	5.6
前回調査	2215	56.3	51.6	39.6	32.5	40.8	6.5	6.4

図書館	書籍 (雑誌含む)	ポスターなどの掲示物	自治体などの窓口や広報誌	勉強会	その他	無回答	回答計
3.5	11.9	11.8	23.2	12.0	1.0	2.4	293.6
3.5	12.4	11.5	22.8	11.4	0.9	3.0	299.1

「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものをきいたところ、「身近な医療者（医師、看護師など）」が57.1%で最も高く、以下、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（52.1%）、「インターネット」（40.4%）、「テレビ」（38.9%）、「新聞」（28.6%）、「自治体などの窓口や広報誌」（23.2%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、今回は「インターネット」と「テレビ」の順位が前回から入れ替わったものの、全体の項目の割合は、大きな変動がみられない。但し、「新聞」が前回調査から4ポイント減少し、有意差がみられる。

年代別にみると、「身近な医療者」はすべての年代で5割を上回っている。「病院の中にある相談室」は40代から60代で5割台と高くなっている。「インターネット」と「テレビ」は年代が若くなるほど割合が高くなり、特に「インターネット」では20代（72.9%）と30代（71.8%）で7割台に達している。

性別にみると、「身近な医療者」、「病院の中にある相談室」、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」で女性の割合がやや高くなっている。

地域別にみると、「インターネット」が関東（46.2%）でやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「身近な医療者」（65.5%）が高くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「身近な医療者」（61.8%）、「病院の中にある相談室」（55.8%）、「インターネット」（42.8%）が高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「身近な医療者」、「病院の中にある相談室」、「インターネット」、「勉強会」の項目は“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「身近な医療者」（59.3%）、「病院の中にある相談室」（55.3%）、「インターネット」（43.4%）が高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「勉強会」（28.8%）や「ポスターなどの掲示物」（23.1%）が全体平均より高くなっている。

<表4-2（1）>

表4-2(1) 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

(%)

	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	インターネット	テレビ	新聞	自治体などの窓口や広報誌	勉強会	書籍(雑誌含む)
【総数】	2312	57.1	52.1	40.4	38.9	28.6	23.2	12.0	11.9
問1-1〔年代別〕									
20代	192	51.0	35.4	72.9	53.6	25.5	15.1	8.9	15.1
30代	294	50.0	47.6	71.8	48.6	31.0	24.1	10.9	16.7
40代	330	56.4	55.5	63.0	44.5	25.5	23.3	14.5	14.8
50代	426	58.2	58.7	48.4	41.1	32.6	25.8	14.1	14.1
60代	558	58.2	56.5	22.8	33.3	30.1	25.8	15.6	9.7
70歳以上	498	62.2	48.0	7.8	28.7	25.7	20.3	6.6	7.0
無回答	14	35.7	64.3	14.3	21.4	14.3	28.6	-	-
問1-2〔性別〕									
男性	1020	54.0	47.2	40.4	37.1	29.7	22.5	7.9	10.4
女性	1284	59.4	56.0	40.5	40.6	27.9	23.7	15.3	13.2
無回答	8	62.5	50.0	12.5	12.5	-	25.0	-	-
問1-3〔地域別〕									
北海道・東北	269	56.5	52.4	37.2	42.8	32.0	20.8	11.9	10.4
関東	679	57.3	53.8	46.2	37.8	29.6	27.5	11.6	13.4
中部・北陸	420	56.4	56.2	38.8	39.8	26.9	22.6	14.0	12.1
近畿	417	58.3	47.0	40.0	36.7	27.1	21.3	9.6	10.3
中国・四国	254	56.3	50.8	39.0	38.6	29.5	19.3	14.2	13.8
九州・沖縄	255	58.4	49.8	34.5	40.8	28.6	22.0	12.2	11.0
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	55.6	11.1	33.3	-	22.2	-	-
問1-4〔がん経験の有無別〕									
はい	171	65.5	56.7	22.2	26.9	21.1	19.3	8.8	9.9
いいえ	2124	56.5	51.6	41.9	40.0	29.2	23.5	12.3	12.1
無回答	17	47.1	64.7	23.5	29.4	23.5	17.6	-	5.9
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕									
はい	973	61.8	55.8	42.8	37.6	26.1	23.2	12.8	14.3
いいえ	1320	53.8	49.6	38.9	40.2	30.5	23.2	11.5	10.1
無回答	19	42.1	31.6	15.8	21.1	21.1	21.1	-	21.1
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕									
言葉知っている、内容も知っている	461	66.2	62.7	50.3	32.8	23.9	23.9	21.0	16.9
言葉は知っている、内容は知らない	779	56.1	55.8	38.3	39.5	34.1	23.6	14.5	13.7
言葉もその内容も知らない	967	54.2	43.7	39.8	42.7	27.4	22.6	6.3	8.8
無回答	105	50.5	54.3	17.1	26.7	19.0	21.9	5.7	5.7
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕									
はい	1677	59.3	55.3	43.4	38.0	28.9	24.1	13.5	13.0
いいえ	612	52.3	44.4	33.3	42.2	28.6	21.6	8.2	9.5
無回答	23	21.7	21.7	4.3	21.7	8.7	-	-	-
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕									
はい	52	63.5	63.5	38.5	23.1	17.3	25.0	28.8	9.6
いいえ	2235	57.1	52.0	40.7	39.5	28.9	23.3	11.6	12.0
無回答	25	40.0	32.0	12.0	20.0	28.0	12.0	12.0	8.0

表4-2(1) つづき 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

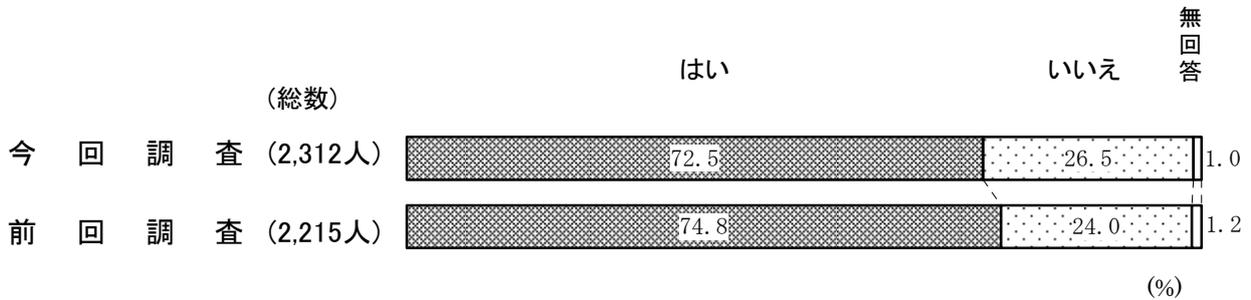
(%)

	総数	ポスター などの掲 示物	ラジオ	ビデオ、 DVDな どの動画 映像	図書館	その他	無回答	回答計
【総数】	2312	11.8	5.4	5.6	3.5	1.0	2.4	293.6
問1-1〔年代別〕								
20代	192	24.0	6.8	4.7	5.7	1.6	1.6	321.9
30代	294	19.0	7.8	2.4	5.8	-	1.0	336.7
40代	330	14.2	5.5	6.1	2.1	0.6	-	326.1
50代	426	12.4	7.0	8.5	3.8	1.4	2.1	328.2
60代	558	9.9	3.9	6.8	3.8	1.3	1.1	278.7
70歳以上	498	3.0	3.6	3.4	1.4	0.8	6.6	225.3
無回答	14	-	-	14.3	7.1	-	14.3	214.3
問1-2〔性別〕								
男性	1020	10.8	5.6	6.0	2.9	1.3	2.5	278.3
女性	1284	12.6	5.2	5.1	3.8	0.7	2.3	306.2
無回答	8	-	-	37.5	12.5	-	12.5	225.0
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	269	17.1	7.4	5.6	4.1	1.5	1.5	301.1
関東	679	13.4	6.5	6.3	3.7	0.7	1.6	309.6
中部・北陸	420	11.0	5.0	4.3	3.6	0.7	2.1	293.6
近畿	417	8.2	3.8	5.5	2.9	1.7	2.4	274.8
中国・四国	254	9.4	3.1	6.3	4.3	0.8	3.9	289.4
九州・沖縄	255	11.0	5.9	4.7	2.0	0.4	3.5	284.7
外国	-	-	-	-	-	-	-	0.0
無回答	18	16.7	-	11.1	5.6	-	16.7	205.6
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	171	4.7	3.5	4.1	-	0.6	3.5	246.8
いいえ	2124	12.4	5.5	5.6	3.7	0.9	2.4	297.8
無回答	17	-	5.9	17.6	5.9	5.9	-	247.1
問2-1 〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	973	11.9	4.5	6.2	3.3	1.0	1.4	302.8
いいえ	1320	11.8	6.0	5.1	3.5	0.9	2.7	287.7
無回答	19	-	5.3	10.5	10.5	-	36.8	236.8
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	461	8.9	5.2	5.2	4.1	0.4	1.3	322.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	10.0	4.5	5.5	3.9	0.6	1.0	301.3
言葉もその内容も知らない	967	15.3	6.2	6.0	2.8	1.6	2.9	280.4
無回答	105	4.8	4.8	3.8	3.8	-	13.3	231.4
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1677	10.8	5.2	5.9	3.8	0.9	1.3	303.2
いいえ	612	14.9	5.9	4.9	2.8	1.1	3.9	273.5
無回答	23	-	4.3	-	-	-	47.8	130.4
問6-1〔オレンジパルーン プロジェクトの認知別〕								
はい	52	23.1	7.7	7.7	5.8	1.9	5.8	321.2
いいえ	2235	11.6	5.3	5.5	3.4	0.9	1.9	293.8
無回答	25	4.0	4.0	4.0	4.0	-	40.0	220.0

5 医療用麻薬について

(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

問5-1 がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	72.5	26.5	1.0
前回調査	2215	74.8	24.0	1.2

がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 72.5% となっている。

前回調査では、「はい」が 74.8%で、今回とほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「はい」は 40代 (77.0%)、50代 (80.3%)、60代 (77.6%) で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」は 77.8%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている”人では、92.8%に達している。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が 98.1%に達している。

<図5-1 (1)、図5-1 (2)>

図5-1(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

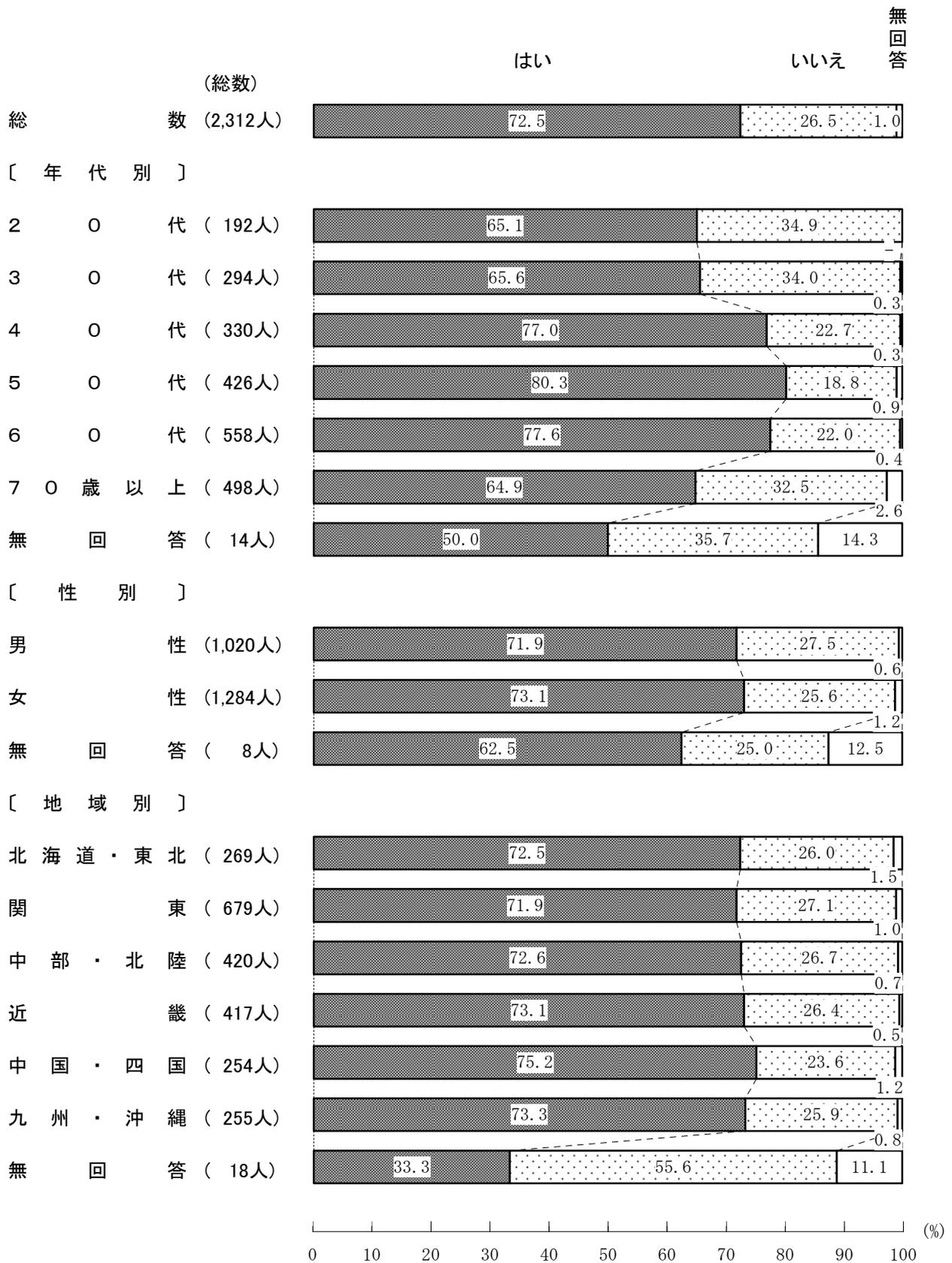
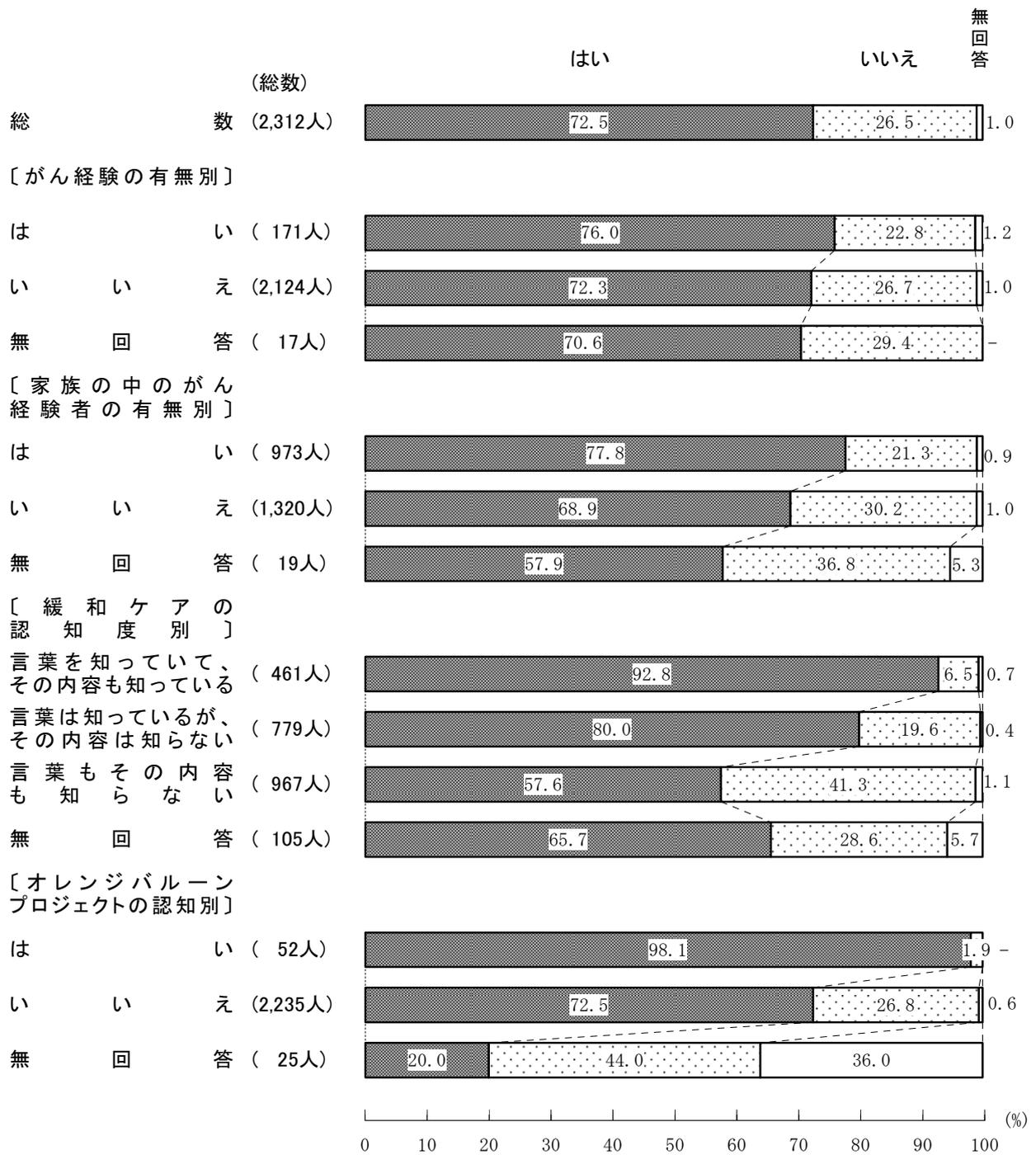
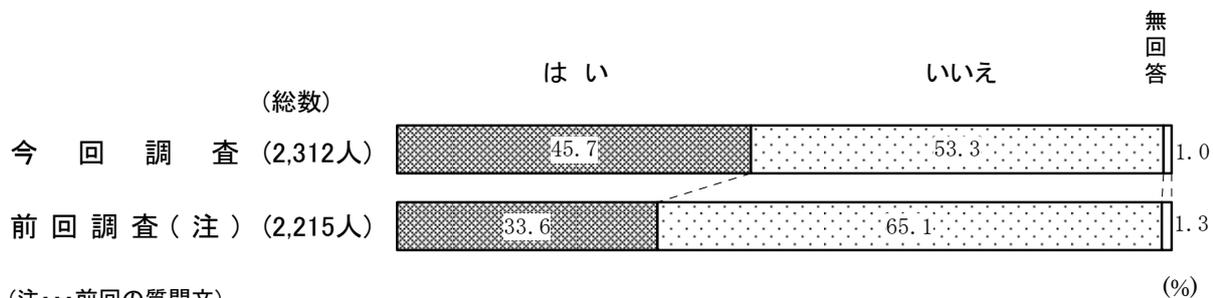


図5-1(2) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知



(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

問5-2 あなたは、がんの痛みの大部分は医療用麻薬とその補助薬によって取ることができると言われていていることをご存じですか。(○は1つ)



(注・・・前回の質問文)
あなたは、がんの痛みの90%は医療用麻薬によって取ることができると言われていていることをご存じですか。

※ 前回調査と質問文が違うため、前回調査との比較記述はなし。

がんの痛みの大部分は医療用麻薬とその補助薬によって取ることができると言われていていることを知っているかをきいたところ、「はい」が45.7%となっている。

年代別にみると、「はい」が60代(52.0%)で高くなっている。

性別にみると、「はい」の割合は女性(49.5%)が男性(41.1%)を8ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験者に限定してみると、「はい」が50.3%となっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が51.7%となっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「はい」は“その内容も知っている”人の76.1%に達している。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が61.7%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が84.6%を占めている。

<図5-2(1)、図5-2(2)>

図5-2 (1) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

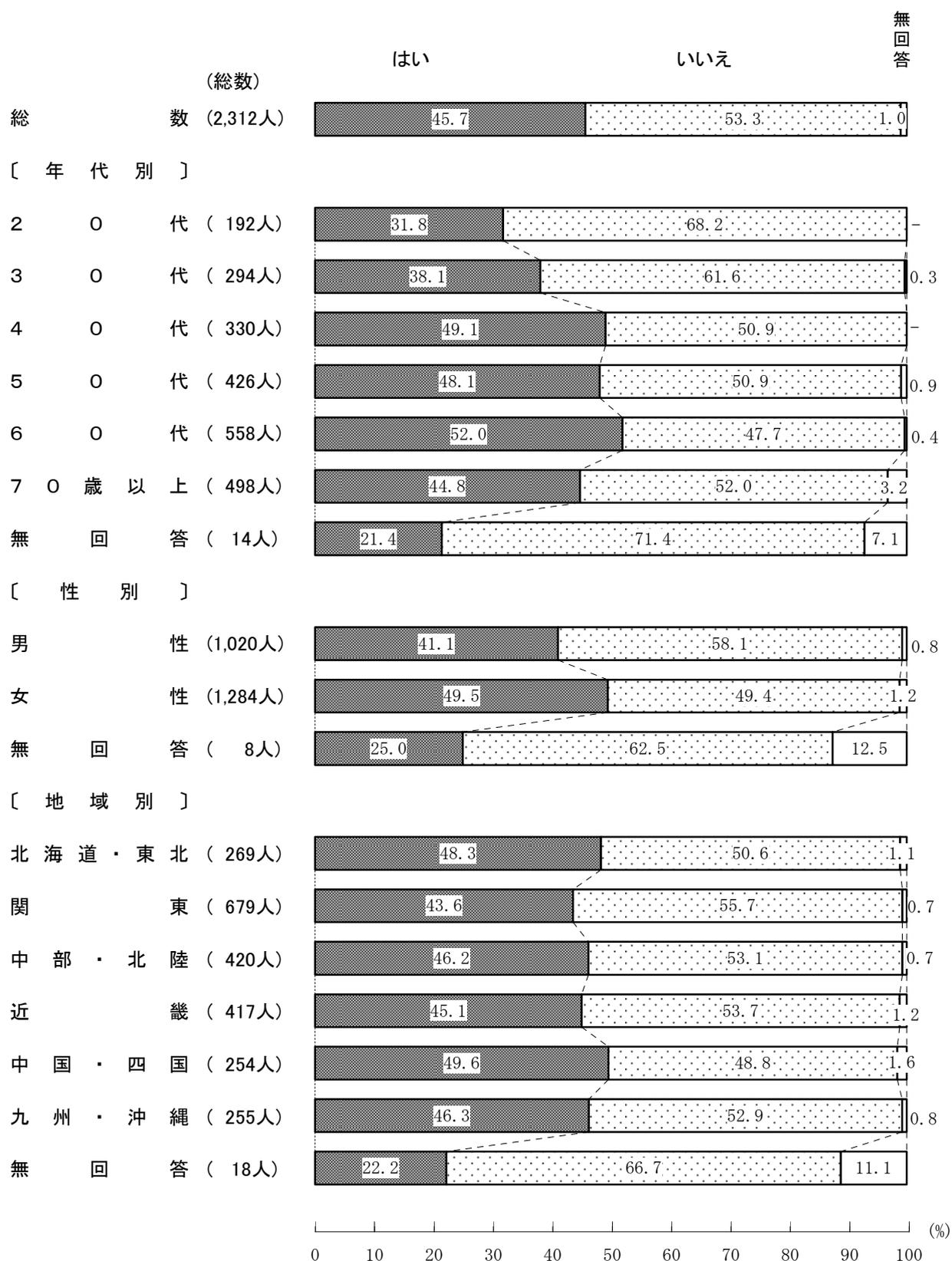
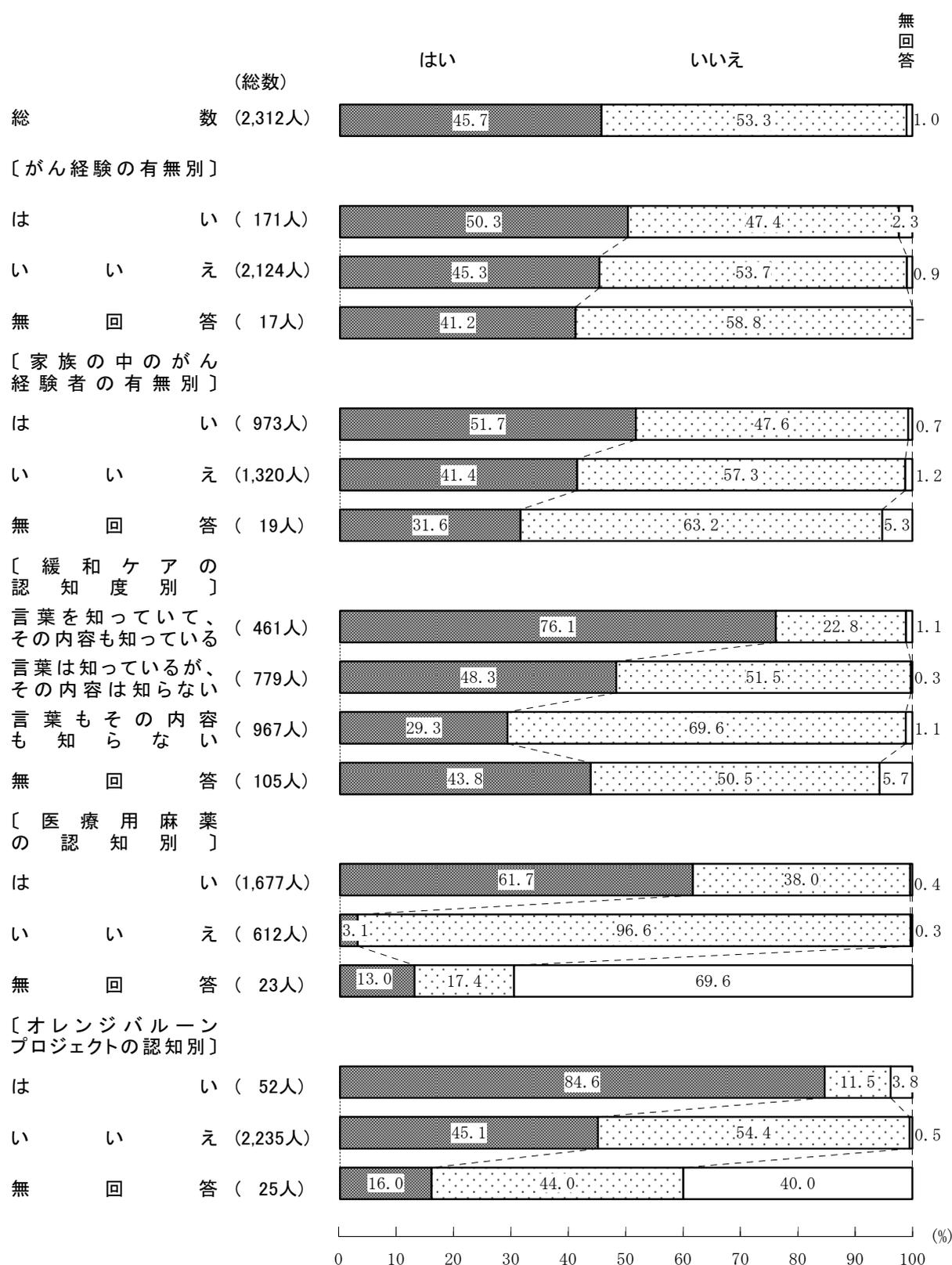
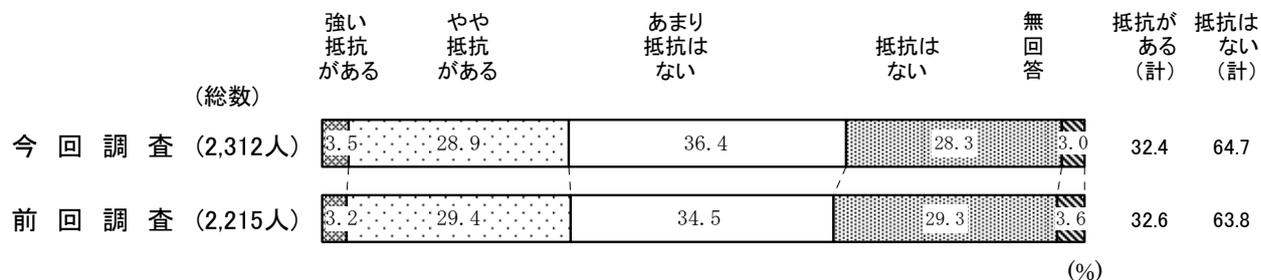


図5-2(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知



(3) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

問5-3 あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
(○は1つ)



	総数	強い抵抗がある	やや抵抗がある	あまり抵抗はない	抵抗はない	無回答
今回調査	2312	3.5	28.9	36.4	28.3	3.0
前回調査	2215	3.2	29.4	34.5	29.3	3.6

がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗があるかをきいたところ、『抵抗がある(計)』が32.4% (「強い抵抗がある」3.5%+「やや抵抗がある」28.9%)、『抵抗はない(計)』が64.7% (「あまり抵抗はない」36.4%+「抵抗はない」28.3%) となっている。

前回調査と比較すると、いずれの項目もほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、『抵抗がある(計)』の割合が最も高いのは20代で、44.8%となっている。

性別にみると、『抵抗がある(計)』は女性(34.2%)と男性(30.2%)にあまり差はみられない。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では『抵抗はない(計)』が74.2%と高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が31.9%で、知らない人の34.2%とあまり差はみられない。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が25.0%で、知らない人より8ポイント低くなっている。

<図5-3(1)、図5-3(2)>

図5-3 (1) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

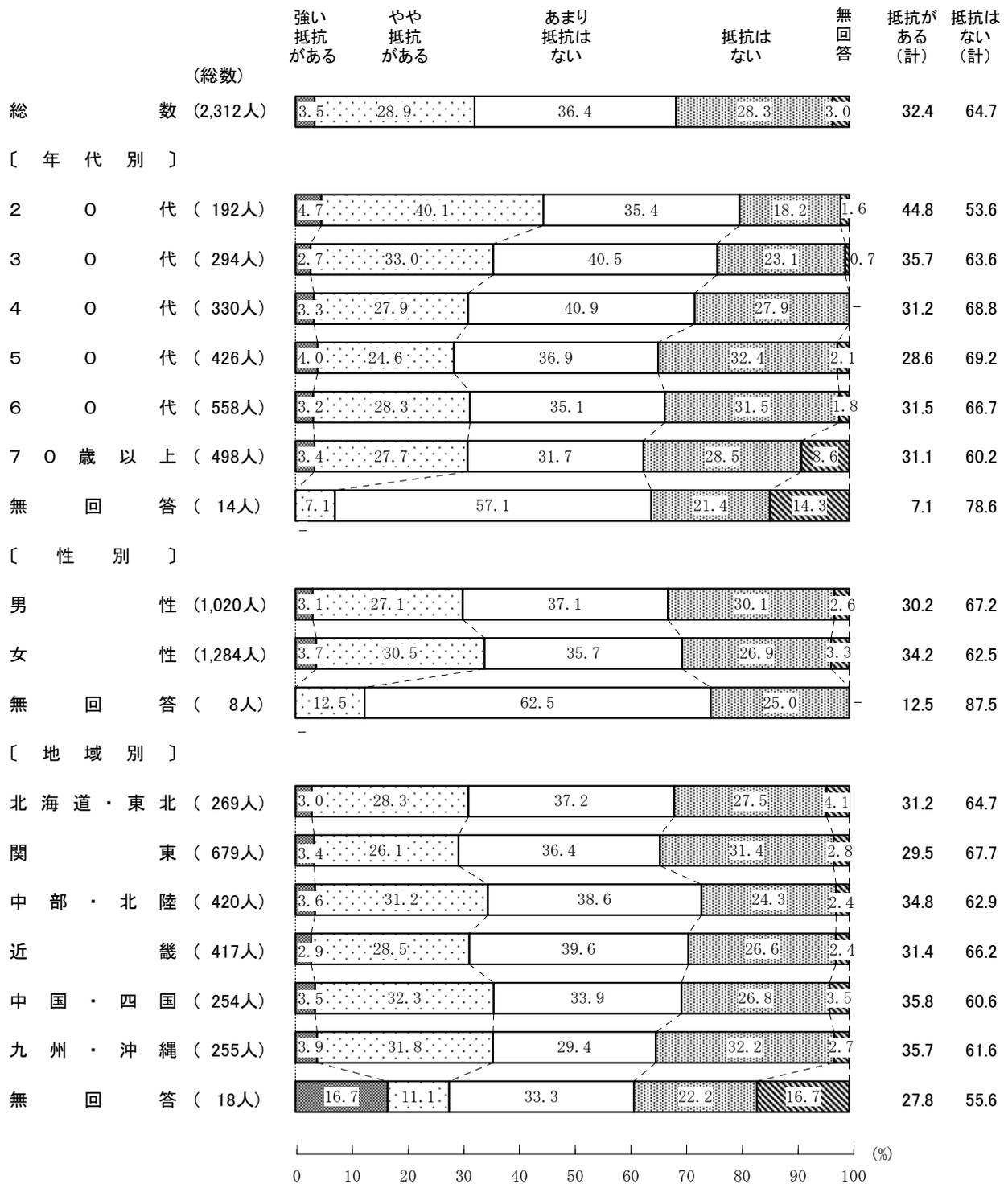
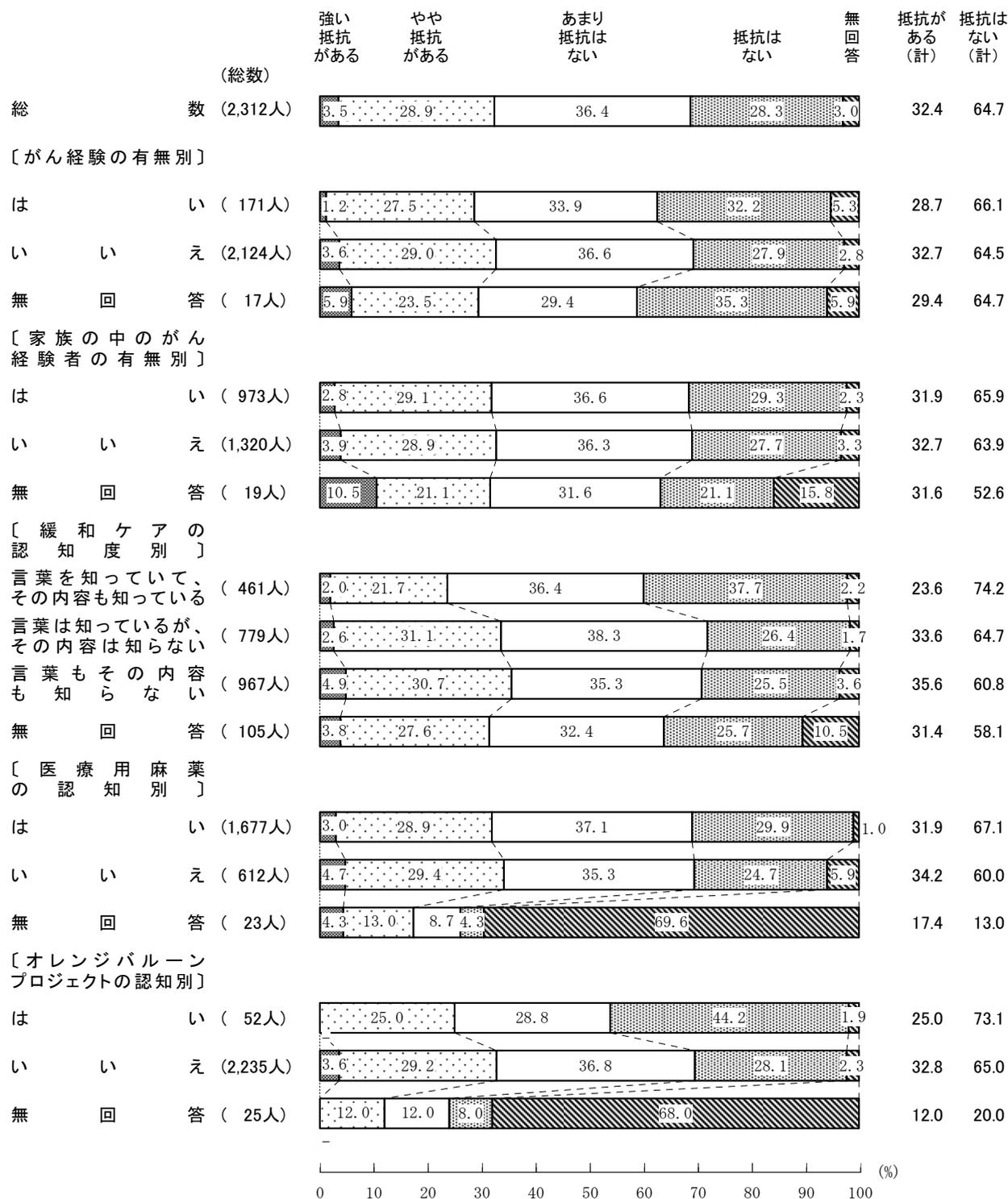


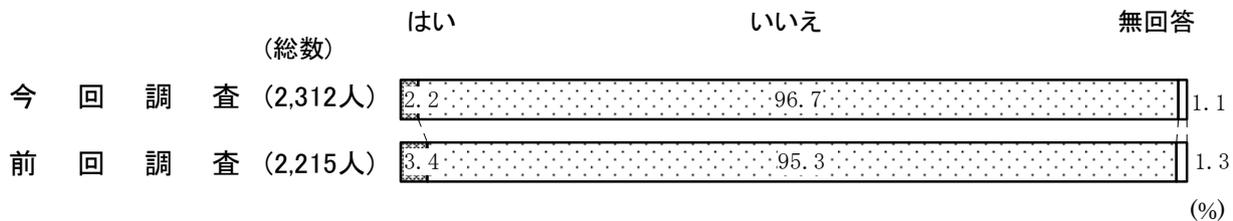
図5-3 (2) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感



6 「オレンジバルーンプロジェクト（Orange Balloon Project）」

(1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

問6-1 国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	2.2-	96.7+	1.1
前回調査	2215	3.4	95.3	1.3

「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているかをきいたところ、「はい」が2.2%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」は3.4%から2.2%に減少し、有意差がみられる。

年代別、性別、地域別のいずれも、「はい」は1～3%の割合となっている。

がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では「はい」が8.9%とやや高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」は3.0%である。

<図6-1 (1)、図6-1 (2)>

図6-1 (1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

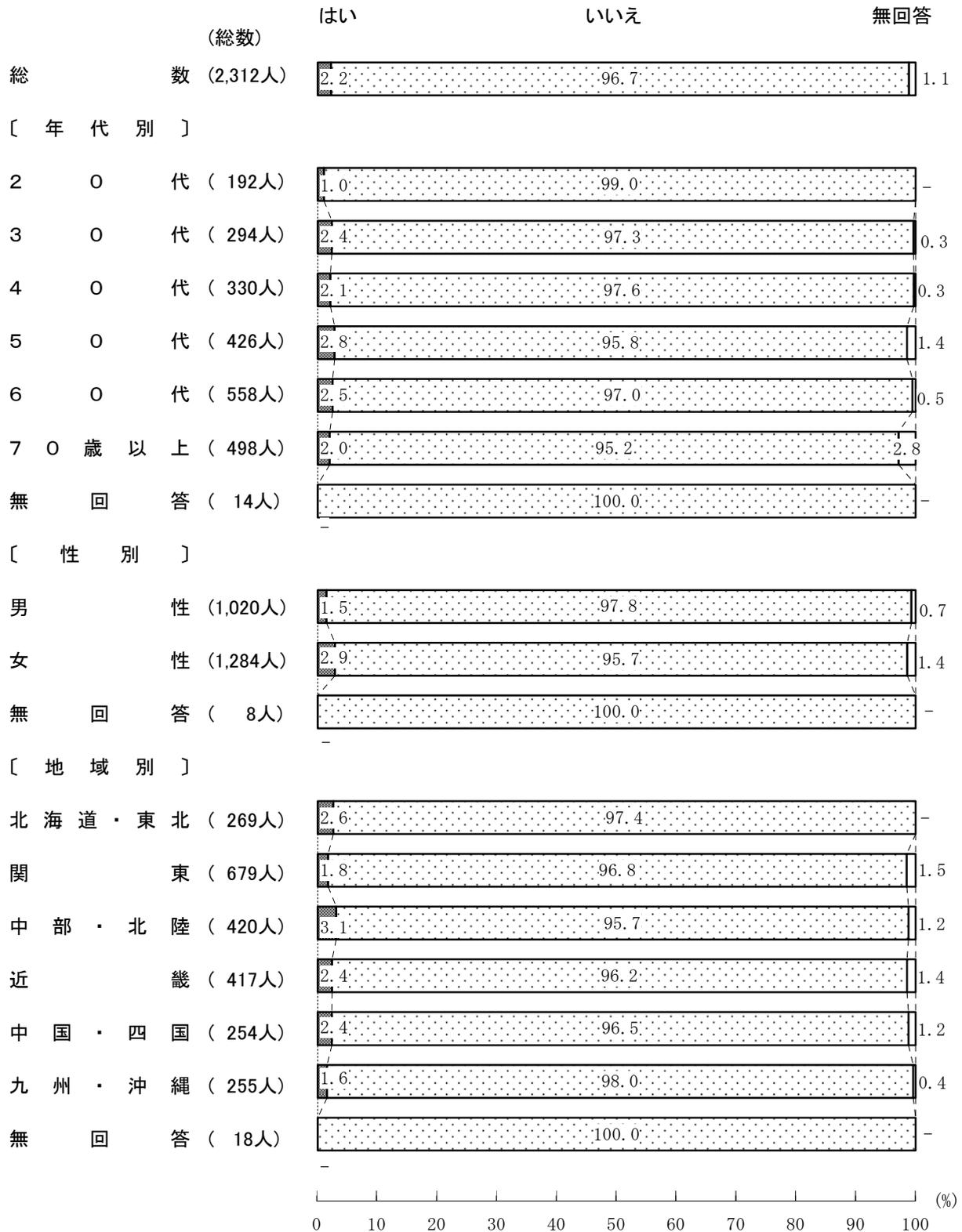
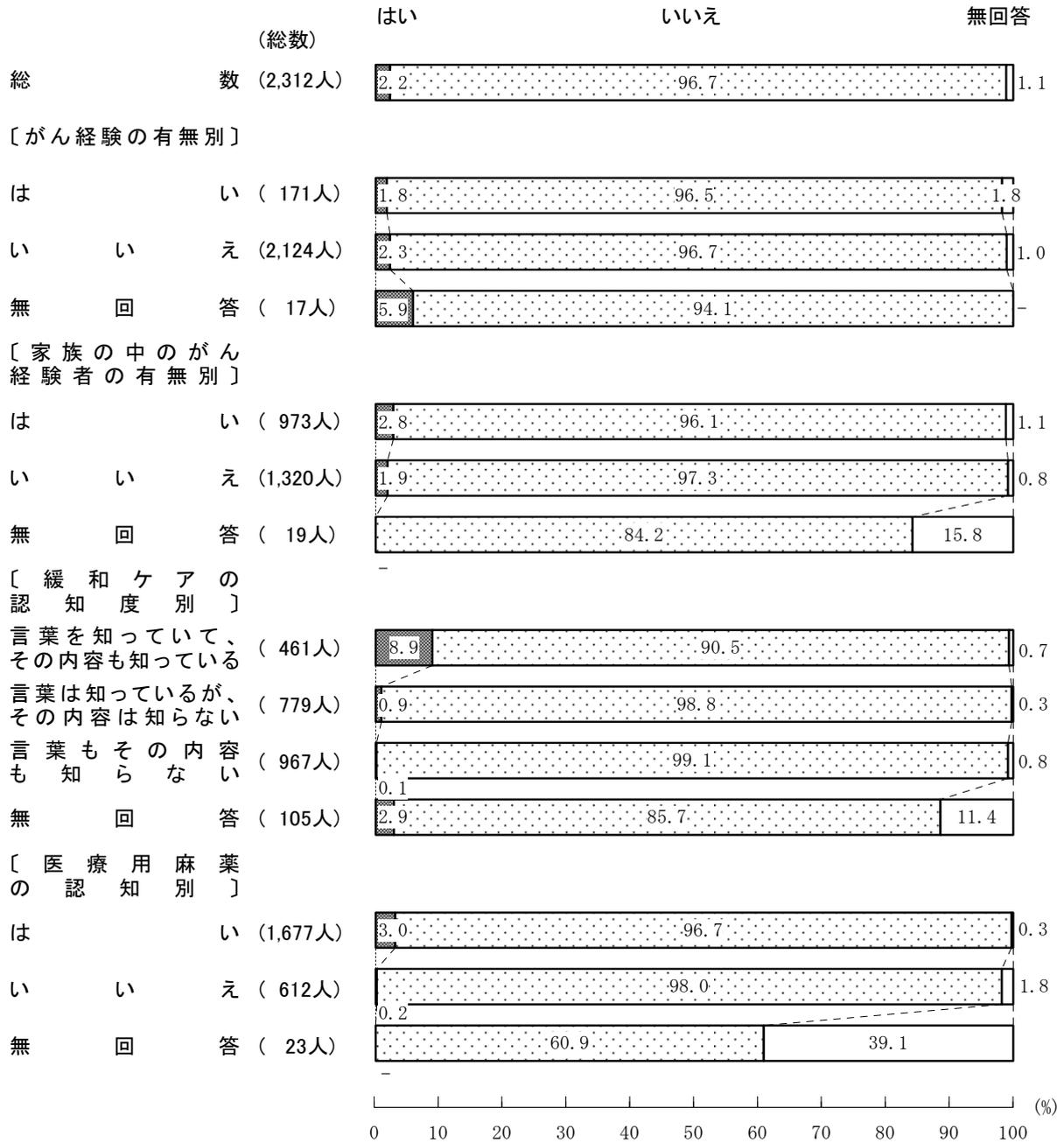


図6-1(2) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

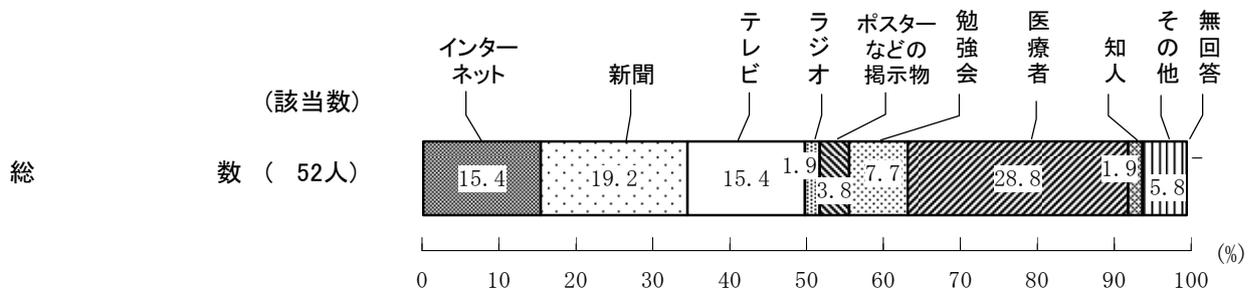


(1) - 1 「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路

問6-1 補問1 (問6-1で1「はい」をお選びの方に)

「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。

(○は1つ)



実数 (人)	該当総数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
回答者数	52	8	10	8	1	2	4	15	1	3	-

「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているとした者(52人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が15.4%、「新聞」が19.2%、「テレビ」が15.4%、「ポスターなどの掲示物」が3.8%、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」が7.7%、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」が28.8%、「ラジオ」と「知人」はともに1.9%となっている。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。また、前回調査との比較記述はなし。

※※ 前回調査の回答者実数は下記の通り。

<参考>

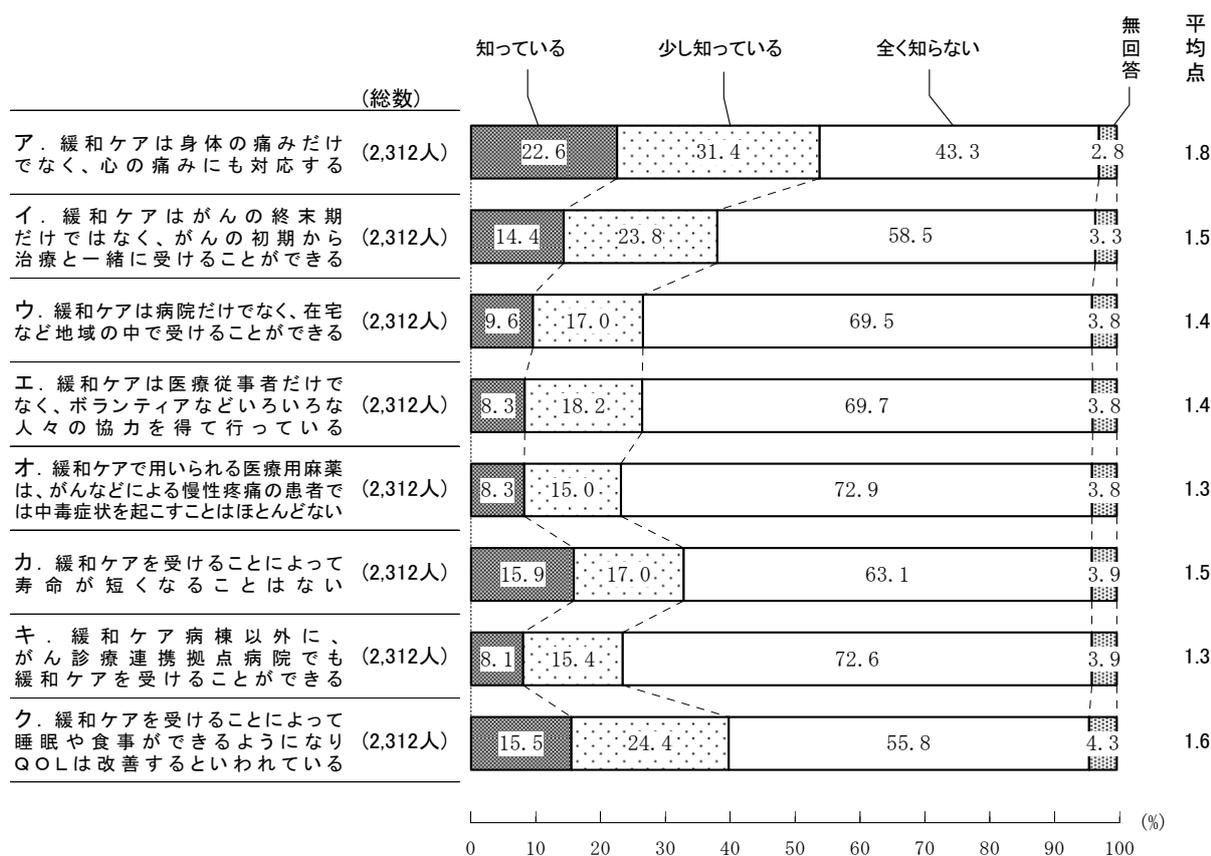
実数 (人)	該当総数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
回答者数	75	11	18	15	-	5	5	15	-	6	-

7 緩和ケアの各項目についての認知

問7 「緩和ケア」は以下にあげることを目指して行っています。(ア)～(ク)の各文章を読んで、あてはまるものに○をお付けください。(ア～クまで、それぞれ○は1つずつ)

<グラフ右横の平均点について>

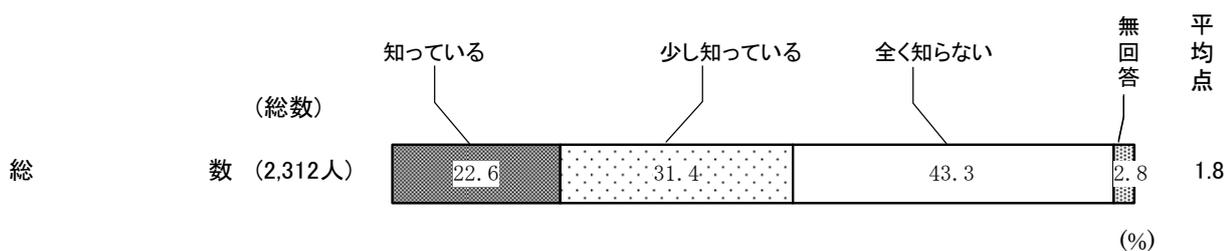
「知っている」＝3点、「少し知っている」＝2点、「全く知らない」＝1点として数値を積算し、その積算数値を無回答を除く回答者数で割ったもの(小数点1位で表示)。



(ア)～(ク)の中で、「知っている」の割合が最も高いのは(ア)(22.6%)で、以下、(カ)(15.9%)、(ク)(15.5%)、(イ)(14.4%)の順となっている。平均点は、(ア)の1.8が最も高くなっている。一方、「全く知らない」の割合が高いのは(オ)(72.9%)と(キ)(72.6%)で、平均点はともに1.3で最も低くなっている。

※※ 前回調査の問7は、質問文、選択肢ともに異なっているため前回調査の結果は掲載していない。

(1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



上記(1)についてきいたところ、「知っている」が22.6%、「少し知っている」が31.4%、「全く知らない」が43.3%となっている。平均点は1.8である。

年代別にみると、「知っている」は30代(27.2%)や40代(28.5%)で高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(27.4%)と男性(16.8%)に11ポイントの差があり、平均点は、女性の1.9が男性の1.7を上回っている。

地域別にみると、「知っている」は中国・四国(29.9%)で高い。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、平均点が1.9とやや高い。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が62.0%と高く、平均点も2.6となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が28.5%と高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が76.9%、平均点が2.8と高くなっている。

<図7-1(1)、図7-1(2)>

図7-1 (1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する

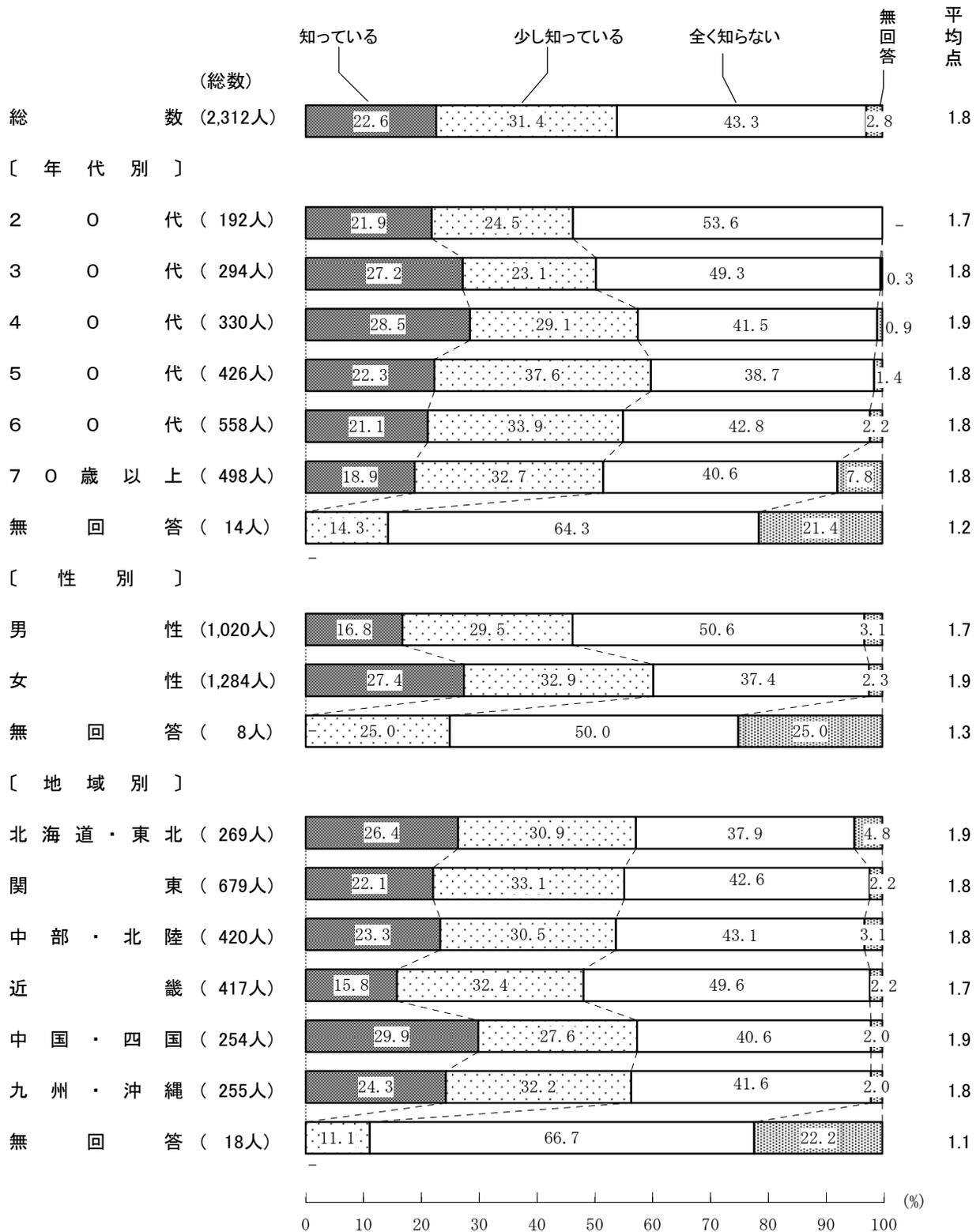
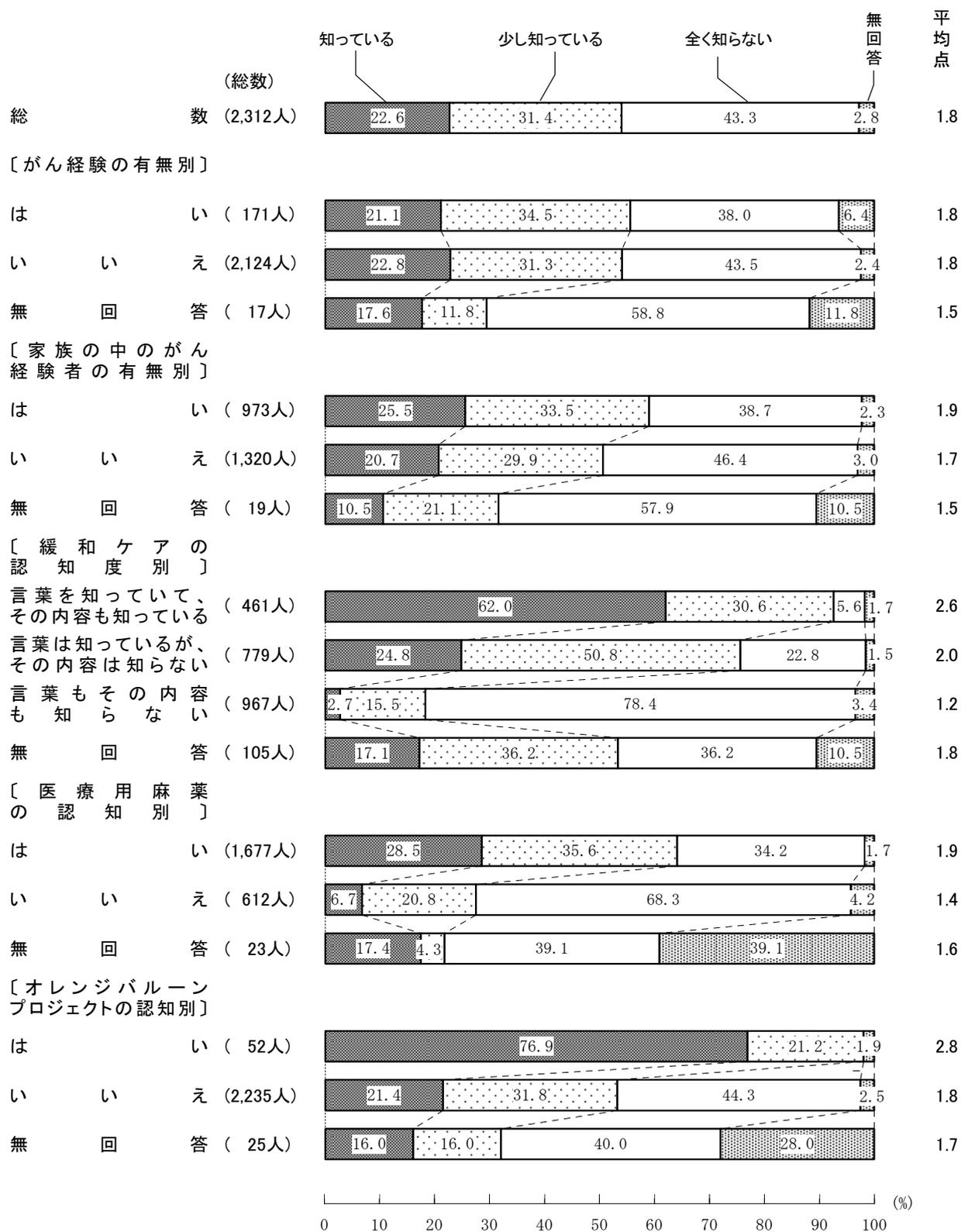
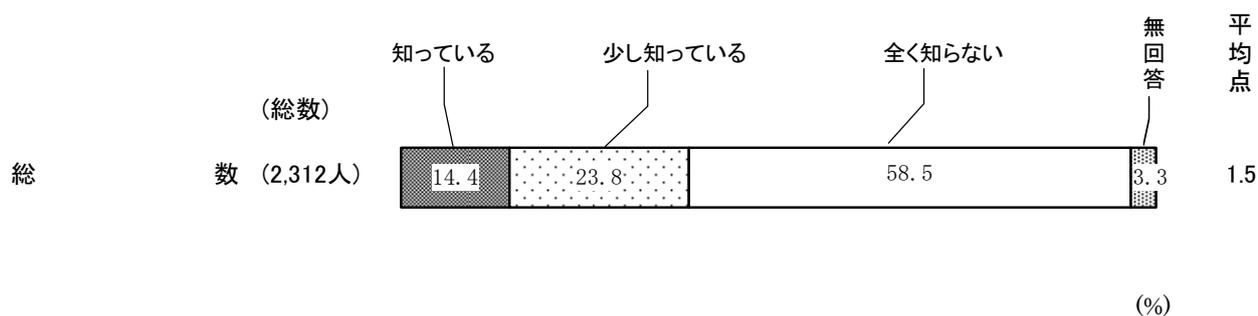


図7-1(2) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



(2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる



上記(2)についてきいたところ、「知っている」が14.4%、「少し知っている」が23.8%、「全く知らない」が58.5%となっている。平均点は1.5である。

年代別にみると、「知っている」は30代(19.0%)や40代(17.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(16.4%)が男性(12.0%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「知っている」が16.4%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が43.8%と高く、平均点も2.3となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が18.4%とやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が65.4%、平均点は2.6と高くなっている。

<図7-2(1)、図7-2(2)>

図7-2(1) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる

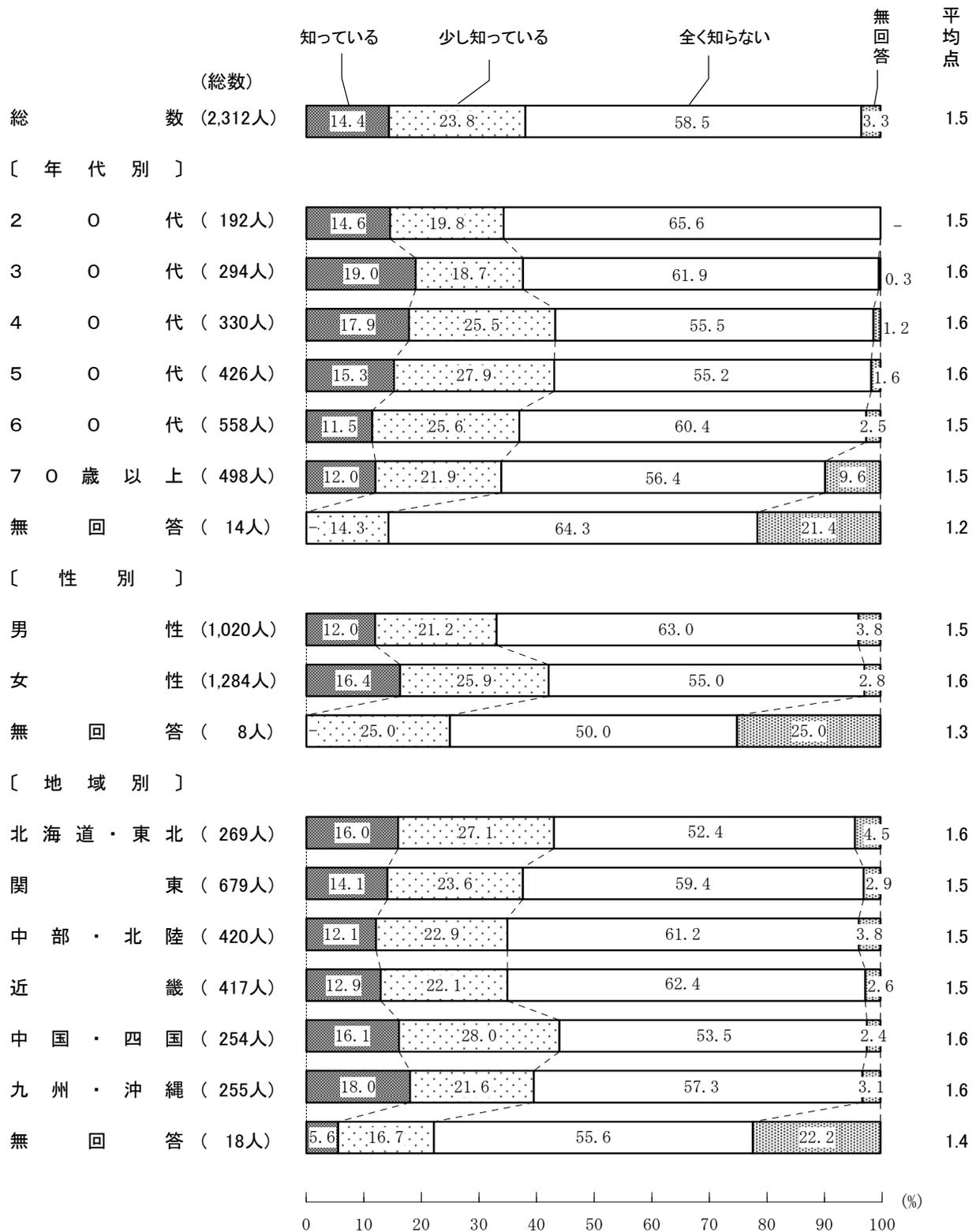
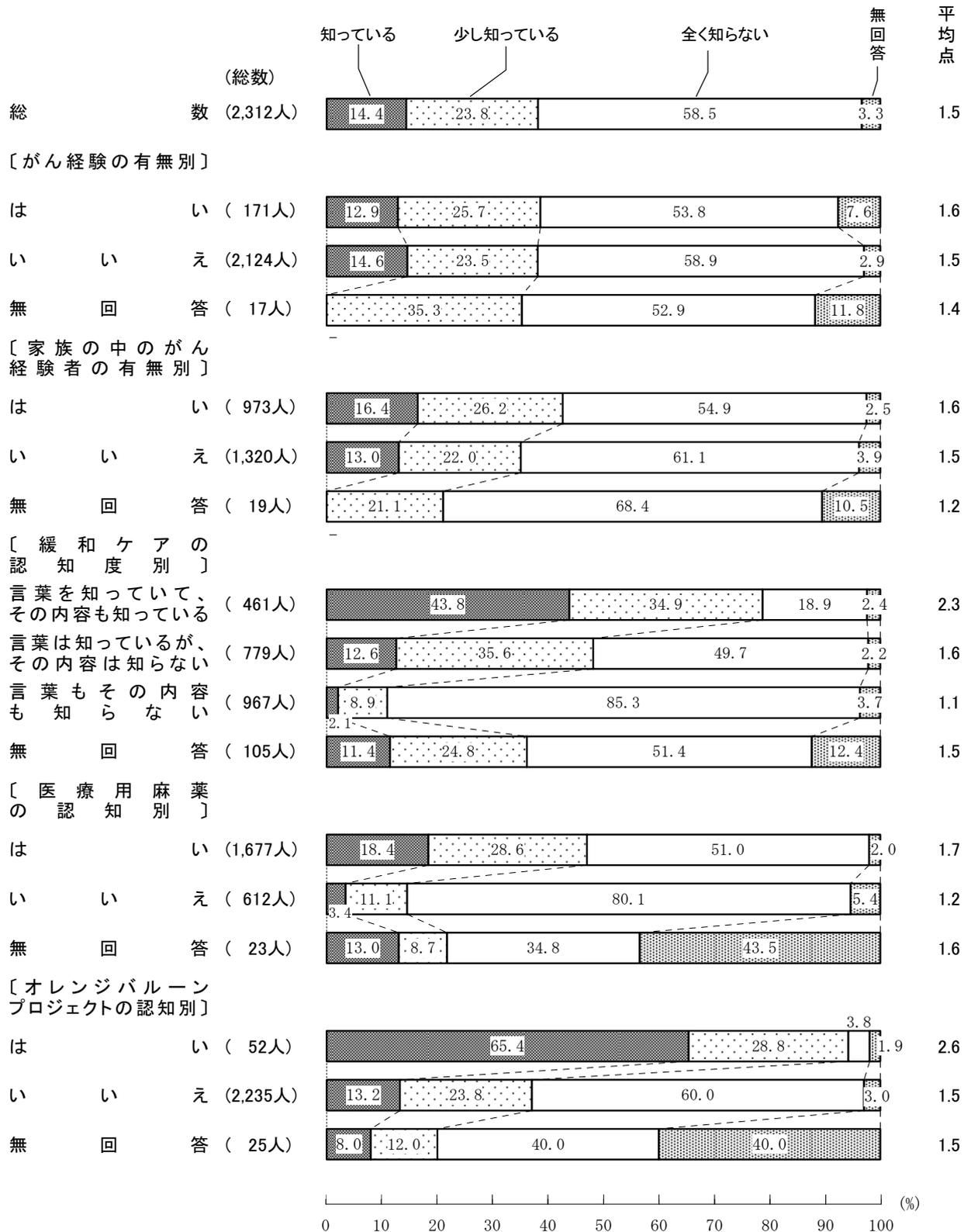
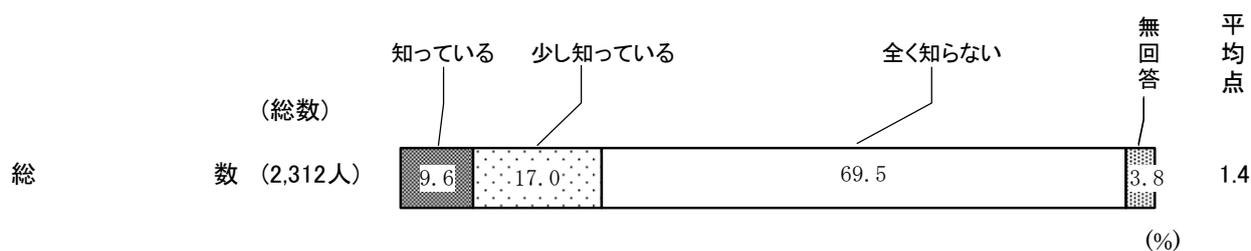


図7-2 (2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる



(3) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



上記(3)についてきいたところ、「知っている」が9.6%、「少し知っている」が17.0%、「全く知らない」が69.5%となっている。平均点は1.4である。

年代別にみると、「知っている」は30代(14.3%)や40代(13.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(11.4%)が男性(7.4%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「知っている」が11.4%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が34.5%と高く、平均点も2.0となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が12.0%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-3(1)、図7-3(2)>

図7-3(1) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる

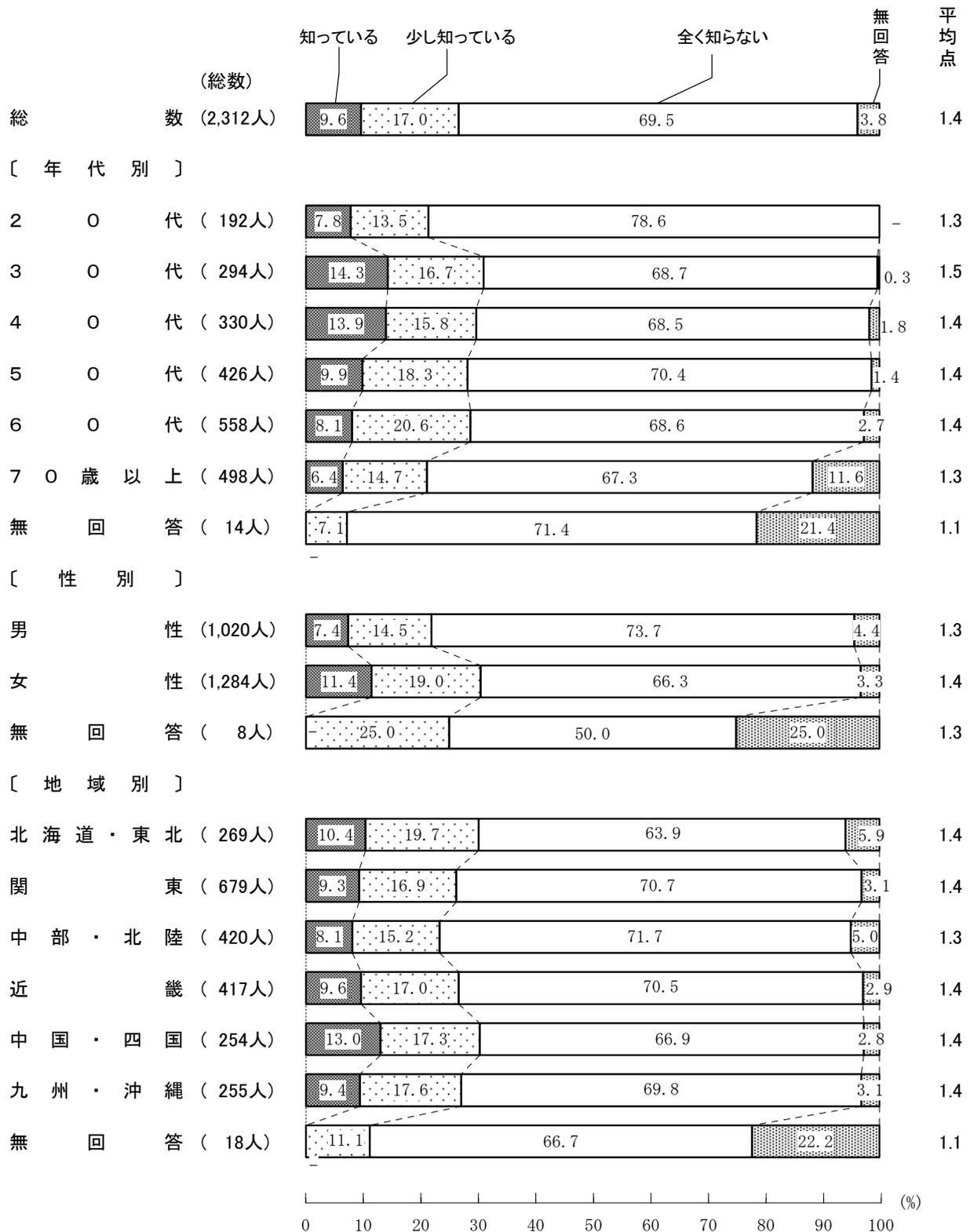
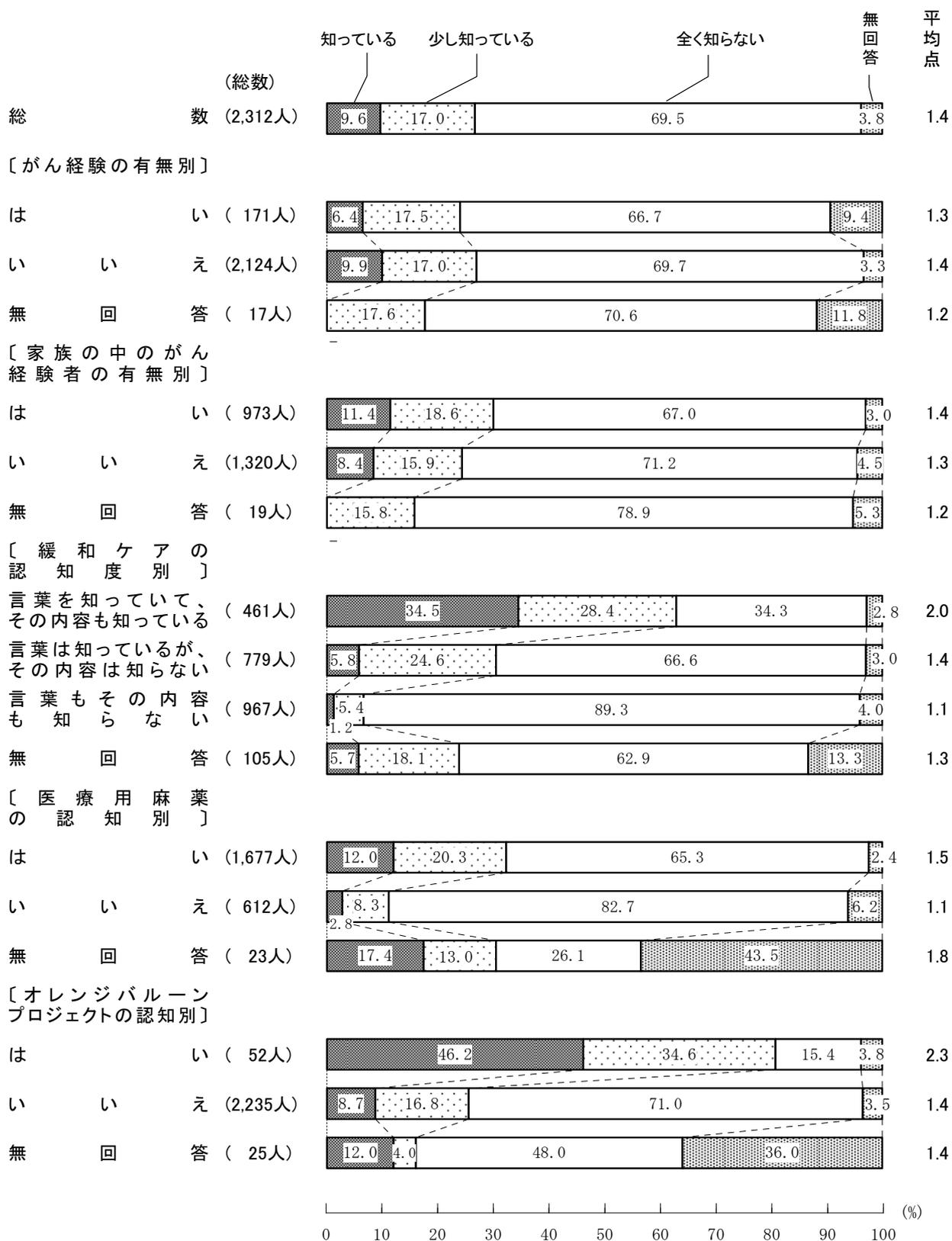
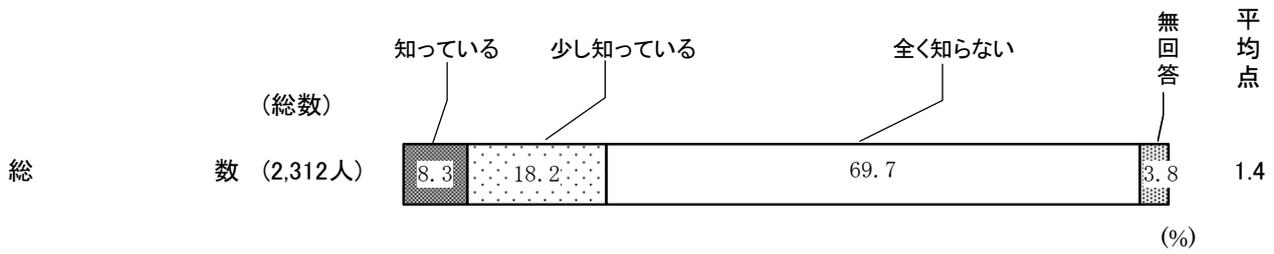


図7-3(2) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



(4) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



上記(4)についてきいたところ、「知っている」が8.3%、「少し知っている」が18.2%、「全く知らない」が69.7%となっている。平均点は1.4である。

年代別にみると、「知っている」は30代(12.2%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(9.6%)が男性(6.8%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者の有無別では大きな差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が28.6%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が10.4%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-4(1)、図7-4(2)>

図7-4 (1) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を
得て行っている

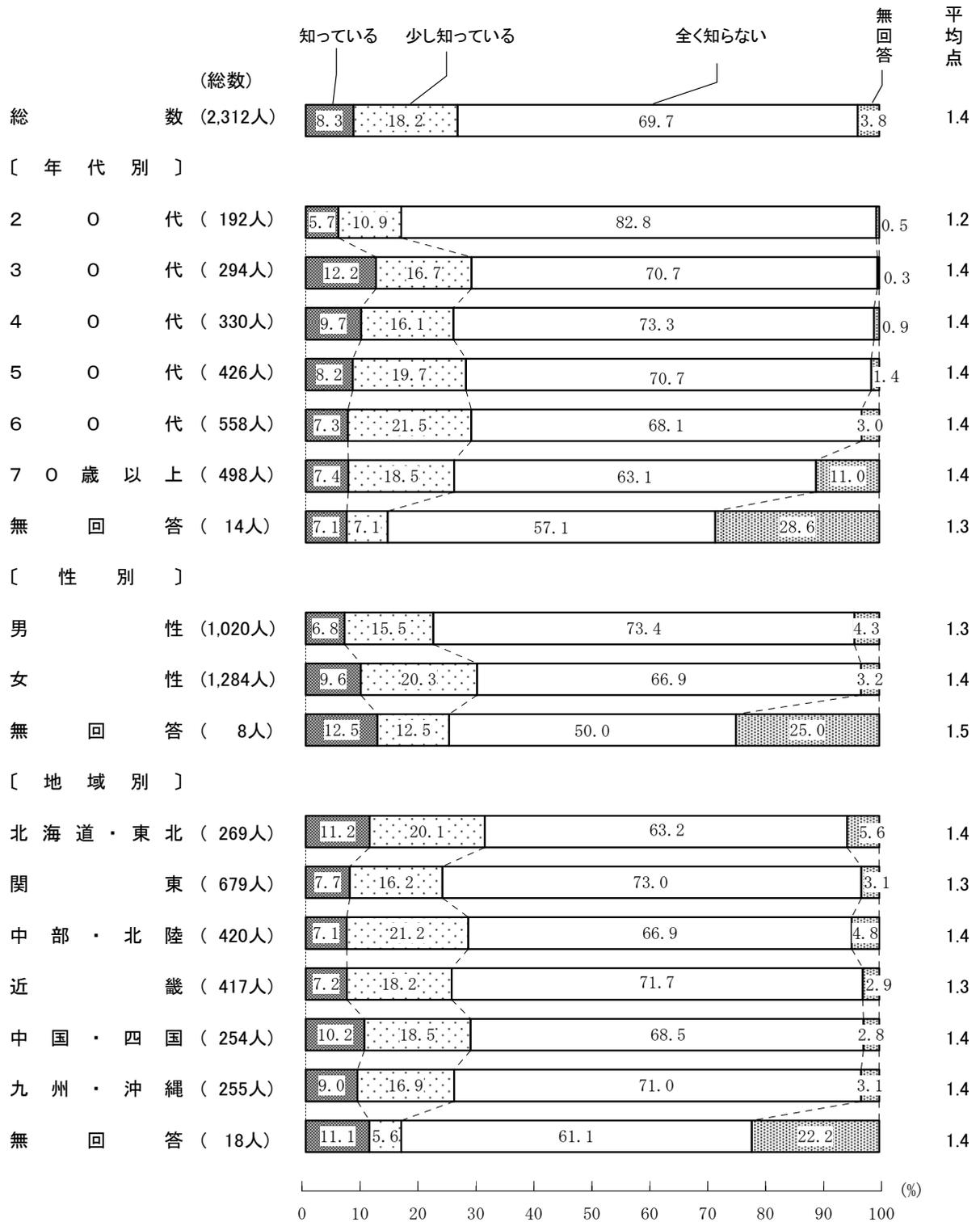
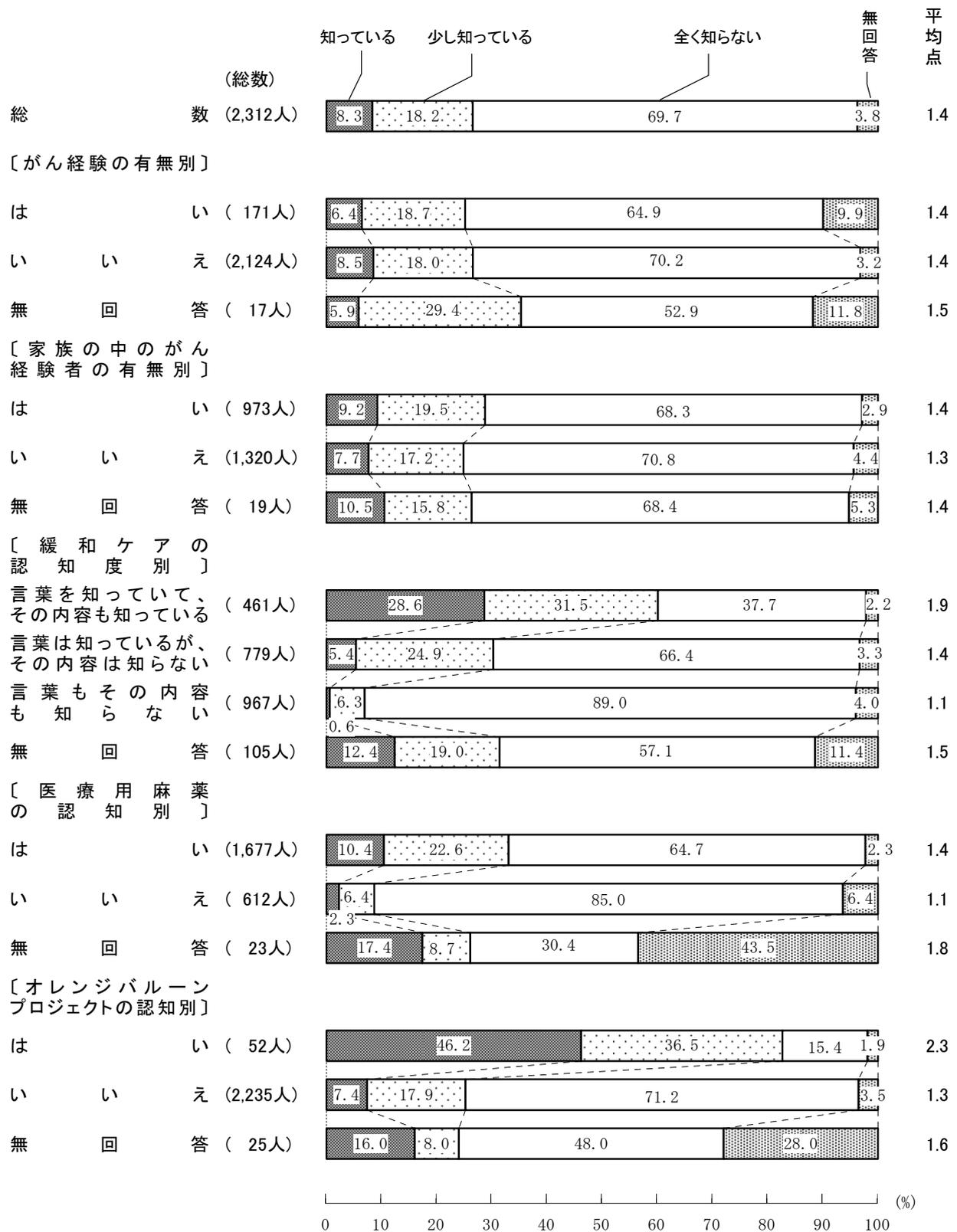
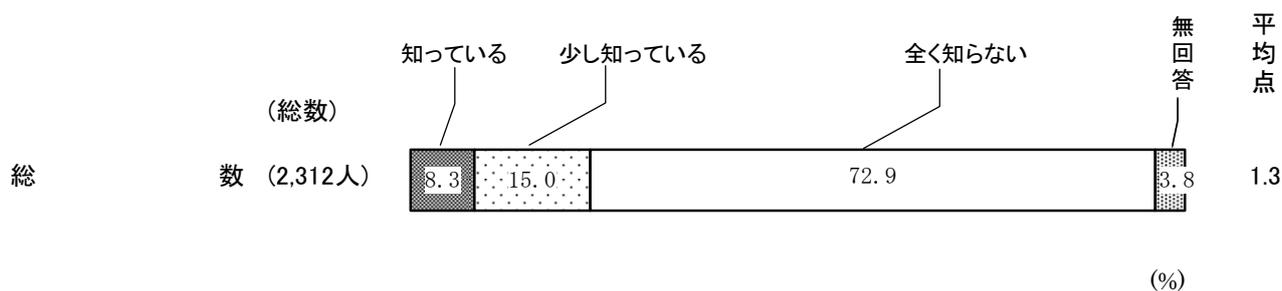


図7-4 (2) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を
得て行っている



(5) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない



上記(5)についてきいたところ、「知っている」が8.3%、「少し知っている」が15.0%、「全く知らない」が72.9%となっている。平均点は1.3である。

年代別にみると、「知っている」は40代(13.3%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(10.2%)が男性(5.9%)を上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が10.9%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が27.8%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が11.0%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が44.2%、平均点は2.2と高くなっている。

<図7-5(1)、図7-5(2)>

図7-5(1) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない

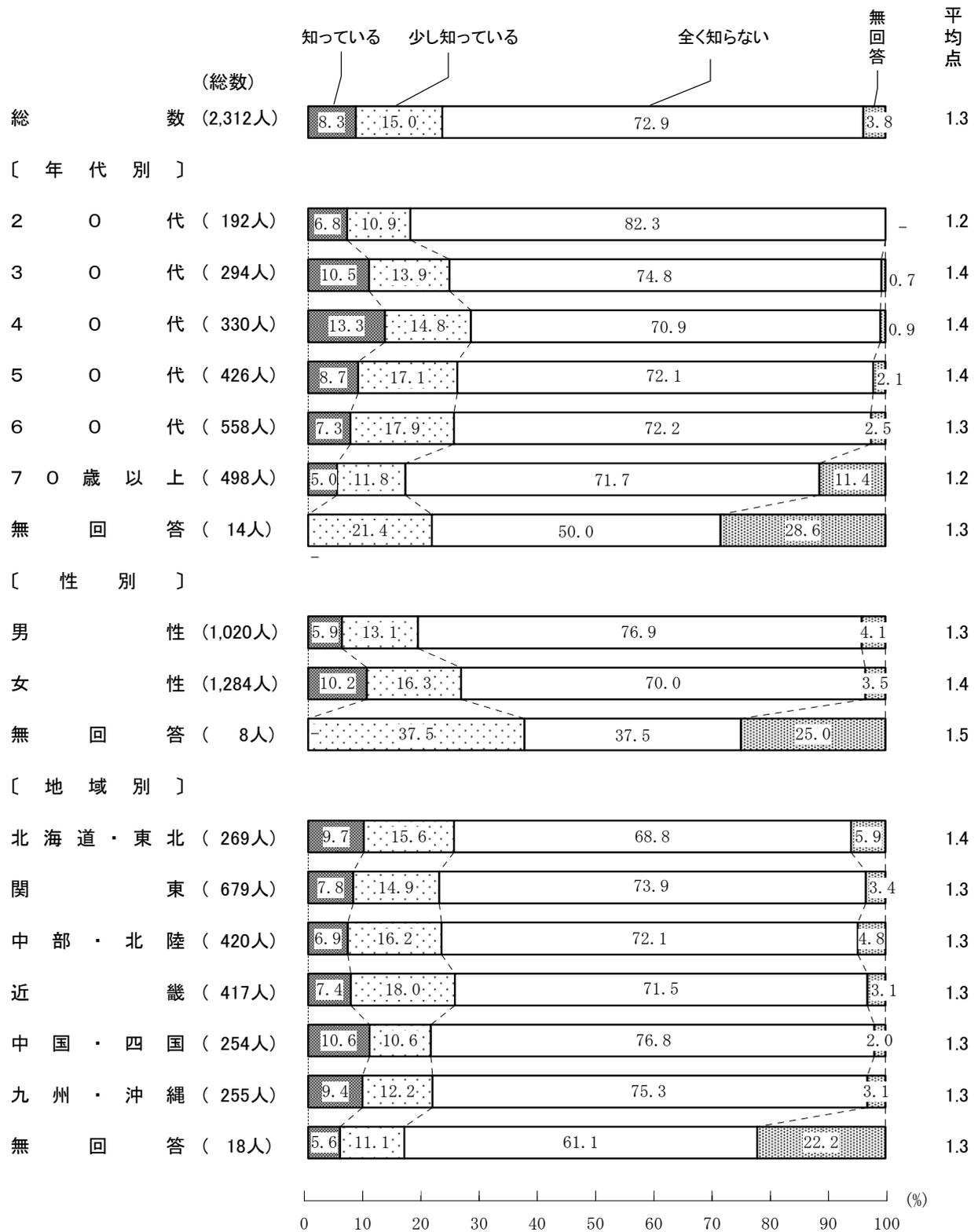
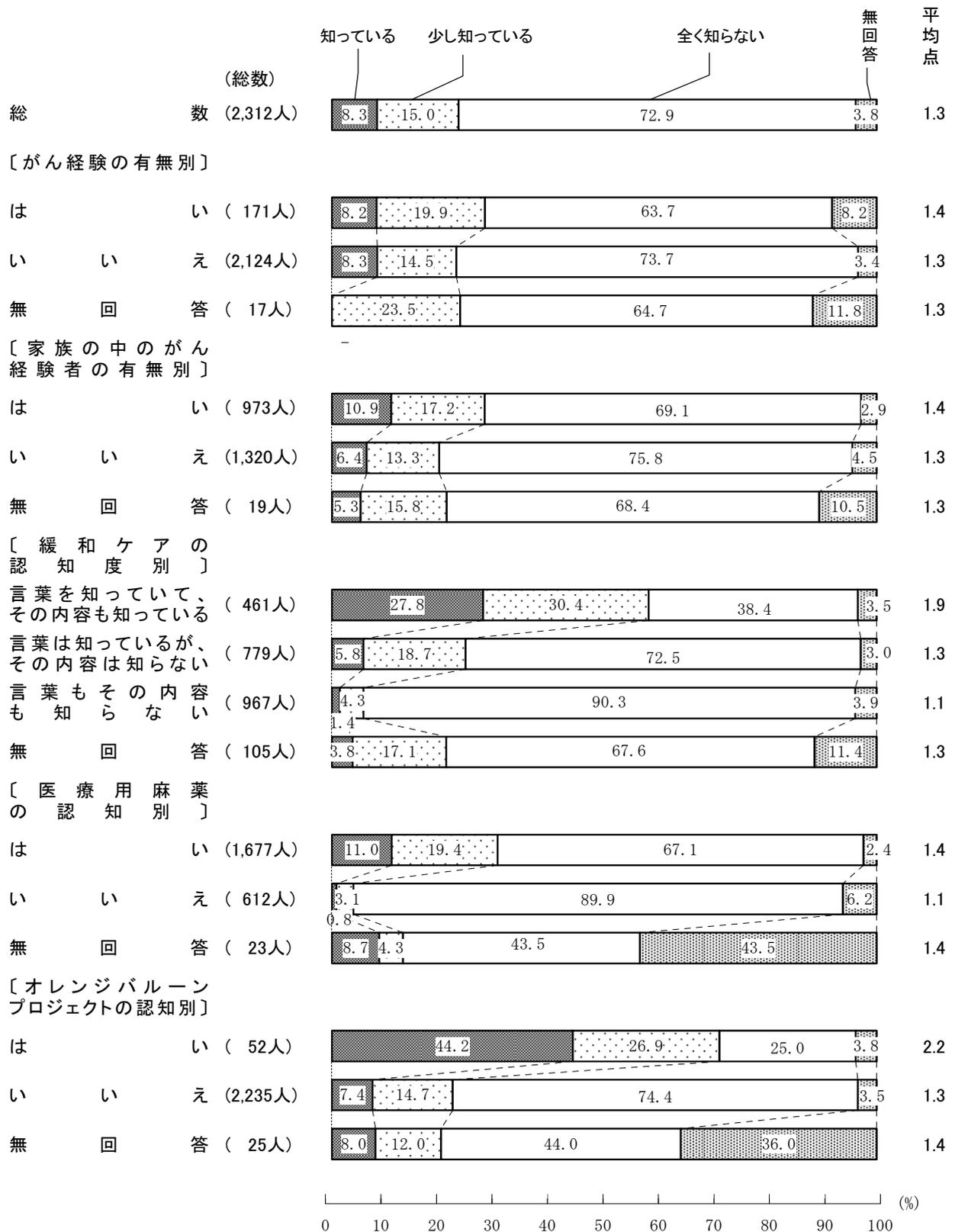
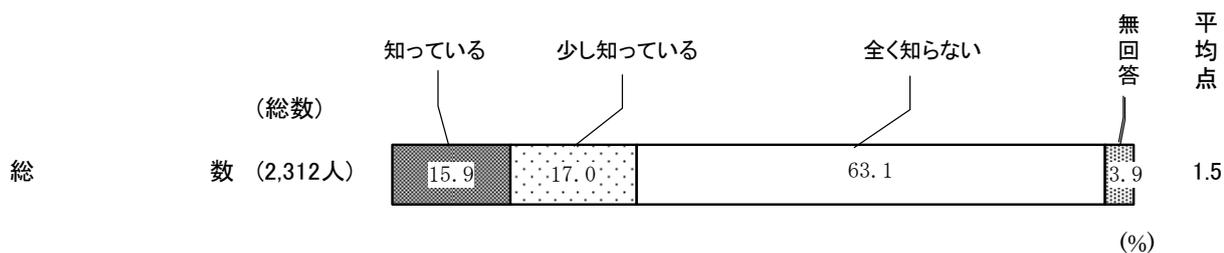


図 7-5 (2) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない



(6) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



上記(6)についてきいたところ、「知っている」が15.9%、「少し知っている」が17.0%、「全く知らない」が63.1%となっている。平均点は1.5である。

年代別にみると、「知っている」は40代(19.7%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(19.8%)と男性(11.1%)に9ポイントの差があり、平均点は、女性の1.6が男性の1.4を上回っている。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が19.2%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が45.3%と高く、平均点も2.2となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が20.5%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-6(1)、図7-6(2)>

図7-6 (1) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない

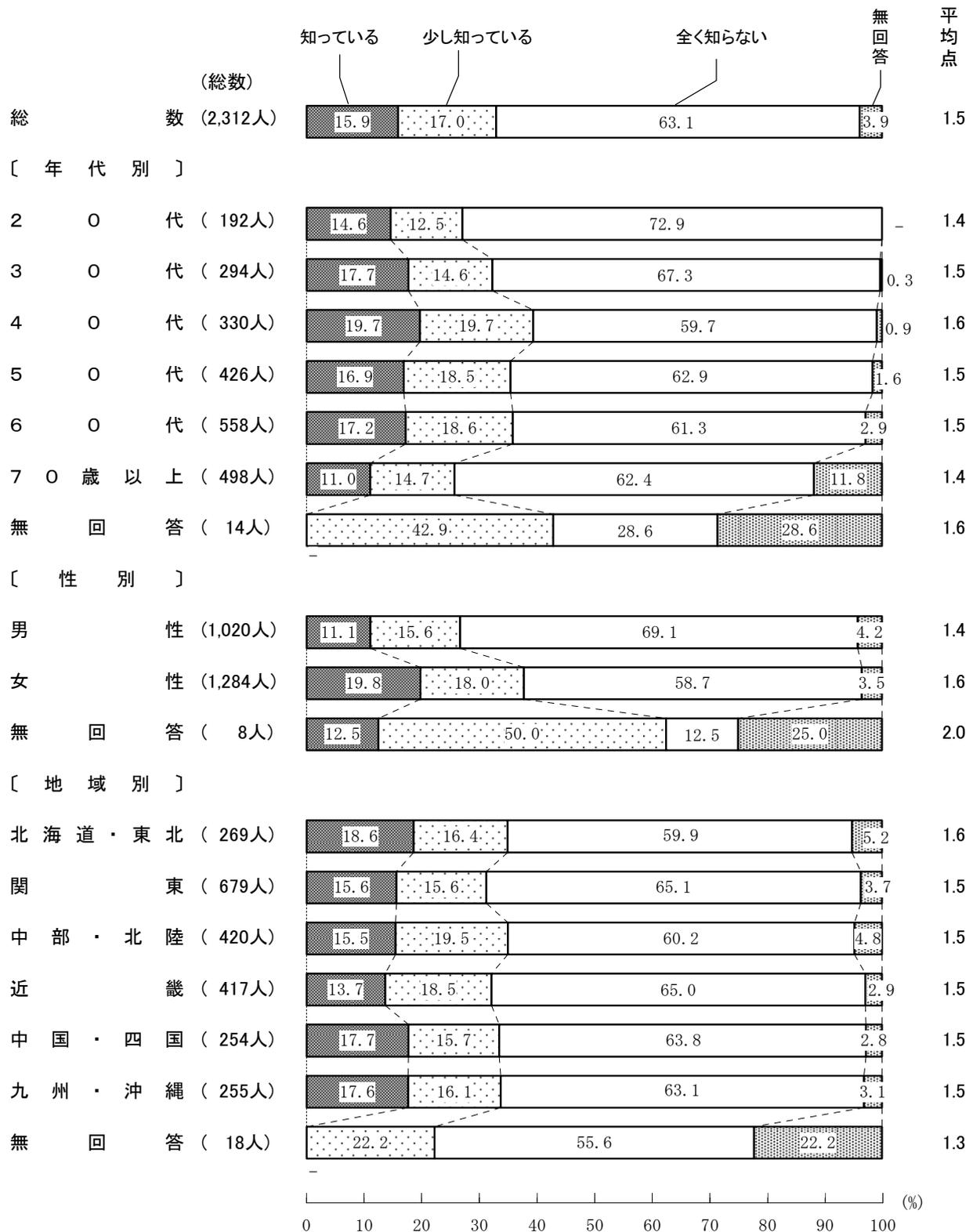
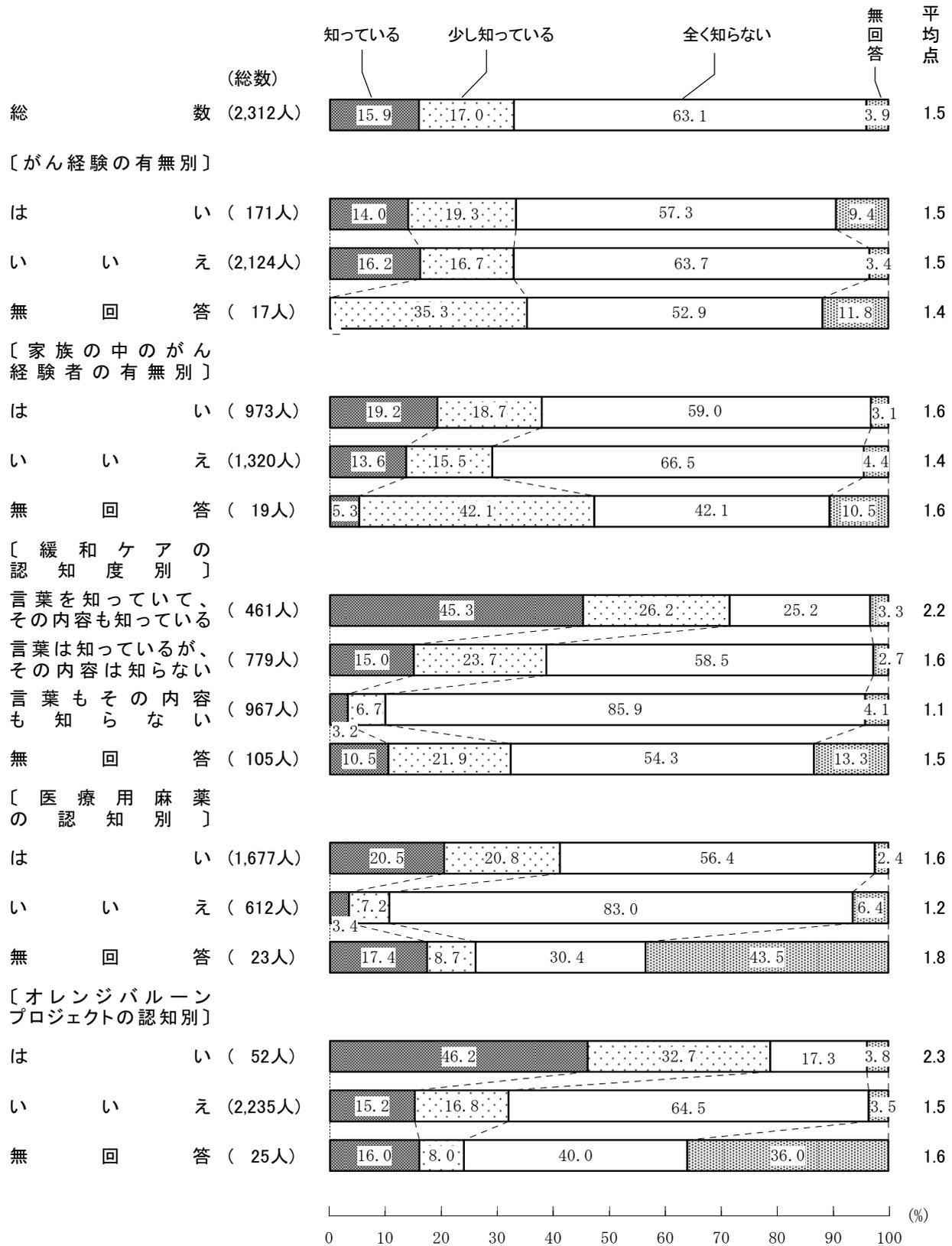
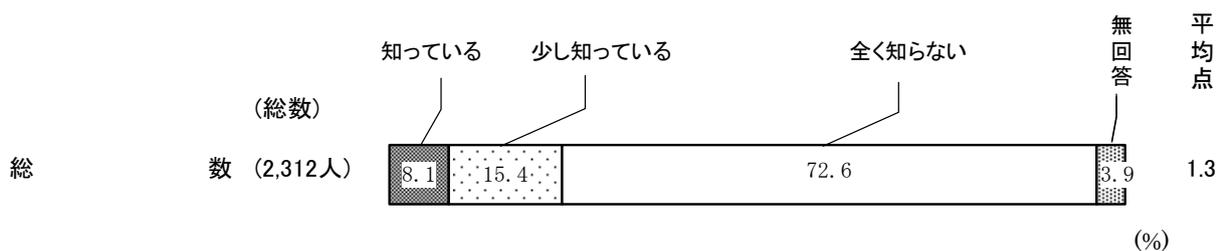


図7-6 (2) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



(7) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる



上記(7)についてきいたところ、「知っている」が8.1%、「少し知っている」が15.4%、「全く知らない」が72.6%となっている。平均点は1.3である。

年代別にみると、「知っている」は40代(12.7%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(9.5%)が男性(6.4%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が10.1%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が29.1%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が10.3%とやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が53.8%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-7(1)、図7-7(2)>

図7-7(1) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる

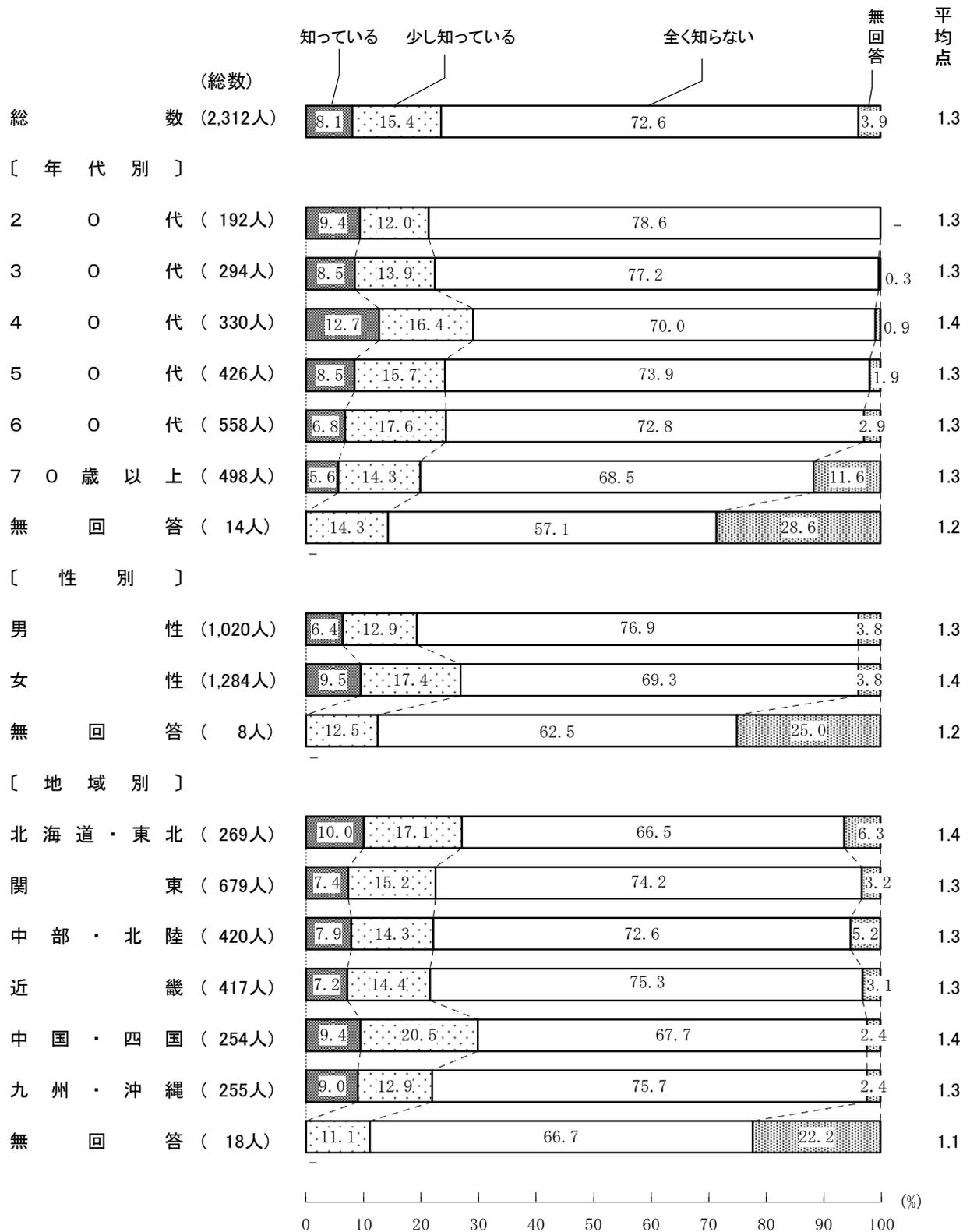
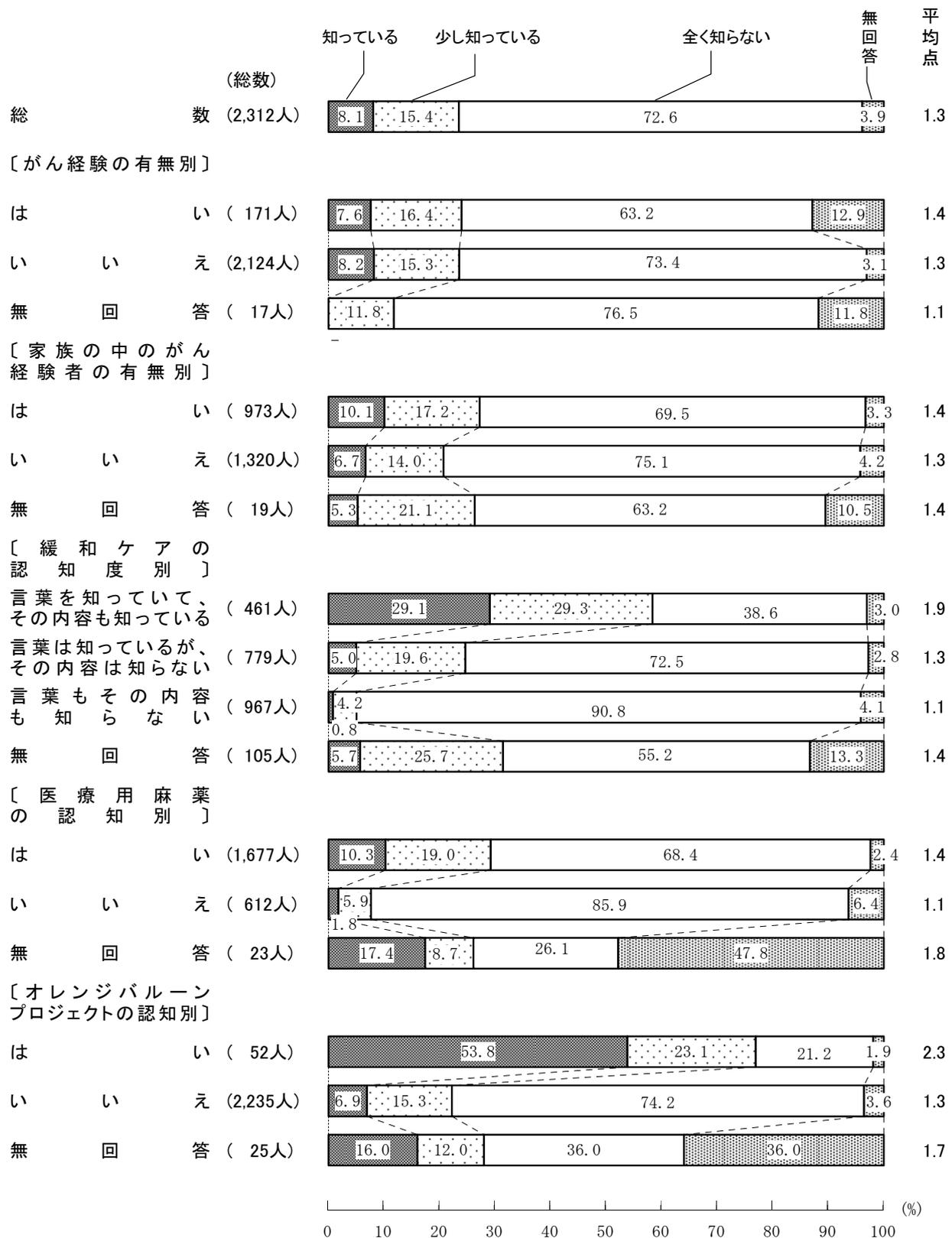
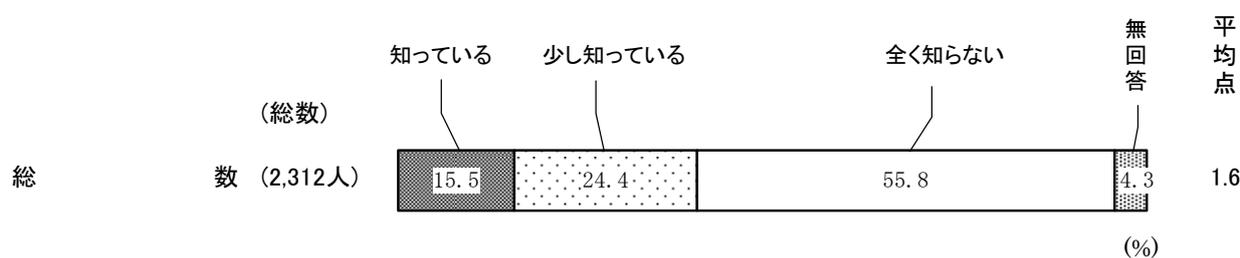


図7-7 (2) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる



(8) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善すると
いわれている



上記(8)についてきいたところ、「知っている」が15.5%、「少し知っている」が24.4%、「全く知らない」が55.8%となっている。平均点は1.6である。

年代別にみると、「知っている」は30代(20.7%)、40代(26.7%)で高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(18.5%)が男性(12.0%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が19.5%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が48.8%と高く、平均点も2.4となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が20.3%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が50.0%、平均点は2.4と高くなっている。

<図7-8(1)、図7-8(2)>

図7-8(1) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている

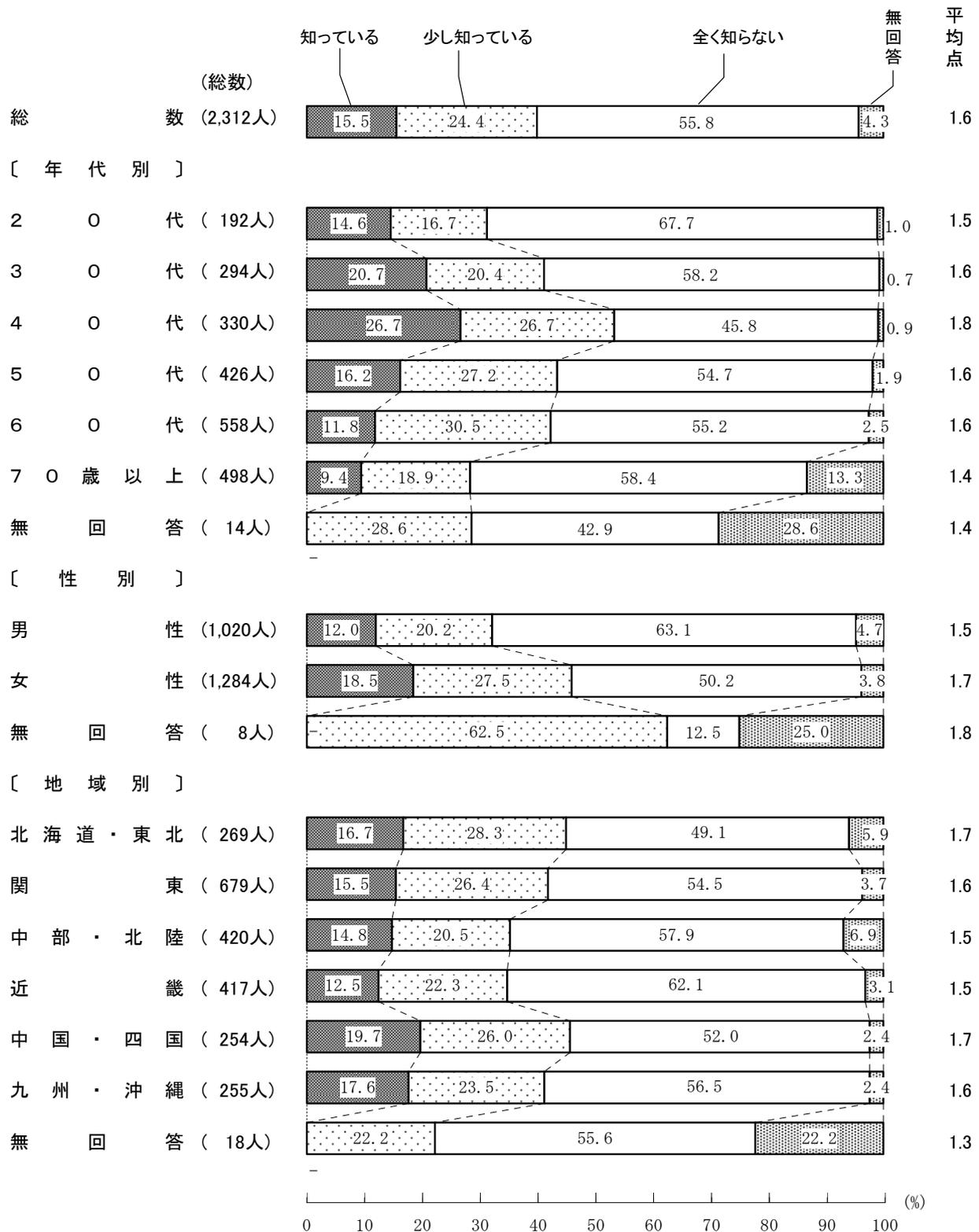
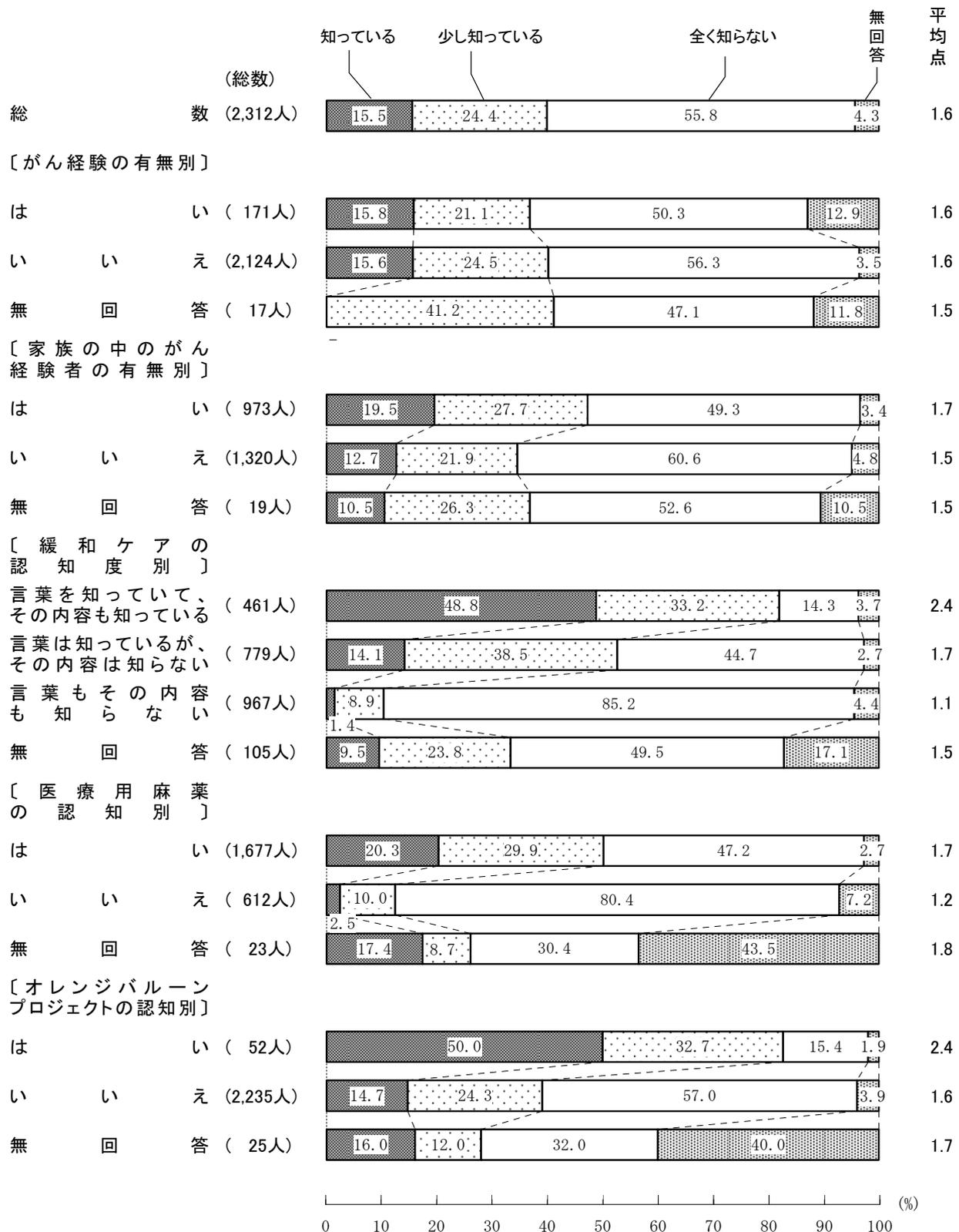


図7-8 (2) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている



8 「オレンジバブルプロジェクト」に期待すること

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバブルプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

問8(自由回答)の分類結果

回答有り 683人／集計数 2,312人中

複数回答

分類軸	内容	回答数
OBP	・OBPのPR(周知)をもっとしてほしい！ ・OBPの周知、公報を徹底してほしい！ ・OBPのことを知りたい(これから勉強したい)！	132
OBP	・OBPを地方(田舎)にも普及してほしい。 ・OBPを高齢者にも普及してほしい。	4
OBP	・OBPは初めて聞いた(聞いたことがなかった)。 ・OBPを知らなかった。	91
OBP	よくわからない(OBPについて)	8
OBP	・がんばってください。 ・期待しています。事業の発展を期待している。 ・よい活動だ。 ・活動を進めてほしい。幅広く活動してほしい。 ・ご苦労様(お疲れ様)です。	55
OBP	・テレビ(CMなど)やラジオで放送してほしい。 ・新聞でPRしてほしい。 ・マスメディアでPRしてほしい。 ・公的施設、病院などでパンフレット、チラシを置いてほしい(配布、掲示してほしい)。 ・広報誌などでPRしてほしい。	74
OBP	OBPの名前についての注文(長い、英語がよくない、変な名前だ等)	6
OBP	地域、公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く(学習する)機会がほしい	4
OBP	ピンクリボンについてのコメント	10
OBP	(その他) OBP への要望、提案、質問	22
OBP	(その他) OBP への批判、苦情、文句	5

つづき

分類軸	内容	回答数
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」の正しい知識の普及を！ ・「緩和ケア」の周知、広報を！ 	94
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について知りたい。 ・「緩和ケア」についての情報を知りたい。 ・「緩和ケア」に関する情報をキャッチしたい。 ・どこで受けられるか、費用はいくらかかるのか、相談できる所はどこなのかなどを事前に知ることができるようにしてほしい。 	43
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」は初めて知った。 ・「緩和ケア」を(よく)知らなかった。関心がなかった。 	73
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」を受けたい、受けさせたい(現在、もしくはがんになったら)。 ・「緩和ケア」は必要である。 ・もっと身近に「緩和ケア」を利用できるようにしてほしい。 ・「緩和ケア」を普及、推進、充実させてほしい。 ・誰もが「緩和ケア」を受けられるとよい。 	67
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について、 ・テレビ(CMなど)やラジオで放送してほしい。 ・新聞でPRしてほしい。 ・マスメディアでPRしてほしい。 ・公的施設、病院などでパンフレット、チラシを置いてほしい(配布してほしい)。 ・広報誌などでPRしてほしい。 	34
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について、地域、公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く(学習する)機会がほしい 	9
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・医師(医療関係者)は患者に「緩和ケア」の説明をしてほしい。 ・医師の説明だけでは不安。 ・医師も「緩和ケア」を理解してほしい。 ・医師への教育も必要である。 	17
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの痛み(苦しみ)を解消するために尽力を！ ・痛み(苦しみ)を軽くすることが一番。 ・がん＝痛みというイメージを無くして！ 	37
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・心の緩和ケアが大切である。 ・心の痛みや不安をケアする普及をしてほしい。 ・治療には精神科医も必要である。 	20
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の家族に対するケアやサポートが大切。 	10
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がん告知時には、きちんとした説明をしてほしい。 ・がん告知時(後)の心のケアを。 ・がんを申告されると、本人も家族も不安。 	3
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の(緩和)ケアは家族でしたい。家族にしてほしい。 ・患者の(緩和)ケアは家でしたい。家でされたい。 	4
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域差に関係なく(平等に)受けられるようにしてほしい。 ・「緩和ケア」の病棟や医療設備を充実してほしい、増やしてほしい。 ・近くに「緩和ケア」が受けられる施設があればよい。 ・どの医療機関でも「緩和ケア」が行えるようにしてほしい。 	26
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・QOL(生活の質)の考え方は大切。 ・QOL(生活の質)の向上を！普及を！ ・終末期には安らかに過ごせるようにしてほしい。 ・その人らしい生活をさせてほしい。 ・延命だけの治療はしないでほしい。 ・がん(痛み)で苦しんでいる患者が少しでも充実した日々を過ごすことができるような配慮を望む。 	37

つづき

分類軸	内容	回答数
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のない人でも治療が受けられるようにしてほしい。 ・(家計の)経済的負担の軽減を! ・健康保険が使えるようにしてほしい。 ・財政的な援助を。援助が足りていない。 	27
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がん(病気)になったら考える。 ・がん(病気)なってみないとわからない。 	14
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもがんになる可能性がある。 ・がんは増えている、がんになる人は多い。 ・自分もがんになるのかと思うことがある。 	34
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」を以前に知っていたらよかった。 ・「緩和ケア」を事前に知っておきたい。 	16
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」は初期からしてほしい。 ・「緩和ケア」は終末期のみというイメージがある。 ・初期ではどういうケアがあるのか。 	7
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) への要望、提案、質問	24
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) その他	1
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんにならないための情報を! ・がんを未然に防いでほしい。 ・がんになる前の検診をしてほしい(検診への要望など)。 ・早期発見をしてほしい。 	3
がん	医療用麻薬についての要望やコメント (正しく使用できる医師を養成してほしい 等)	14
がん	(医療用麻薬以外の)薬についての要望やコメント	3
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんは告知すべき(されるべき)。 ・がんの告知について。 	4
がん	・(自身の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。	14
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・(家族の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。 ・(友人、知人の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。 	53
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんは怖い。 ・がん=不安である。 ・がん=死、がん=不治の病というイメージがある。 	19
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する要望、提案、質問	6
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する批判、苦情、文句	1
医療全般	安楽死、尊厳死について(安楽死を認めてほしい 等)	4
医療全般	(その他)医療全般 に関する要望、提案、質問	9

つづき

分類軸	内容	回答数
調査 (アンケート)	アンケートの中身が難しい、記入がしにくい(緩和ケア、OBP、QOLなどがよくわからないから)	5
調査 (アンケート)	アンケートは意味がない	1
調査 (アンケート)	・アンケートの質問についてのコメント(疑問)。 ・アンケートの記入についてのコメント。	6
調査 (アンケート)	・「緩和ケア調査」は役に立つ。 ・このアンケートが役に立つことを希望。	1
調査 (アンケート)	・何で私が選ばれたのか。 ・まともなアンケートなのか(不安)。	1
調査 (アンケート)	返送(提出)が遅くなった	2
調査 (アンケート)	調査についてのお礼(OBPや緩和ケアを知るよいきっかけになった)	8
調査 (アンケート)	その他 (調査・アンケート)	4
その他	その他	9

1175

III 自由回答一覽

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。
(○はいくつでも)

「7. その他」の記入内容(89件、うちコメントなし3件)

- ・義父(19件)
- ・おば(13件)
- ・義母(11件)
- ・義親(6件)
- ・いとこ(5件)
- ・おじ(5件)
- ・おじ、おば(4件)
- ・義兄(3件)
- ・義弟(2件)

- ・親類(2件)
- ・おい
- ・おじ、義父、義母
- ・おばの夫
- ・義祖父
- ・義祖母
- ・嫁
- ・義兄姉
- ・義祖母

※重複回答はまとめて記載

- ・義父母、義妹
- ・義妹
- ・子供の配偶者
- ・主人の義母
- ・祖父の妹
- ・祖父母の兄弟
- ・祖母の妹
- ・娘の夫

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)

「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(○は1つ)

「9. その他」の記入内容(74件、うちコメントなし8件)

- ・覚えていない(8件)
- ・本(6件)
- ・学校(4件)
- ・大学の講義(3件)
- ・学校の授業(3件)
- ・雑誌(2件)
- ・仕事(2件)
- ・大学で(2件)
- ・病院(2件)
- ・「余命半年」の本
- ・HPMSW
- ・がんについての小冊子
- ・ガンに関する本
- ・グループホームで仕事をしている時に。
- ・ホスピス入所中の人の本を読んで知った
- ・記憶はないが何となく耳にしたような気がする。病院に行った時、目にしたような気がする。

- ・つい耳にしていた
- ・なんとなく
- ・まんが本
- ・介護の仕事で
- ・会社
- ・緩和という言葉から
- ・勤務先(病院)
- ・元看護師
- ・元病院勤務(事務)
- ・雑誌等
- ・仕事上で
- ・辞典
- ・授業

※重複回答はまとめて記載

- ・授業、テキスト
- ・週刊誌
- ・週刊誌(週間文春)
- ・出版物
- ・書籍
- ・人づて
- ・昔看護師を目指していて
- ・専門学校の授業
- ・病棟の案内板
- ・福祉職のため
- ・本・・・小説
- ・薬業の者
- ・薬品関係の専門誌
- ・マンガ(ブラックジャックによるしく)

問3-3 補問1 (問3-3で1「はい」をお選びの方に)

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。(〇はいくつでも)

「6. その他」の記入内容(0件)

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何ですか。(〇はいくつでも)

「10. その他」の記入内容(52件、うちコメントなし11件)

- ・病院で(ガン)ですといわれたら考える
- ・患者の家族に対して行うケアについて
- ・とにかく痛いらしいので尊厳死について
- ・いつまで、どこまでの行動、生活が可能か(例えば仕事、日常生活、旅行、外出他)
- ・緩和ケアをよく知りません
- ・緩和ケアとは何か(ここまで読んで「緩和ケア」が何かわからない)
- ・緩和ケアの具体的な活動内容
- ・初期段階から受けられる緩和ケアについてもっとインフォームドコンセプトしてほしい
- ・ガンと告知されていない人のケアについて(ケアできるのか?)
- ・テレビ
- ・そもそも緩和ケアが何なのかについて
- ・ガンに関するパンフレットがあればいいと思います
- ・お金
- ・精神、体が変わった事があつたらどこへ相談したらよいか
- ・自分はガン経験がない
- ・緩和ケア今ピンとこない。内容をかみください。
- ・がんの問題は家族と医師にまかせています
- ・緩和ケア自体について知らないなので、まずはケアについて
- ・患者様は緩和ケアをまち望んでいますか?
- ・がんの原因となっている物質・生活環境などの情報、それに対する国家的対策の情報。がんという”結果”を取りのぞくことに、国や団体が、どのくらい力を尽しているかでなく、がんという病気の”原因”を取りのぞくために、国または団体がどのくらい力を尽しているか知りたい。
- ・全ての事を知りたい
- ・ただ死期を延ばすだけは、不要。早く尊厳死をみとめてほしい。
- ・今、知る必要のあることなのか?少し疑問あり。
- ・緩和ケアの効果はどのようなものか。
- ・その物を知りたい。
- ・まず告知して欲しい
- ・がん患者だけでなく家族の緩和ケアについて。
- ・自分が、この場に、立たされたら、1~9まで全部〇
- ・実際の緩和ケア使用者またはその家族のアンケート(満足度、信頼関係、今後の課題等)調査結

果あれば知りたい。

- ・本人だけでなく、その家族への心のケアが必要。
- ・緩和ケアとホスピスの違いを知りたい
- ・がんに限らず難治疾患に対しての緩和ケアを知りたい
- ・緩和ケアを行うことの利点
- ・現在はがんになってないので（家族）そんなに関心はない。
- ・段階的に全てについて
- ・緩和ケアじたいどういう事をしめすのかという事が分からないと何とも言えない。
- ・緩和ケア病棟の入院条件（期間）
- ・家族のカウンセリング
- ・家族の不安や悩みに対するケアについて
- ・ガンになった時にどこの医療機関へ受診すれば良いのか？
- ・医療費について

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(○はいくつでも)

「13. その他」の記入内容（22件、うちコメントなし3件）

- ・目に飛び込んでくるもの、チラシなど
- ・？
- ・貴情報センター
- ・会社
- ・どんな病院でも親切におしえてくれるところ
- ・デイケア
- ・患者本人又は家族でできれば
- ・”緩和ケア”の日の制定
- ・電車の中での広告
- ・地方では民生委員の方等に親しく教えていただきたい。
- ・医療の知識を十分に持った方との対話の中から情報を得たい
- ・薬局
- ・保健師
- ・知人
- ・保健所
- ・公民館、市民会館等
- ・パンフレット
- ・体験者の話
- ・電話で相談出来る方法

問6-1 補問1（問6-1で1「はい」をお選びの方に）
「オレンジバレーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。
(○は1つ)

「9. その他」の記入内容（3件、うちコメントなし1件）

- ・会社
- ・職場

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

記入内容（683件）

- ・実際にその病いにかかった場合、どのようにどこに相談したらよいか考える機会になりました。
- ・より多くがん患者が安心して利用できるようにして頂きたい。
- ・不勉強のため「オレンジバルーンプロジェクト」について知りませんでした。これから「緩和ケア」も含め、関心を持たねばいけないな、と思っています。
- ・実際まわりにガンになった人がいないせいもあり、認知度が少ないのでは…。放射線治療も300万円近いと聞いています。
- ・がんの宣告も含め、がんとどう向き合えば良いのか難しい事と思いますが、今までの実績や事例など公表してもらえればと思います
- ・1) 市広報誌などで。2) 新聞やポスター、自治会の掲示板など。
- ・医師と患者とのコミュニケーションが第一だと思う。又貴グループの様な立場で患者の立場を応援していただく事は有難い事と思います。頑張ってください。
- ・リスクの部分は何なのか教えていただきたいです。
- ・正直この言葉は全く知りませんでした。テレビ、新聞、インターネットその他の方法で、もっともっとPRが皆に必要ではないでしょうか！緩和ケアの言葉は知ってましたが（いろんな情報で）
- ・痛み止めを飲み終末とします。
- ・緩和ケアを知らない人が多いと思うので、普及活動を推進してほしい。
- ・どんな活動をしているのか、これから学んで行きたい。緩和ケアは非常に大事であると考えています。頑張ってください。
- ・がんは、死を待つだけのものではないということを多くの方々に理解してもらいたい。「その人らしい」生き方などがあるなかで、この緩和ケアのプロジェクトを多く宣伝してほしいです。
- ・家族の理解等、全体的なケアが望ましいと思う
- ・マスコミ、テレビ等、取り上げて放送、伝達などがないと普通の生活の中では知らなかった。病院にかなり通院しているが、直接に関係ない事は無知であると思った
- ・がんの終末期になってから「緩和ケア」を受けました。「緩和ケア」という言葉のひびきから、死につながるものという印象をまだ受けますので、がんの治療中から当事者がかわりを持つというのは抵抗がありますが、逝くまで一緒に過ごした者にとっては闘病者の環境作りの手助けのために「緩和ケア」を利用したかったと思っています
- ・私の住んでいる所では（緩和ケア）を知る人は少ないと思います。できたら新聞、テレビなどで説明わかる様な事をしてほしいです
- ・オレンジバルーンプロジェクトに付いて広報活動をして欲しい。
- ・ケアマネジャーをしています。ガンの方もおられますが、緩和ケアに行く方は恵まれた家族の理解が有り、経済的にも心配のない方？ではないかと思っております。身近かに有れば、安心して医療も受けられて良いと思います
- ・こういうアンケートを取る機会も活用して、リーフレットなどを同封し知らせてはどうですか。（アンケートの意味がなくなるかもしれないが、私のように全く知らない者に、知らないということを答えさせるだけでは本末転倒であり、それより啓発していく方が大事だと思いますが。）

- ・病人の世話は体力もさる事ながら逃る事の出来ない重圧に押し潰されそうであった。世話されることを考えただけでも重苦しい。問7のア〜ク全てでなく緩和ケアがどこにいても、十分にされる事を願いたい
- ・これまで身近に緩和ケアを必要とする人がいなかったの、考えたことがなかったのですが、今回のこのアンケートに興味を持ちました。新聞の医療特集のような紙面（子宮頸がんのワクチン接種を推進するお医者さんの座談会のような啓発紙面）などでぜひ取り上げてほしいです。
- ・若い年齢層の人たちにも関心を持ってもらえるように雑誌などに特集を組んでアピールして欲しいと思います。実際に緩和ケアを体験した方の体験談をテレビやインターネット、新聞などを通して伝えることができれば、普及されるのではないかと思います。
- ・痛みの緩和、費用などがわかりやすいと利用しやすくなると思います
- ・このアンケートに答えてみて「緩和ケア」が身近なものではないということにあらためて気づきました。貴プロジェクトには、認識度を高める活動をもっとおこなっていただきたいと思います。
- ・活動内容を自治体の広報誌を活用して知らせて欲しい
- ・「緩和ケア」自体の認知の普及がないため、研究が進んでもなかなかニーズ（知らない人にはいい）がないのかもしれない。私のようなもの（無知）でも今日のような無作為郵送により認知できたのでこういったことをして下さるのは感謝です。封筒自体に無作為郵送の旨を示した方が開封確率が上がると思います。
- ・テレビといった身近なメディアを活用してより一層の緩和ケアへの理解を高めていただく事を期待いたします。
- ・その立場（患者）になってみないとわからない
- ・事業について多くの人に行きわたる様に事業内容を知らせてほしい。
- ・アロマの仕事をしています。病院と協力し、緩和ケアの手伝いをしたいと考えています。もっとたくさんの人に緩和ケアのことを知っていただけるように、がんばって活動して下さい。
- ・オレンジバルーンという言葉を全く知りませんでした。ピンクリボンのように広く知れ渡れば良いと思います。
- ・活動の内容を詳しく知りたいし、いざと言う時ではなく知る機会には是非欲しいと思っています。何も無い時でも詳しく知る事は大事と考えています。
- ・癌治療に対しすべて健康保険の適用
- ・簡単に情報を得られる様
- ・いろんな人に受けられるように患者さん皆が利用しやすい費用や宣伝広告などをもっと身近かにしてほしいです。
- ・もっと国民にその役割をPRして欲しい。
- ・全く知らない事でしたので若干勉強になりました。できればリーフレット程度のものでも読んでみたいので発行して（一般に）頂ければ有難いです。
- ・地域の公民館や、保健所、医師会館などで市政ニュースなどを通して勉強してみたい。
- ・痛みに苦しむ人々の身体と心をささえ人々の苦しみを少しでも軽くして下さい。
- ・今、ガンになる人はとても多いと聞くので、この事業をテレビ等を通じて、もっとおしえてほしいと思う。金額などは全くわかりませんが、誰でも受けられるようにできるだけ安くなるようにしてほしいと思います。
- ・高齢者の場合、医療費等はだいぶ安く受けられると思うが、若い人はがんになると、治療費（抗がん剤、放射線治療、手術費等）がかなり高額になり、生活費、子供への学費等、より良い治療を受けたいと思っても経済的に困難な場合がある。ベストな治療を受けられるような治療体制に

してほしい。

- ・施設の数を増やしてほしい。ベット数の増設、入院費が安くなるといい。終末期では無理でしょう。
- ・これから高齢者がどんどん増えて来ますので、緩和ケアを受けられる病院や施設をどんどん増やして欲しいと思います。
- ・看護師さんの知識・技術・給料を上げる方向で医療行政を考えて下さい。自ずと緩和ケア、その他に関心が高まるはずで
- ・緩和ケアはガンの末期患者のためのものだと思っていました。自分は、ボロボロになり、ジタバタしながら死を向かえるのかと思った事もあります。緩和ケアが初期にうけられ心にも大きくたずさわる事を知り、もっと多くの人々に知ってほしいと思いました。あと、告知の事についてよく考えます。自分の場合、家族の場合どうしたらよいでしょうか
- ・一般、多くの人に知ってもらい緩和ケアを普及するようもっとPRを広めてほしい。現在ガンを患っていないためアンケート記入に少しとまどって記入しました。
- ・テレビ等で解りやすく説明していただく機会があれば良いと思います
- ・ガン患者のために良い薬、よい治療、緩和ケアが出来る事が望ましい
- ・田舎でも受けさせてあげたいと思います
- ・「緩和ケア」内容については、より広く知って頂く努力が必要と考える。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」かたかな・ローマ字より漢字が伝わる気がします。年寄りはいへんです。
- ・近くの公立病院が廃院になり住民は不安な毎日です。しっかりした病院で治療を皆が平等に受けられることを望んでいます
- ・“痛み”そのものが人に与えるダメージは、大きいと思います。“緩和ケア”について、もっと広く情報が行き渡ることを望んでおります
- ・がん患者の人々の不安が取り除かれる事はすばらしいと思います。頑張ってください。
- ・正しい情報を国民に伝達し、がんで苦しむ人の援助してほしい。一般的に緩和ケアは病院で行われるものと認識しておりましたが、在宅で受けることができるのであれば、もっとピーアールしてほしい。人間らしく自宅で最後をむかえたいという人はもっともっといると思います。
- ・知識が無さ過ぎるので今後勉強したい
- ・初めて知りました。今は元気なので
- ・知名度が低い、緩和ケア≒安楽死と言う間違えたイメージがある、プロジェクトを通じて緩和ケアが広く知られる事を期待しています
- ・少しでも患者さんのQOLが向上するとよいですね
- ・わからない。
- ・テレビやポスターで、もっと説明してほしい。番組で取り上げるなど働きかけてほしい。
- ・緩和ケアに重要な役割を果す、臨床心理士やケースワーカーの地位を医師並に上げるように働きかけて欲しい
- ・まずは、広く人々に活動内容を知らせて下さい
- ・私は父を胃がんで亡くしている為、がんの痛みのつらさも見ていました。のこされた家族は、担当した医師によって、心が救われたり、傷つけられることが多いことも実感しました。病院や医師の指導にも力を入れていただけたらと思います。
- ・とにかく私の父が、ガンで非常に痛がっていたので尊厳死について、自分がガンになった時緩和ケアを受けたいです。

- ・正しい情報を一人でも多くの方に伝えられるようにして欲しいです。
- ・もっと積極的に医療制度のわくをこえて行うべきです。癌患者の%を考えたら、国として経済的にも支援すべき事業と考えます
- ・87才になる母が突然肺癌と宣告され、予命2ヶ月と診断されました。突然の事で驚いております。診断書には緩和ケアの言葉がありました。それまで知りませんでした。ありがたいことに痛みはなく点滴の治療と3食の食事です。母を見て感じた事が一つあります。食べる事が生きることに結びついている事です。
- ・ガンの初期から治療と一緒に受けることができるよう緩和ケアしてもらいたい。又在宅など地域の中で受ける事が出来るように！！
- ・私のおばは、緩和ケアどころか、通院していた病院で新薬があると言われて期待して行った所、突然余命1年の宣告を受け、気力をなくして食欲もなくなりわずか数週間で亡くなりました。実母も医療ミスで命を落としかけ、転院先の病院ではモルモットのような扱いを受けました。全ての方が安心、信頼して医療を受けられる国にして下さい！！
- ・緩和ケアについてはあまり知識がないのもっと正確な情報を発信して欲しい
- ・万一がんになった時、症状経過、生活の変化、治療費、痛みと不安は果てしなく大きいものと思います。どうぞ痛みが最少限で生活が破たんせず治療が受けられるようご指導下さい。家族のケアもよろしくお願いします
- ・断片的に知識を集めているが、系統立てた知識を広く欲しい。新聞、インターネット何でもどんどん情報を流して下さい。
- ・ガンだけじゃなくもっとほかにやることがあるとおもう。私も障害者ですけど保証がない。区役所とか行っても金銭的なこともなにもやってくれないでガンだけをとくべつあつかいするのはよくないとおもう。こんぼんてきにこのプロジェクトはいいとおもうけどほかの病人とかもちゃんとしてもらいたい。だからガンとかのまえにいろいろとやるがあるとおもう。
- ・緩和ケアを受ける事をもう少しマスコミなどの協力を得て苦しんでいる人への援助を広くつたえる活動を期待しています
- ・一番は病人がケアを受けることが大切だと思いますが、周囲の家族もケアが必要だと思います。
- ・緩和ケアは、がんの終末期に受けるという考えの人はたくさんいると思います。初期からでも受けることができるという概念をもっと普及させ、がんになった人達が少しでも痛みから解放され、よりQOLを向上させられるような医療にしていってほしいです。
- ・身近になれば、こういう事はあまりわからないと思います
- ・場所を多く作ってほしいです
- ・本人だけでなく、家族の身体と心のケアも対応して欲しいです
- ・人生の終盤は安らかに往きたいです。緩和ケアが益々普及する事を望みます
- ・主人が昨年8月にがんで緩和ケア一病棟で医師の紹介でした。10日余りで緩和ケア一病棟で亡くなりました。医師、看護師さん達に良くして頂きました。これからもいろんな情報を知りたいです
- ・父がガンで苦しむのを見て体のケアとともに心のケアがあったらと思いました。期待をしています
- ・今までその言葉自体知らなかったもので、目にしているも頭に残っていないのでしょう。新聞等の一面に大きく出していればもう少し認知されるかもしれません。(もし、すでに何度も出されているのであれば私の全くの不勉強です。)
- ・がんになった時、日常の生活を維持しながら、ケアを受ける事が出来る事、皆が知るべきだと思います

う。病院にかかった時いろんな選択が選べるように日常的にして欲しい

- ・初めて耳にする言葉です。新聞、ラジオ等で存在をお知らせ下さい。
- ・親ががん治療を受けていますが、医師から「緩和ケア」という言葉を聞いたことがありません。国民へ広める前に、まず医師の間に広めることが先ではないかと思います。
- ・本当に何も知らなくて今後機会があったら少し勉強したり知識を広めたい。
- ・オレンジバルーンプロジェクトは知りませんでした。その存在と事業内容をもっと広告してほしいです。
- ・もっと身近に知る事ができるようにしてほしい。
- ・広く普及させて、皆が知っているようにしてほしいです。私は言葉しか知りませんでした。緩和ケアが当たり前になるようにがんばって下さい。
- ・言葉は知りませんでした。ガン人口が益々多くなる現代、誰でも、緩和ケアが受けられる様情報発信、又、医療の研究をお願い致します。
- ・緩和ケアの病棟をもっと多く作ってほしい。あまりにも少なすぎる
- ・自分自身がんになった時緩和ケアを受けたいと思いますが全国にある場所が身近にわかる方法があるとよい。
- ・何よりも1日も早く、完治できる治療法が出来るのを望むのみです。
- ・放射線治療や制がん剤投与には相当苦痛を伴うと聞いていますし、実際その様な方にお目にかかった事もございます。直接の痛み、苦痛はやはり除いてあげたらと思います
- ・「緩和ケア」のことじたい知らない人が多いと思うので情報を広めることから初めてみては？
- ・私の父は平成2年に胃ガンが元で死亡しました。末期に医師からモルヒネという薬を用いて痛みを和らげる処置があると説明されお願いしました。死亡する数日前から幻を見るようになり「そのネジはしめたか？」などと言うようになり「しめたヨ！」と言うと安心した様子をみせたのを覚えています。本人にとっても家族にとっても心の痛み＝ストレスを緩和できたと思います。この時から私はできるだけストレスを溜めないよう努力をしています。お陰で来年で父よりも長生きできることとなります。ということで緩和ケアは必要だと思います。多くの方に普及されるよう望みます。
- ・ガンの患者が初めてガン治療をするとき、ほとんどの病院が通常療法（手術、抗ガン剤、放射線）で治療しますが、ガン患者さんには通常療法で治療するか、統合療法で治療するか、わかりやすく説明してガン患者にどちらかにするか選択してもらうようお話をします。通常療法より統合療法で治療するほうがはるかに多くの方が治癒しています。（通常療法ではどうにもならない患者も治癒しています。）統合医療をする病院を紹介する。たとえば〇〇病院
- ・広く判りやすく知らせてほしいです
- ・自分がガンと診断された時は痛みをがまんせず緩和ケアを受けておだやかな最終章を終えたいと思います。
- ・広報を強めていただきたい
- ・頑張ってください。
- ・医療については割合知っている方かなと自認していたのですが、オレンジバルーンプロジェクトを知らず、恥じました。いざという時は病院の相談室に行こうと考えていましたが、このプロジェクトが広く認知されると、あわてなくていいと思います。
- ・前向きに情報を伝えてもっと知りたい事あると思う。知らなかった…とは思いたくない
- ・内容をわかりやすく普及させて下さい
- ・オレンジバルーンプロジェクトについて勉強してみたい。

- ・すばらしい緩和ケアを期待しています。
- ・私の父は胃ガンから肝臓に転位し、他界しました。最後まで生きる望みを持ち、家族で病気に向き合いました。でも先生から余命を伝えられると絶望と不安の日々で…。大切な人と過ごす時間が一日でも長く願うばかりでした。私は地方に住んでいます。都心に比べ何かと遅れていると思いますが、この様な事業が早急に行われ、一人でも患者様や御家族の不安を取り除いて頂ければ幸いです。
- ・ほとんど緩和ケアの情報がわからないので、いろんな人に知ってもらえるようにTVやインターネット等に出てアピールしてほしい。
- ・もっとメディアに露出すること。全く知らなかったので
- ・誰もががんになる可能性がある現在は、このようなしくみは是非必要だと思います。痛みはやはり辛いものだと思いますし、若くしてガンにかかって余命宣告を受けた場合は、受け入れがたいものだと思います。少しでもおだやかに過ごす事ができることは素晴らしいと思います。
- ・プロジェクトの目的や活動内容についてもっと広報・宣伝してもらいたい。全く聞いたことが無い。
- ・緩和ケアを知っていただく為に、地域の広報誌に掲載していただけたらと思います
- ・より広めた情報を願います
- ・ホスピスは終末治療として知られているがオレンジバルーンプロジェクトは全く知らない。がん治療の苦痛を除くことは誰でもぞむことであるが、緩和ケアの発想が治療の場全体に必要であるが、予算、病院実態で一般化していないと思う。このケアの普及がのぞまれる。Orange Balloonは知らないので期待しない。
- ・医療機関の窓口パンフレットを置いてもらいたいと思います。
- ・現在は必要ありませんが、いずれ必要な時が来るのかなあという考えがぼんやり（何となく）あります。自然に知識を得ていきたい。
- ・「緩和ケア」が何か周知すること、内容がわからないことに対してアンケートに答えても意味はないと思う。
- ・“緩和ケア”“オレンジバルーンプロジェクト”初めて聞く言葉で、全然何のことかわからなかった。みんなが見たり、聞いたりするTV、ラジオでもっととりあげて教えて欲しい
- ・よくわからないので、ある程度分かる様にPRしてはいかがなものでしょうか？
- ・緩和ケアを普及することに個人的にはとても大事なことだと思いますし賛成です。どのような人にも知って欲しい事ですし、自分も知りたいです。オレンジバルーンプロジェクトが成功される事を期待します。
- ・オレンジバルーンプロジェクトという言葉すら知らなかったのですが、外国語ではなく日本語で書いてほしい。なぜ外国語なのか
- ・一人でも多くの方に知っていただき、楽しい人生を送れる様になったら良いと思います。
- ・人間らしく最期を迎えられる様に「緩和ケア」は絶対に必要だと思います。御活躍を期待致します。
- ・末期の死の恐怖の緩和について
- ・私の祖父が前立腺ガンで、夜間眠れません。年齢も年齢なので、自宅近くの診療所でも気軽に緩和ケアを出来るよう、病院側から声をかけてもらえるよう促がして頂けると嬉しく思います。
- ・質問の件ほとんど分かりません、ご免なさい。
- ・全く聞いたことがないので、まず何かで名前を広めることがいいと思います
- ・もしその折はよろしく申し上げます

- ・オレンジバルーンプロジェクトについては無知でした。ガン患者の家族として3年過ぎました。ガン患者は多いと聞いても家族として、不安、孤独感でいっぱいでした。余り知識をもちすぎて、不安がつのも嫌で自然体で夫と向きあっています。あと2年…が一つの目安ですが、それ以後も不安です。
- ・緩和ケアを知らないなので、コメント出来ません
- ・緩和ケアの内容について、広くいろいろな年代の方知ってもらうために、テレビ、コマーシャル等で伝えていただきたい
- ・これからガンによる死亡の割合が増えそうな気がしますので、まして、まだまだ治らない病気という印象が強く、そんななかで、緩和ケアというものは大事だと思いました。
- ・まったくわかりません
- ・もっと広く知るために、PRを行って下さい。(TV等で)
- ・私の妻は癌患者です。(レベル4)月に1~2回〇〇の癌センターへ通院して居ります。発症より三年、現在薬のみの服用(イレッサ)現在(タルセバ)日常生活に特に支障はありません。医療費は年間100~120万、年金暮らしにはかなりきつい
- ・緩和ケアの文句そのものが分らない、今回のアンケート調査で理解致しました次第です。
- ・新聞等でもう少しくわしい情報を知らせて欲しい。
- ・緩和ケアイコールがんの終末期のイメージがある。緩和ケアによってがんが完治した例をたくさん発表してほしい。がん患者に希望を持てるようにがんばってほしい。
- ・こんな質問にいいたい。おかしい。主人は口腔がんで食べる事も、しゃべることも出来ません。私は働きながら主人の病気を思いどうすれば良いのか分かりません。毎日何を食べさせるか苦痛です。死にたいです。もう限界です。早く楽になりたい。
- ・もっと緩和ケアをアピールしてほしいと思う。
- ・とりあえず、“緩和ケア”という単語を周知させることに努めることが良いと思います。
- ・自分自身ががんになったらと思うと、きちんと知ってほしいと思います。
- ・がんで苦しんでいる人々に痛みや心の苦しみを少しでも楽に出来る治療があるのならば普及させて下さい。
- ・まずは認知される事が必要かと思えます。
- ・必要になった時、すぐに相談出来るようなシステムを、広く告知してほしい。
- ・精神的にも肉体的にもつらい病である。人間的な生活ができるよう、ささえていただきたい。都会だけでなく田舎(地方)も同等なケアが受けられる事を期待します。
- ・実際問題実例が身近に知る事がない。
- ・医師が緩和ケアについての正確な知識を身につけることが何より大切と思う。そのための対策を推進して欲しい。
- ・ケアに協力する人の質を確保してほしい。介護やそれに関する職はなぜか評価が低い。支えてくれる人しだいで、その人の生き方がかわる気がする
- ・今後詳細に調べたいと思ふ
- ・もし自分が「がん」になった場合、末期になり苦しむよりお世話になった人達に又親族にお別れ出来る状態で(お話できる頃に)緩和ケアを受けたいと思っています。安らかに死を迎えたいと思います
- ・オレンジバルーンプロジェクトという言葉自体初めて聞きました。具体的にどのような活動を行っているかなどもっと知る機会があれば良いと思います。
- ・父親と祖父をガンでなくしているので、自分もとても不安です。もっとオレンジバルーンについ

て広報等を拡大してほしいです。

- ・心のケア、スピリチュアルケアをもっと充実させてほしいと思います。
- ・このアンケートで初めて知りました。知名度を上げるための努力をお願い致します。
- ・まず、入床できる施設病院が少ない。待機している間に死にいたり、家族にかなり負担になる。そのケアがまだまだ足りないと思う。実際、私の父が入床できるまで半年かかり、入ってから数ヶ月で死に至った。待機時の負担やケア、準ずる施設が必要で、そちらも同時に（死を待つ病棟）進めなければいけないと思う。“ホスピス”＝“医者から手のほどこしができなくなった患者”のイメージもふっしょくして欲しい
- ・医療機関（病院の窓口）にパンフレットを置くこと。市町村の公報紙に掲載すること。（保健所を含む）介護のケアマネジャーに知識を徹底させること。
- ・緩和ケアのメリット・デメリットも含めてもっとメディアなどを通じて宣伝すべき。
- ・情報調査整理ごころうさまです。昨今老人の病院通いの方々が多すぎます。各個人が病気にならない為に日頃の健康自己管理が必要です。とっても健全な中年よりの苦言です。
- ・緩和ケアについても知らないため、答になったのかどうか、がんという病名だけはいろいろと耳にしますが、じっさい自分ががんという病気になった時は、どうなるのかと思っています。
- ・普及するための事業も必要でしょうが、公的に機関による無料のケアを受けられるよう希望します。
- ・上記のアンケート通り緩和ケアについての知識はありませんが、身内にがん患者が多くひとごとではないと思っています。緩和ケアというものを詳しく知る事は不安や絶望を前に進む力に変えてくれる様に思います。普及啓発に期待しています。
- ・緩和ケアを受けられる場所（手段）を限定せず、巾広く設定して下さい。
- ・ホスピス病棟での事を言っているのでしょうか？田舎ではなにか浸透はむずかしいです。病院がありませんので、こういう情報や、わからない時に頼るのは役場やケアマネでもありません。役に立ちません。ホスピスとは同一のものかわかりませんが、もっと世間に知らせてほしいです。みんなの味方がいる事を。当事者は辛いと思います。家族もです。私は違う事で苦勞しました。一人だけでたすけてくれたのは、役場でもなく、ケアマネでもなく病院のかんごふさんでした。親身になってくれた。専門の話しをきく所があれば幸いです
- ・「がん」を告知された後の絶望感、闘病に対する不安感、家族の将来への不安感など、精神的な苦痛（勿論肉体的なもの）はいかばかりかと思う。国を揚げての「プロジェクト」、対策政策上の援助なんかせずに（戦争への加担）、こうしたものを実のあるものにして欲しい。
- ・啓発PRを充実してほしい
- ・私は全く「緩和ケア」を知りません。私のような30代以前の人には関係ないと思っている人も多いはず（実際私の周りでもガンにかかっている同年代はいないので）、ただし大切な事なので若い人でも知ることができるようPRをお願いします。
- ・病院の医師が教えてくれたら良いと思う（緩和ケア情報について）手術後5年になります（下咽頭がん）が今も痛みやしめつけ感に悩まされ痛み止め座薬を用いている、不安感に対しては精神科の投薬を受けている
- ・そのような事業があることを初めて知りました。緩和ケアという言葉そのものが、がん患者やその家族にしか知られていないと思います。メディアなどを通じて緩和ケアのことが周知されていけばと思います
- ・可能な限りのメディアを利用し、普及させて載きたい。
- ・緩和ケア病棟をもっと増やして欲しい。近場の病院にもできればあると良いと思う

- ・薬剤に頼ることなく、がんの痛みが緩和されるようになると思います
- ・そういった事業があることも知らなかったので無知ですいません。周りも知らないという人が多いので、どういう活動をしているか、広くに知ってもらった方が良いと思います。
- ・もっと多くの人達を知るべきだと思う（くわしく新聞などにのせて）
- ・自分に緩和ケアについて勉強（知識）の必要を感じる。ありがとうございました。
- ・天下は排除して行ってほしい。
- ・がんに対する不安等が正しい情報によって緩和されることを期待します。終末医療と共にQOLの高上を期待します。
- ・緩和ケアがある事すら知らなかったのもっと普及してくれる事を望みます。海外では、とても進んでいると聞きます。日本での情報を手に入りやすくしてほしいと思います
- ・身の周りの人でがんで亡くなっている人がいないので、今の時点ではよくわからない。
- ・この事業がもっと広く国民に知られるようになればよいと思います
- ・緩和ケアという言葉をはじめて知りました。
- ・緩和ケアというのを初めて知った。市の広報等でも情報が得られたらと思う。
- ・もっとこのような内容が一般の人に知られるよう、広報活動ががんばってもらいたい。TVで特番を組んではどうか？
- ・今回初めて緩和ケアという言葉を知りました。期待する事は今後もう少し情報提供してもらえれば環境があればいいと思います
- ・緩和ケアという言葉及びオレンジバルーンプロジェクトという言葉をはじめて見聞きしました。病気にかかり病院行った時に緩和ケアについて話しをしてもらえれば良いと思います。
- ・緩和ケアを国の施策でもっと広めてほしいです。
- ・世の中の不安に思われている方々の不安の解消に少しでも役立つ活動をお願いします
- ・乳がんのピンクリボン運動や認知症サポーターのように、もう少し広くいろんな人に知られる工夫が必要と思う。
- ・がんがあたりまえの病気になっている現在、これだけの情報社会なのにあまりにも知られていない（知らない）事が多くあると思いました。これから普及することを祈っています
- ・人間ドック、定期検診時に面談面接が自由に出来ればと良いと思う
- ・緩和ケアを行われることで、その人がその人らしい生活を行えるということをもっとたくさんの人に知ってもらえたらと思います
- ・緩和ケアの情報をもっと広く世間に知らしめて下さい。
- ・何も知りませんでした？
- ・ホスピスしか聞いたこともなくて、全く知らない事ばかりでしたので、具体的な内容をもっと知りたいと思いました。
- ・この様な学会があるとは知りませんでした。患者にはもとより健康な方にも“緩和ケア”があると言う事を広報誌等で広めてほしいですね
- ・もっと一般国民が認識できるようにと思います。私はこのアンケートではじめて知りました。ここはいなかですので、もっと知識があったなら私自身ももっとちがっていたのでは…と思います。都会と田舎の医療の違い、知識の違いに憤りを覚えます
- ・胆管細胞ガンで亡くなった母は痛いと言う事もなく、穏やかに逝きました。後に医療用麻薬を使用していたと分かり副作用もなく食欲もあり最後まで病気を克服するという気持ちを持ち続けていてくれた事を嬉しく思っています。オレンジバルーンプロジェクトと言う言葉は、はじめて聞きました。私は病院に行かないので分かりませんが病気で苦しんでいる人に知らせる意味でも

病院の待合室に説明するポスターでも貼ったらいかがでしょうか。

- ・がんの診断がされた時に、医療側から説明があるか、パンフレットをもらうとか、確実に情報が得られる様にして欲しいと思います
- ・心のケアについても、もっともっと取り組んで欲しい。自然療法のアプローチも今後は、組み込んで欲しい
- ・自分は痛みに対してすごく敏感です。痛みを感じなくしてもらえるのなら大賛成です
- ・新聞、TV、ラジオ、インターネットこれらで知る方法をもっとふやせば知ってもらえる。
- ・初めて耳にする言葉でした。がんは身近な病気ですが、知らないことがたくさんありそうなので、もっと「緩和ケア」について広めていただけることを期待しています。
- ・このアンケートに答えて、興味をもったので、一緒に緩和ケアとは何なのかが分かるパンフレットなどがついてくるとありがたかったです。
- ・家庭でも疼痛の患者に麻薬等の補助薬を投与出来たらと思う。
- ・大変に貴いお仕事と思い、スタッフの皆様のお働きに頭が下がります。将来、困って御相談する事があったら、その時は何とぞよろしくお願ひいたします
- ・誰でもうけられるといい
- ・オレンジバレーンプロジェクトなる言葉は始めて知りました。緩和ケアの普及をおおいに期待しています。
- ・三人に一人はガンと診断される今、だれもが不安だと思います。自分が「ガン」と告知された時、医師、看護師の態度、言葉が別の意味で身体に入力されます。一人で生まれ一人で死んでいくことは、こわくはありませんがあとにのこった家族を思う心が「死にたくない」と叫びたいです。入院中の部屋での生活は、大部屋は態度の悪い患者もいます。入院している人は、だれもが病人なのに自分だけが、と思うのでしょうか？死が近づくと体でわかるのに、看護師、医師の態度はよくありません。死をまっているかのようなのです。最後まで家族は生きる希望を消すことなく、死の重さ、尊さを教えてもらい、悲しみからたちなおり生きていくのです。緩和ケアを1人でも多くの人々に伝えることは大変だと思いますが、がんばってください。私も自分の人生が終わる時、感謝の気持ちを忘れず、笑顔で旅立ちたいと近頃おもっています。
- ・プロジェクトについて未知です
- ・誰でも安く利用できるものになってほしい。
- ・各家庭に常備するようなパンフレットを配布していただければ、普及が拡大すると思う。
- ・終末期をホスピスで過ごす人を何人か、見舞ったが緩和ケアという言葉、オレンジバレーンプロジェクトということも知りませんでした。私の勉強不足と思います。新聞やテレビ等でもっと、PRして頂けたら、もう少し自分自身、家族との話し合い、友人達との話しの種になり勉強出来ると思います。
- ・緩和ケアという言葉は知っていましたが、終末期になってから受けるものと思っていました。
- ・一部の人だけでなく多くの患者が緩和ケアを受けることが出来るようにして欲しい
- ・ガンは誰でもなる可能性が高い病気なので、緩和ケアを初めて知ったんですが、もっと多くの人達に身近に感じられるように情報を広げて頂きたい。
- ・今はがん以外にもさまざまな病気があります。患者は病気によって精神的にも弱っているので、患者の立場になった医療と、心のケアは非常に大事な事だと思います。事務的な対応のない診る方も、診られる方も、信頼のおける医療であってほしいと願ひます。
- ・患者本人の意志に沿い、人生を送れる様に手助けが出来る様に、情報がくまなく入ると良いと思います

- ・私はわかりません。その道の方をお願い致します
- ・緩和ケアは終末期のみと思っていたので、初期ではどのようなケアがあるか興味がある。
- ・都市部と地方とでは情報も技術にも差があります。私たちが将来、医療機関に頼ることがあるかもしれませんが、日本中が平等に受けられるようにしてほしいです
- ・緩和ケアについての講演会等を全国で実施してほしい。
- ・これからガンになる人は高齢の人の1/2とも言われています。予防の面となってからの治療、終末期とどれにもかかわってほしいです。
- ・周りにガンにかかった人が居ないせいかもしれませんが、緩和ケアの内容については殆んど知りませんでした。ガンを取り扱った番組は沢山あると思うので、もっと広く知ってもらえるように番組に取り上げてもらえたら…と思います。
- ・私は骨折で県立病院に3ヶ月入院した事があります。不安と将来への希望他判断をより以上に心に刻みベットで寝ていました。その時ボランティア相談員が二人、さりげなく話しをしに来て頂き、涙が出る程嬉しかった事があります。あーこういう活動もあるのだと認識しました。高齢化社会、家族訪問、病気の方、子育て中の方他、多くの悩みをかかえた方を訪問対応する。自然体で社会に深く浸透する活動、宗教でなく、社会ケア活動として行政とネットワークを組み、解決出来るものは解決していく活動力、コミュニケーション活動かな。自殺予防にもなると思いますよ。助け合う精神、自殺者が多い日本の国
- ・「緩和」という言葉もそういう事業があることも知りませんでした
- ・このたび、この言葉を初めて聞きました。私は老人介護の仕事をしていますが、利用者の中にはガンになり、亡くなられた方も何人かおられますし、現在は通院したり入院したりされている方もおいでになります。その方自身、又家族の方々は病気に苦しんでおられるだろうと思います。私自身も親しい方が苦しんでやせ細って、亡くなっていくのを知るとつらくなります。少しでも患者さんの苦しみをやわらげることができるよう、事業を行って下さい。NPOという身分に甘んじることなく、お願いできればと思います。
- ・病気にかかってみないと実感出来ない。興味がわからないなど感心が薄いと思われれます。病気になる前の段かい、事前PRが大切だと思います。お疲れ様です。
- ・実際に自分や家族が、がんになった時にどんな地域にいても緩和ケアを受けやすい体制作り（広報も含めて）
- ・緩和ケアをまったく知らなかった。今回質問によって知ることが出来ると思います。
- ・患者の為に普及される事を願います
- ・良く知らないのもっとアピールして下さい
- ・若い人に比べ、ネット等の情報源が乏しい又“我慢”を良く知る年代（70歳代以上）の方々に、もっと周知されたらいいなと思います。
- ・身近にがん患者がいないため、緩和ケアに対する知識がほとんどありませんでした。また進んで勉強しようとする事もなく、人ごとのように思っています。もう少し新聞、テレビなどで伝えてほしいと思います。
- ・誰でもガンになる可能性はあるので、もしなった場合相談出来る所があればうれしい（安心）です。
- ・緩和ケアの用語さえ知ってる一般市民は私を含め少ないと思います。この普及は一から出直す必要があると思います。
- ・新聞とかテレビ等で緩和ケアの内容を案内、説明をしてほしい
- ・今のところ何もわかりませんので何とも申し上げる事が出来ませんが良い方面に進む様に願って

おります。

- ・がんの直る薬ができるといいですね。
- ・自身もう少し勉強してみようと思います。
- ・癌と診断されるだけで本人だけでなく、家族も気落ちしてしまうものなので本人だけでなく周りへのフォローも必要かと思う。かかりつけの病院関係者からそういう情報をいただけるとありがたい。しかし、家族のあり方（病気に対する）は、それぞれちがうので情報をうれしく思う人もいれば無とん着な人もいると思う。
- ・夫が7年前に食道ガンの全テキ手術を受けました。常に再発におびえており、少しでも不安をやわらげる方法があれば知りたいと思います。
- ・今回緩和ケアというのを始めて知りました。
- ・もっと広くPRしてほしい（高齢化に伴う施策として）
- ・麻薬がなじみやすいものになっている。広い意味で麻薬がより身近なものになる事に抵抗がある。知らない人にまで知らせる必要はない。間違ったらえ方をする方もいる
- ・「緩和ケア」という言葉も活動内容もまったく知りませんでした。もっと一般市民に知ってもらう活動を行ってはどうですか？
- ・アンケートも大切ですが、テレビ、ラジオなどで伝えて欲しい。知人、友人、家族など身近な人が、ガンにならないかぎり、知ることがないのが現状です
- ・緩和ケアとは、まったく聞いたことがない言葉でした。しかし、ガンと告知された人にとっては悩みもあり、相談する場が欲しいと思います。身体の痛みだけでなく心の痛み、さまざまな事があり、不安もあると思うので、テレビなどで広めて欲しいです。技術が優先ですが、先生と合う人と合わない人もあり、先生の情報などもわかれば気が合う先生と理解し合い治療していこうと、病気の人はがんばれるかもしれません。
- ・一人、一人考え方、受けとめ方はちがうものです。たくさんの方が「これはちがうのでは？」という意見や、家族がそれぞれ思っている事を話すチャンスをあたえてくれる機関が必要だと思います。もっともっとひろめて誰もが知っている事につながってほしい。
- ・恥ずかしながらその言葉をきいたのは初めてでした。家族にきいたところ、そのようなケアをやっている病院は高いとのこと。もしそれが本当なら、解決すべき問題であると思います。
- ・がんの痛みで苦しんでいる人々が、苦痛から解放されるようこの事業に期待しています。身近な場所で、気軽に緩和ケアが受けられたらいいなあと思います。
- ・緩和ケアの普及は大変良い事だと思います。ガンの治療は、母親は末期で高齢の為できませんでしたが、実家（〇〇）では、訪問看護により在宅でケアを受けました。病院ではうつ状態になり在宅を希望しました。本人や家族にとっても、心のケアはとても大切です。これから高齢化になり、ますます質の高い医療が求められると思います。
- ・私のように何も知らない人はたくさんいると思います。身近に感じられるように病院以外の、健康な人でも知る事ができるような情報手段をとってほしいです。ためになりました。
- ・緩和ケアが多くの方々に知っていただけたらと思います。（どんな病気にも関係していますから）
- ・緩和ケアと云う言葉を知らなかったのでもし自分ががんになった時に、この様な治療が出来ればと思いました。
- ・よい方向に進むことをお祈りいたします
- ・事業内容がわからないので、公報に力を入れるべき。
- ・今回の調査で初めて緩和ケアと普及事業の「オレンジブループロジェクト」の事を知ったので、期待とか何も思いつかない状況ですが、メディアにもっと出して目に付くようにされると良いと

思います。

- ・周りにそういった病気の人もいなく、言葉さえ知らないのも特にはないのですが、もう少しわかりやすいように説明などがあれば良いのでは…
- ・ガンになる前に、緩和ケアがどういうものなのか、知ることが大切なのではと思います。
- ・まだまだ偏見をもっている人が多い。皆に情報が提供され緩和ケアへの敷居をとりのぞいほしい。
- ・ホスピスなどという言葉は時々耳にしたけれど、何が違うのかなど細部については覚えていない。2007年当時はTVでもよく取りあげていたと思うが、当時は余り関心がなく見ていなかった。両親が老いてきた今、メディアで取りあげてくれることを望みます。
- ・何も知りませんでした。広く広報して欲しいと思います。
- ・緩和ケアというものが、全々知りませんでした。緩和ケア病棟とか、どこにあるのか知っておきたい。
- ・がんと診断された時に必らず、こういう事業がある事を説明してもらえようようにして欲しいです
- ・もっと安い金額で誰でもが、利用する事が出来るようにしてほしいです
- ・まったく知らなかったのも、もっといろんな方にも知ってもらいたいと思いました。
- ・75才の老人ですが血圧が高い位でこれと云って悪い所ありませんが最近外出するのも苦痛になり家の中にいる方が多くなっています。情報を知ると云えば新聞とテレビ位です。今回の緩和ケア認識調査を見ただけでも多少勉強出来たと思います。今後期待すると云えば目新しい一度見たり聞いたりしたら何時までも心に残る情報がほしいです。
- ・年々ガンの病気が増えています。もっと早くもっと積極的にPRして下さい
- ・がん診療拠点病院をはじめ行政主導の事業は看板倒れの場合が多いので、少しでも実のある事業として欲しい。
- ・緩和ケアの宣伝
- ・父親が91才で肺がんの終末で死亡しました。その時の痛みは見るに耐えなかった。(平成10年の話です)願わくば終末ガンの痛みを除き、各個人にあったケアをしていただければと思っています。とりあえず寿命が短かくても痛みを除いてほしいです。
- ・息子入院時に緩和ケアの知識を知っていたらと思うことです
- ・オレンジバルーンプロジェクトの普及に大いに期待しております
- ・緩和ケアには是非最近状況が記入されれば少しでもガンに対してわかり、心の痛みとともに精神的に安らぐのではとは思いますが
- ・このような団体があるのは初めて知りました。テレビや新聞で目にする事はあっても表面上の知識しか得られません。今後は学校など子供たちにも広めて、家族での緩和ケアができるよう活動して下さい。ありがとうございました。
- ・治療代等の費用負担
- ・私も主人もがんと診断され(初期)1~2ヶ月以内に手術しているので、がんの痛み苦しみがわからず、おのずと「緩和ケア」と言うことばすらわからなかった。OBPはステージで2~3以上の方々のためのものなのか?必要範囲がわからない
- ・がん患者に自分もいつかなるといふ思いは少しある。怖い=(イコール)死など思っただけでも気が沈む。その点、身近なサポートがいれば心強いが、PRなど新聞でも取り上げてもらった方がいいと思う。
- ・自分や身近な人がガンにならないと、なかなかどうゆうものか知ることができないので、もう少しテレビなどでもとりあげてくれるとどんなものか認知されるようになるのでは…
- ・私は末期ガンの人が痛み止としてモルヒネなどの薬を使っていると思っていました。本当の最後

に使う薬とっていました。この緩和ケアのアンケートがあるまだ違って覚えている人や知らない人も私のまわりで多いので、ぜひ多くの方がよくわかるように子どもから年よりでもみんながあたりまえに知っているようになることを希望します。

- ・がん患者が最後までその人らしく生活ができるように、その人が自分に一番合ったケアを受けるには、協力できる医療機関が少ないように思うので充実させてほしい。
- ・「緩和ケア」についてアンケートをいただいはじめて知りました。周りにガンにかかった者がいないせいもあると思いますが、自分ががんにかかる不安も漠然とありましたので、「緩和ケア」について多少なりとも知ることができてよかったです。「緩和ケア」の事を誰も知らなかったのもっと認識度を上げることが必要ななと思いました
- ・10月16日に妹が胆のうガンで亡くなったが、終末期にやっと発見されて入院したが手術も抗ガン剤も使えず、全て医師の指示に従わざるを得ないので、インターネットで緩和ケア、その他を調べて医師に言っても適用出来なかった。医師がこのケアを採用してくれるか否か疑問が残る
- ・オレンジバルーンプロジェクトが現在、何をしているのかわからない。もっと新聞やテレビでとりあげてもらって、内容を広く理解してみたい。
- ・本日これを送って下さって有難度う御座います。不安に思っ居りました。これからも色々な情報をお願いします。生まれて来て良かったと思う様な終末を向えたいと思います。
- ・祖父、父をガンで亡くしておりますが20年以上も前の事で医学の進歩と共に色々のケアが出来ている事を新めて知りました。緩和ケアの充実を宜しく御願ひ致します。
- ・がんになると仕事もできなくなり治療費もかかるので国が少しでも治療費の補助をしてくれると助かると思います。
- ・一般の人の認識度をもっと高める様にしてほしい。
- ・がんなどでもう治療の方法がない場合は延命よりも最後は痛みをとってほしいと思っます
- ・ケガの為字が汚なくてすいません
- ・当人と周囲の人しか知らないのでは。“痛みを和らげる病院”というような病院を見たことがあるので、それのこと？と思うくらいです。
- ・全く認識がありませんでした。しかし、もっと情報がほしいと思っました。「緩和ケア」というものがあるのだということを知りました。
- ・私は緩和ケアその物が私も主人もわからないのでわかりやすくおしらせ下さい。
- ・友人などまだ緩和ケアなどについて知らない人が多いので、もっと多くの人に知ってもらえるようにいろいろな手段で情報を提供して貰いたい。今回のこのアンケートにより、自分自身が緩和ケアについて知るきっかけになったので感謝します。
- ・今後こうした新情報をお願いします。
- ・辛い治療にも耐えてがんばっている患者さん達の支えになってほしいと思っます。
- ・「緩和ケア」と言う言葉すら知らなかった。知る事が出来て良かった。まだまだ知らない人も多いと思っるので、普及に努めて頂ければと思っ。
- ・情報提供
- ・ホスピスをもっと利用しやすいものにする。在宅ケアを受ける時に、もっと地域と連携し支援がうけられる。
- ・3年前、2度入院手術した時、激痛を毎日言っても全く聞いてもらえませんでした。区切りのある職場でも痛みについては連携して対処してほしく思っます。(ガンではありませんが死にたくなる痛さでした)
- ・オレンジバルーンプロジェクトという言葉、事業、知りませんでした(私があまり病院には行か

ないので、ポスター等も見ることがないのかも）掲示する場所が幅広くあればと思います。

- ・私は10歳の頃に父を胃ガンで亡くしました。何年かしてからテレビの特集で緩和ケアに関する番組を見て、痛みに耐えていた父をもっと楽な状態にしてあげることができたのかもしれないと思いました。CMなどで、緩和ケアの情報、どこに問い合わせれば受けれるかを流せば、沢山の人が知ってもらえるのではないかと思います。
- ・自分自身初めて知ったので、他にも知らない人がいるなら色々な情報をニュースとかで取り上げて多くの人に知ってもらい自分も勉強していきたいと思いました。
- ・義父は痛みはないので緩和ケアの事はあまり知りません。これからは人ごとではございませんのでいろいろ知った方がよいと思います。テレビ、新聞などが出かなくても家で見られますので便利だと思います
- ・オレンジバルーンプロジェクトのあることも知らない
- ・もっと大勢の人に知ってもらえるよう、誰の目にもとまりやすそうなスーパーや駅などにポスター等で掲示した方がよいと思います。(病院や地方誌では見ない人も大勢いると思うので…)
- ・全くに近いくらいわかっていないので、テレビ、新聞、雑誌等でも、積極的にいろいろな事をおしえてもらいたいです。今の時代、誰でもガンになる(身内にもいる)ので、不安、恐さなどを、この調査(アンケート)で、やわらげてほしいと思います。
- ・若い世代は、ほとんどの人が知らないと思います。様々な人が知るための活動を行うことが最も重要だと思います。
- ・TVなどで取り上げられたら少しは理解出来ると思うのでニュースなどでもっと流してもらえる様になってほしいです。
- ・的外れなプロジェクトなんじゃないでしょうか？全く知られていないように思えます。おそらく無駄なキャンペーンとかしているんでしょう。
- ・「緩和ケア」という言葉じたい知らなかった。もし自分がガンになったら、そういった心のケアもできる施設などがある事や相談できる場所がある事を知っておくことは必要だと思います。まず周知することだと思います
- ・緩和ケアががん患者のQOLの向上になるよう期待しています。
- ・健康な時は興味なし。万が一、ガンを宣告されたとき、すみやかに緩和ケアを含めた多様な選択肢があることを、医療関係者から説明してもらえるシステムを確立することが大事だと思います。医療保険とのタイアップもありだと思います。
- ・緩和ケアと言う言葉は看護師の方から聞いたことはありますが内容その他に関してはまったく知らないで新聞や広報等でおしえてほしい。
- ・NPO法人・～財団等の事業は国民の利益より、関係者の利益重視。2007年4月に「緩和ケア」の推進となっているが、3年後の今、何故基本法が施行された時点で啓発活動を進めなかったのか？無駄な事の国税を使用しないこと！！日本の借金は増える一方です
- ・内ようがわかりませんのですみません。
- ・もっとたくさんの人々に知ってもらいたいし、生活面での支援金等も国民に普及できやすい身近な所にオープン掲示、説明写真(出きるもののみ)の取り組みを実施して行くべきであると思う。人間には皆DNAの中にガン細胞が有り発芽するか自然治癒で治まるかなのだから！！
- ・テレビ番組としてもっと放送すべきと思います
- ・私の近くにがんでなくなった人がおりませんので何にもこたへられずすみません
- ・テレビ等緩和ケアの内容を広く世間に知らせて欲しい。
- ・今回の認識度調査によって「オレンジバルーンプロジェクト」について知ることができた。今後

は多くの方がこの事業について知ることができるようにしていただきたいと思います。

- ・もっと啓蒙活動を行って下さい
- ・たぶん国からの補助も受けて活動されてると思いますが有効に利用して頂きたい
- ・テレビ、新聞等で詳しく知らせてもらいたい
- ・新聞、テレビ等で放送してもらえば
- ・尊厳をもって死を迎えることが大切だと思います。心と身体の痛みを少しでも取り除く措置、もちろん治癒が不可能な病いに限られますが、充実した終末を迎えるために必要です。緩和ケアの充実、推進が望まれます。
- ・以前テレビ（ドキュメント）で歌手の方が、胃がんと闘いながら歌手活動をされているのを見ました。緩和ケアをされていたかは、分かりませんが、あのガンによる痛みはこちら側には十分伝わりました。もし自分自身だったらと思うと…。テレビなどで随時、分かりやすくこういうプロジェクトがあるという事を伝えて下さい。
- ・オレンジバルーンプロジェクト自体の存在をもっと世の中に知らせるべき
- ・がんになってしまった人が、少しでも人間らしい生活を送れるように支援して欲しいです。
- ・がん患者でありながら「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知りませんでした。「がん」に関する記事等を目についたらよく読むようにしていますが、私の見落としでしょうか？それとも活動自体のアピール不足なのでしょうか？今後の活動内容の普及に期待します。
- ・どれだけの費用が個人にかかるということの心配をとり除くことが普及にかかる重要なことだと思います。
- ・“緩和ケア”という言葉だけでなく、内容をよく知りたいと思います。私はたまたま友人が看護師で少し話を聞いた事がありましたが、近くに医療従事者がいない場合知らない人の方が多いような気がします。私みたいな一般の人間が知る為には、TVのバラエティーが一番かなあ…と思います。もっと私が“緩和ケア”について知っていれば主人のおばさんはもう少し楽な最後をおくれたのかな…と思うと、なるべく早い普及を望みます
- ・延命治療は必要とは思えない！！
- ・がんの治療には多額のお金がかかるとききますが、またたいがいの民間保険などは、かんじんの高年齢に達すると打ち切られます。緩和ケアでは、そういった治療費の援助的な制度もお考えでしょうか？また、がんという病気に対して“受け”にまわるのではなく、こういう食品や添加物は危ないよ…などという、がんにならないための積極的広報活動にも力を入れてほしい。お役所仕事の“粹”にこだわってはいは、できることはしています。
- ・私はアンケートがきて始めて緩和ケアという事を知りました。内容的な事も何もわかりません。是非緩和ケアの事を知る機会をふやしてほしいと思います。年令的にも今からお世話になると思いますのでよろしくをお願いします。
- ・本人や家族の精神的な負担が大変だと考えられます。少しでも気持や痛みが柔らげられる様な環境を希望します。
- ・一般にわかるように広報活動をしてほしい。
- ・病院等には資料があるのでしょうか、まったく知りません。ピンクリボンの様にTV等で広報して知らせて欲しいです。
- ・もし自分が末期ガンになった時、延命治療は望まないが、緩和ケアによって安らかな死を迎える事が出来るなら幸せだと思う。それには私にとって納得の行く説明なり情報を聞く事が出来れば、頑張れるかもしれない。今後、緩和ケアの事について、たくさんの事を知りたいと思う…インタ

ーネットが使えないので、他に本などあれば是非、読んでみたいと思う。

- ・広く多くの人に知らせ、費用があまりかからないで、誰もが受けられるようにしてほしい。個人的には、寿命を延ばすだけの医療は希望しません。
- ・医療者からの継続的な情報発信が必要だと思う。
- ・安楽死の選択もできるシステムを作ってほしい。
- ・緩和ケアを受けられる病院がわかりませんので、地域の情報もお伝えいただけるとありがたいです。
- ・オレンジバルーンプロジェクトと言う言葉を初めて知ったので、どのような事、活動をしているのかが良くわかりません。ので、期待する事よりも、どのような活動をしているのかわからないと、意見する事が出来ません。すいません。
- ・緩和ケアを受ける事により、身体、心の痛みがやわらかくなるんだろうなあ〜と思いはするが、詳しい事は何にも解からないので、自治体等で勉強会やPRをもっと欲しい。まだ自分の身におきてないので、意識も薄いですが、機会があれば勉強してみたいです。
- ・その前に住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知りたい。そしてがんに伴う症状を和らげる薬剤の情報、そして薬剤以外の情報が知りたい
- ・ガンバツテクダサイ
- ・人の全ての痛みが克服出来ると期待される“オレンジバルーンプロジェクト”であってほしい。
- ・うーん、どう言えばいいだろう。今痛みを伴わない手術方法もあるらしい。高く1部の人しか出来ないけど、どこかイギリスの人みたいに冷凍し技術が伴うまでそのままいるし、私は、前述の様に人としてのプライドを保てるような活動もして欲しい。
- ・地方でも受けられるようお願いします
- ・一般の人にとって必要とされる機関、事業であるのであればもっと、周りに広めないといけないと思う。この事業については、私みたいな認識のうすい人がほとんどだと思う。
- ・自分の周囲で緩和ケアが必要となる状況はないため、積極的に知る必要が今のところ見当たらない。ごめんなさい。ただ、超高齢化社会を迎える中「耳にする」「目にする」ためにはインターネット、新聞、テレビ等の情報発信ツールを多用して、自然と理解できる環境になるといいと思います。
- ・オレンジバルーンプロジェクトの言葉も活動もまったく知りませんでした。もっとマスコミ等を利用して広めて下さい。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」については、何も知りません。初めて耳にした言葉です。テレビで特集など放送していただけると良いと思います。
- ・ガン患者はやはり痛みとの戦いだと思います。病状により余計な手術・投薬による副作用は苦しみを増すものである。はば広い普及でいろいろな情報を知りたいです。
- ・緩和ケアについて、以前に勉強会で触れたことがありますが、最近、耳にしなくなりました。テレビや、マスコミの活用で、広報活動で広めて下さい。
- ・私は満89歳の誕生日を入院室で迎えました。約1週間前、膀胱ガンの病巣を内視鏡による電子メスで除去したところです。9月より検尿、CT、血液検査などでガンの因子のあることを言われ、内視鏡の写真で、自分の体内、病巣と初対面、Drの説得にも、手術から逃れようとしませんでした。数え年90歳といえば余命いくばくも無く、その間を苦痛のないQOLの日々であらしめたいと思いました。痛みなどの苦痛にたいそう強く、現在自覚症状ないままに、今更痛みが予想される手術などで余命を1年か2年延ばすより、今のままでよいと抵抗しました。結局は開腹でない手術を受け、現在、排尿のパイプにつながれて、退院を待っています。オレンジバルーンプロ

ジェクトについて詳しく知りたいので、方法などお知らせ頂きたいです。

- ・問1－4補問2ではいとしたのは内視鏡でポリープを取って調べたらガン細胞が見つかったという事です。今では何んでもありません。
- ・緩和ケアに対してとても興味があり、インターネットなどで調べています。特に在宅での受け入れ方などもっと情報があればと思います。まだまだ周知されていない分野ですので、今後も情報発信をして欲しいです。
- ・医院や病院にてチラシがあれば見ます。
- ・もしガンになって病院に掛ったら病院内でも緩和ケアの話がすぐに出来たら良いのでは
- ・あらゆるメディアを駆使して、情報提供をすることを期待致します。
- ・各自治体の広報誌に対し記載していただければもっと広く知ることが出来るんじゃないかと思えます。
- ・自分の意志と医者との指示連絡がほしい
- ・テレビによる普及啓発が現代では最も効果的である。
- ・まだ聞きなれないことなのでもっとテレビ等などにとりあげてほしいと思います。またがん患者がふえるなか、私だけなのかもしれませんが、知らない人が多いと思います。(オレンジブループロジェクト) これから少しずつでもいいですので一人一人がこのことをわかっていけるようになりたいです。
- ・医療用麻薬＝麻薬というイメージが強く受け入れにくいと思う人が多いと思うのもっと理解されやすい様な努力をしてほしい。
- ・関係者の皆様方のご活躍お祈り申し上げます。多くの苦しんでいらっしゃる患者さんが少しでも痛みや苦しみが緩和出来ますように念じ上げます
- ・もっとTVや情報を使って世に出て下さい
- ・組織そのものを知らない
- ・身近な場所での周知
- ・一般の方々にはまだまだ医療用麻薬のイメージがよくないようです。良いイメージを広めれるよう期待しています。
- ・「緩和ケア」というのが必要とされるという事自体がどういう事なのでしょうか？
- ・日本中の誰でもが(かんたん)に受けれる様になれば良いと思います。
- ・新聞、テレビ等に於て広くわかりやすく報道してほしいと思います
- ・もっともっとQOLと言う事業があるんだよ、と言う事を多くの人々に伝えて下さい。私も今回の調査に参加させてもらって、すごく心が安らぎました。
- ・オレンジブループロジェクトが県、市に何ヶ所あるのか何人入院出来るのか全々わかりません。新聞、テレビなどで知りたいです。
- ・まずは事業活動を広く知ってもらうことが大事だと思います。
- ・主人は発病(診断されてから)10年近くになりますが、幸い早くから緩和ケアを受ける事ができ、重症ですが自宅で普通に暮して居ります。この事を知らない方々に正確な知識をもっと広めてあげてほしいと思います。私自身もがんになった時痛みをとって貰えればそして理解してくれる人がそばにいれば、耐えやすいのではと思って居ります。在宅のケアがもっと組織として確立されればと思います
- ・緩和ケアについては知っていましたが「オレンジブループロジェクト」については初めて知りました。皆がもっと緩和ケアについて理解していくよう活動されることを希望します。緩和ケアについて、もっと詳しく知りたいと思っていますので、情報の提供を希望します。

- ・◎麻薬として使用しなければならない痛さは本人のみが感じる物で他人にはその痛さが測定できない。◎痛さを緩和しなければならない程の人は死に直面しているのだろうか？→そうであれば麻薬でなく糖尿病状態になれば少しは痛みが緩和されるかもね！？薬に頼るばかりでなく他の病気を利用して緩和することも考えてはどうか！！痛さは本人しかわからないけどね！！◎住民基本台帳を厚生労働省が個人の情報を他の機関（事業所等）に各自自治体に手続きを取ったとしても、流出することは個人情報流出だと思いますよ。国がかってに情報を流すのはいかがなものですかね。個人が認める場合、法に基づく場合（必要）のみが良いのかな。NPO法人で対応していたら情報を全て開示する法に変更した方が良いのではないかな。追；街頭などで情報収集すればすむものなら、個人情報流すのは良くない。
- ・この調査で初めて「緩和ケア」「オレンジバルーンプロジェクト」の言葉を知りました。身近に緩和ケアをしてくださる病院があれば、心強いと思います。通院の負担を無くして頂けたら、心も身体もより軽くなるのではないのでしょうか。
- ・国民全体への周知ができれば、すくわれる人が多くなると思います。普及のための活動をしっかり行ってほしい。
- ・地道な活動御苦労様です。これから気張って下さい。
- ・私自身が緩和ケアについて知る事が出来ました
- ・まだまだ知らない人が多いと思いますので、もっと広く知らして欲しいと思います。少しでも不安な気持ちが落ちつくのであれば、本当に有難いことだと思います。よろしくお願いします。
- ・病気になった時に考える
- ・まだまだ認知度が低いと思います。地域の広報誌などを活用すべきでは？
- ・日々の生活がいそがしく、なかなか世の中に目を向けることができないでいます。その為、この「オレンジバルーンプロジェクト」の事業をしらずにいました。“がん”になった人が身近にいるため年に一度はかならず検診（婦人科も）を受けてはいますが、いざがんと診断された時の心身の対応をどうすべきか、まったく考えられません。もっとこのプロジェクトを広め、対応できる心がまえが自分にできる様おねがいします。
- ・目に見える形での表現で普及を望む。
- ・「緩和ケア」という言葉を知らない人はたくさんいると思います。具体的な情報を幅広く伝えていただきたいと思います。
- ・O. B. P. と横文字を使用しているが私としては名染みに積極的になれない。（知る努力をしない）若い人はどうか私にはアレルギー（横文字）がある。
- ・知人でがんでなくなった人が数人おります。貴事業にご期待いたします。
- ・認識不足から「緩和ケア」を行う機関がある事すら知らず、緩和ケアについての情報拡大が必要かと思えます。私の無知のせいかな？
- ・主に心身の痛みを取って戴き度い。尊厳死を希望します。延命治療は希みません。
- ・オレンジバルーンの意味がわかりませんし、同じ医療従事者なのに私の勉強不足なのでしょうが知名度がなさすぎだと思います
- ・がんだけでなく他の病気にもあるといい
- ・誰でも平等に緩和ケアをうけられるようにして下さい。費用についてはよくわからないのですが収入の少ない人でも受けられるようなくみにして下さい。知らない人がたくさんいると思うので、もっともっと活動して広めて下さい
- ・父が四年前に胃がんで亡くなりました。そのおり痛みも取ってもらい大変に良く病院でももらいましたが付き添いを毎日していた母の心のケアまではなかなか出来ず（年をとっている為、父

83才、母78才、Drやナースの方にどの様にして欲しいか言えず)母の愚痴を聞くのに毎日、朝、夕病院へ通い大変でした。もっともっと国も声を大にして私達に知らせて欲しいです。4年前に知っていたら「緩和ケア」と思います

- このアンケートをやる前には、ほとんど知識がないことが判りました。一般的な知識を得る為の勉強会等に積極的に参加したいと思いますので、企画、実施をお願いしたいと思います
- 最近TVで手術しなくてもがんを治す事ができる先進医療についての放送を見ました。その医療費の補助制度が今のところなく、その治療をあきらめる患者が多いとの事でした。そういう援助制度も含めて期待したいと思います
- 私を含め身近にがんと診断された人がいないので、がんについては勿論、緩和ケアについて全くの無知です。がんに対して無知ながらも、患ってしまった時の不安は大きくあります。もしも自分や身近な人ががんと診断された時、対処法や不安な気持ちを話せる頼る先があると救われると思います。想像にすぎませんが、がんは痛くてとても辛いという印象があります。末期ともなれば僅かな時でも痛みを和らげ、家族や友人と少しでも会話し、楽しい時間を過ごしたいので緩和ケアは誰もが受けられたらいいなと思います。もっと緩和ケアについての情報を広めてほしいです。
- 以上のアンケートにお答えし、私が目前で見てきたことは、異なると感じています。「緩和」ということばは、あくまで「緩和」であって苦しみを取り除くことが本当に出来ているのかは疑問に感じます。全ての人がそうあればいいのですがそうはいかない。国民には真実を語るべきでしょう。現在の医療制度は「日程」で切られるという「緩和」のスピリッツからは程遠い機械的な「処理的処置」の制度になってはいないでしょうか？私には「緩和」と同時に早期発見後の処置が1ヵ月先、あるいは経過等診断をただらと続けながら日一日と先になり、不安な日々を過し、ようやく手術になるまでの間の生きる苦痛を受けている方が多いことを悲しみます。「緩和」が本当に理解されるにはその前の「治療」に関わる体制、法制度が改善されるべきではないでしょうか？私には「緩和」ということばは、振り回され、あきらめられ、最後のいいわけのような「ことば」に感じたくないものの、そう考えてしまう部分が多すぎます。
- がんと名がつく病気は自分にも毎日不安で治療費などの事で心配が重い日々です。がんになったら高額な治療をやめて早く死にたいと思うことがあります。オレンジバルーンプロジェクトに何を期待すればいいのかもわかりません
- テレビ、広告などで広く事例などを紹介し、老人世帯に分かりやすく紹介して欲しい。インターネットなど使えない世帯もあるので一般的な広告など…
- ぜひ緩和ケアが普及されることを望みます。がんばって下さい
- 「緩和ケア」ということばはどこかに耳にしたり文字として見ているかもしれないが、今回のアンケートで「初めて」という感覚が強かった。がん患者となったらとても心強い事業だと思うので、今後広く週知にご努力いただきたいと思う
- 無知ですみません
- O. B. Pは大切な事業と思います。頑張ってください。
- この様な事業があることすら知りませんでした。各病院等にパンフレット等を置いていただきたいと思います
- 緩和ケアについては知らないことが多い。気休め程度のことだと思っていたが、上記「7」のような結果が表れるならそれを多くの人に知ってもらわなければならないと思った。がん患者が期待を待てるようにQOLが改善することをどんな形でも広め、どこに住んでいても緩和ケアが受けられる体制になることを期待します。

- ・強い薬による体調不良や、本人の精神的ダメージは、計り知れないものがあります。初期から症状を楽にすることができればそれが少しは軽減できるかも知れません。母は緩和ケア病棟で亡くなりましたが、結局ずっと辛い思いをし苦しんでいました。安らかな最後には思えませんでした。家族も同じです。がっかりしました。普及と同時に対応する人や医療の向上が必要だと思います。
- ・緩和ケアに関する情報が少ないと思われます。もっとテレビ等で情報を流してほしい
- ・不治が確定的な場合しっかりケアしていただき早く終末を迎える事も大切な事と存じております。患者の年齢にもよりますが、私としては人生の最後同胞にかける負担をなるべく軽くしたいと思っています
- ・あまり近辺でも耳慣れないのもっとPRし、より多くの人々に知らしめること。自分自身がガンにならないと信じているためか、深い所迄関心がないこともある。
- ・ガンはこわくないが、痛みが辛いと思う。痛みを緩和できればありがたいと思う。ただ痛みの緩和薬で、思考力などが低下するのであれば、使うのは躊躇すると思う。
- ・問3-1で(3)と答えたので問7についてはすべて3の全く知らないと答えるのが妥当では？一寸考えてしまったが…ガンの治療のみにあてはまる言葉(緩和ケア)の様にも思えますが…こんなよい制度があったのかと改めて勉強になりました
- ・広く国民に知ってもらうことによって「がん」になっても苦しい思いをせず、おだやかに過ごせると思いますので、テレビ等でもとりあげてもらいたいと思います
- ・ケアして欲しい時にケアしてくれないグループなら要らないと思う。重度のガンしかケアしないの？アタシはガンで手術したけど1人で頑張ったしガンと言われただけで辛かったのに1人でしたよ！！
- ・がん患者全員が緩和ケアを受けられる様をお願いします。
- ・がんと告知された時、病院のスタッフから心身共にどのように治療に対応すれば良いか、細かいアドバイスを受けたと思います。その際“緩和ケア”についても詳しく説明を受けたい、パンフレット等あれば持ち帰って自宅でゆっくり読みたい
- ・家族や自身が、ガンと向き合うことになってから、緩和ケアのことを知るよりも、前もって学び考える機会を得たいです。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」〇〇市に在住ですが宣伝の普及はないような気が致します。主人が痛みをとるために医療用麻薬を(モルヒネ)を使用しております。助かっております
- ・人生の終りをおだやかに過ごすことが出来るようになることは本当にうれしいことです。おおいにこの事業に期待しますので皆様がんばって下さい
- ・「緩和ケア」という言葉から想像しているのみで、実体を知りません。
- ・良い活動であることは思う。しかし一部の組織で活動するのでは税金等の無駄づかいとなる。医療組織とのつながりでなく、別業種、組織とのつながりを持ち普及活動をするべきだと思います。例えばクリーン(活動で相乗効果があると思う)活動団体(ボランティア)経済団体←社会奉仕が貢献が関連するため
- ・もっともっと広まって欲しい
- ・私は、緩和ケアのことを全然知りませんでした。世の中に沢山の人ががんで苦しみ、またその家族も悩み、辛い思いをしています。もっと、オレンジバルーンプロジェクトがあることを多くの人に知ってもらうため色々なメディアに働きかけてほしいです。私の義父はがんで亡くなりました。残された家族、特に配偶者に対しても、ケアが必要だと思います。それに対しての緩和ケアも充実させて下さい。
- ・がん患者にとって大変頼りになる事業であることが、このアンケート内容から分かりました。本

事業が普及・発展されることを期待致しております。

- ・すぐにだれでもが受けられるようにしてください。
- ・私自身、A P A（異形ポリープ状腺筋腫）でガン告知を受けた経験（がんではなかったです）があり、緩和ケアの「オレンジバルーンプロジェクト」を初めて知り、がん患者にとってすごくよいことです。うれしいです。かん治療（身体・心）は、大変ですが一人でも多くの方が元気になってほしいです。
- ・もっと安心して緩和ケアを受けられるように情報を発信して欲しい。
- ・告知するしないで問題はあるけど身近にガン専門の病院があって緩和ケアの実体がわかりやすくなれば良いと思う
- ・乳がんのピンクリボンプロジェクトの様に「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉も内容も広く知られるといいですね。テレビの影響力はすごいと思いますよ。
- ・「緩和ケア」についてまったく知らなかったの、これを機会に積極的に勉強していきたいので、郡部の地域でも参加出来る方法を機会をもうけてほしいです。
- ・テレビ、新聞などで、もっと取り上げてほしい。コマーシャル等も安くできないか？（企業の協力とかで。）
- ・自分ががんになった場合、痛みはやわらげて欲しい
- ・緩和ケアが当然の行為と、患者も医療も感じられるようになればと願っています。
- ・こういう事業があること始めて知りました。広く周知徹底されることを望みます
- ・質問7で挙げられた項目は、あまり広く知られていないように思うので、これらを周知するような取り組みが必要だと思う
- ・近所の病院で利用できる場所を具体的に紹介すること。大都市以外でも地方でも緩和ケアが手軽に利用できるよう、病院に働きかけること。
- ・終末期を迎えるのは不安。死の恐怖直面しなければ分らないので分らない事だらけです。どんなに知ったとしても不安はぬぐえないが、知ること、人を動かしたり死への不安を軽くできたらと情報を聞いても良いのではと思う。
- ・大事なことだと思うので、知名度を上げることから頑張ってください。
- ・恐怖、不安をなくす方法をたくさん流してほしい
- ・今の世の中で費用がたくさんかかっている為、病院にもかかれない。年を取って介護もして貰えない中、緩和ケアとは！！ガンに今はかかっておりませんが、老人介護で大変な毎日です。生活の為働き！！介護をして貰う為には高額な費用です。ガンも病院等にかかる為にはお金がかかります。全てお金がからんで来ております。この事業（大切（?））なのかも知れませんが、老人介護の方がもっとせつ実な問題です。
- ・緩和ケアが有るのがガンの病気になった時安心です
- ・もうすこし、いろいろの場所又は広告などで情報を出してほしい。廻りでも知らない人が多い。
- ・私のような、あまり病院に行かない若い人は、知らない人がほとんどだと思うので、もっと広めてほしい。もし私がガンになったら、すぐ緩和ケアを受けたい。苦しんだり、痛い思いをしたくない。←このような思いをするくらいなら、すぐ死にたいとずっと思っていたので。
- ・私自身、まだがんになったことはないし、母も早期発見で定期的な検査でよかったので、緩和ケアについては新聞に書いてある程度の知識しかありませんが、「もし、身内が…もし自分が」と考えた時に、都市部だけでなく全国どこにいても緩和ケアを受けられる又、そういった情報が得られる環境にあることが必要だと思います。緩和ケアが普及する為に「オレンジバルーンプロジェクト」のより一層の発展を期待しています。

- ・事業の名前を知らなかった。私のように知らない人々に広く普及してほしい。
- ・もっと多くの人に知ってもらって、どこでもケアを望んだら、すぐに受けられるようになってほしいと願います。
- ・「緩和ケア」という言葉もその内容も知らなかったです。「緩和ケア」少し勉強になったかなと思います。
- ・内容について広報活動をして充実してほしい
- ・格差なく平等に緩和ケアを受けることが出来、一般の人にもわかりやすく、そのシステムなどをわかってもらえるようにしてほしい。QOLの確立
- ・知らない事が多いので、テレビ等、人気の有る番組、池上彰学べるニュースなどで行なえば全国的に内容がわかるのでは。
- ・ピンクリボンなどは、比較的広くに知られているが、オレンジバルーンプロジェクトは、まだ広く知られていない。国民に知らせる広報活動が必要。
- ・首都圏以外の地方でも、多くの（多種）治療やケアが受けれるよう、又、普及するよう期待しています。※現在の治療やケアは、地方（田舎）と首都圏では大きな差があり、私自身親の治療時に悩んだことがありました。
- ・家族にはがんになった人はいたが、自分がなっていないのでピンとこなかった。それで緩和ケアのことは聞いてはいるが、あまり関心をもっていなかった。それより「毎日の食生活に気をつけて」「腹八分で」を心がけている。QOLという言葉は知りませんでした。質問に答えられず申し訳ありません
- ・一番は不安だと思うので、精神科の先生をまぜての話合いが、いつも自由にできればいいと思う。
- ・がんという病気は将来、自分及び家族がかかるかもしれない。このアンケートを記入して初めて、緩和ケアというものがどういうものか少しは分かった。もっと、マスメディアなどを通して緩和ケアについて広めてほしい。
- ・ガン患者やその家族だけが緩和ケアを知っているのではなく、広く一般の方々にも浸透する事を願っています。身体、心とケアする事は難しく、今以上のケアが出来る様になる事を望んでいます。
- ・緩和ケアの事あまりわかりません。これから関心を持ちたいと思います
- ・緩和ケアを万一の時は受けたいと思っていますが、どこに行けば良いのか知りません。ぜひ実効ある周知をお願いします。又、医師に相談しても、親身に相談できる医師がなかなかみつからない現状です。医師に対する不信感があります。患者の心に対する医師の教育もぜひお願いします。姉が乳ガンとなり、医師に緩和ケアの質問をしたところ「どうぞそのような病院が良かったら、そこに行って下さい」と言われ、患者家族共傷ついたことがあります。
- ・よくわかりません
- ・新聞等により、少しづつコメントしてほしい。
- ・緩和ケア専門看護師が専門性を発揮出来る活動の場（環境）を拡大する事により、国民の認識が高まると思います。
- ・なぜ私がガンになったことわかったのでしょうか？又、緩和ケアについて、ガン患者が分かっているのであれば、アンケート前にこの様な情報なぜなかったか！
- ・治療費が高かったり、まだ医療側の技術、知識等まだまだな所があると思います。良い医療、拡充が進んでほしいです。
- ・緩和ケアの普及を多いに期待します
- ・がんの初期から行なってほしい

- ・始めて聞く言葉です。テレビ、新聞等で紹介して下さい
- ・身近にがん闘病者がいないので具体的な要望はないですが、がん治療中で患者の最大の苦痛は身体的な痛みだとTV等で聞いた事があります。これに対する対策がこのプロジェクトだと思うので。経済的、時間的に利用しやすい事という漠然的なことしか思いつきません。
- ・各社保険会のガン保険などにこのプロジェクトの利用情報などを紹介されていれば認知度が高まると思う。
- ・私の両親は共にがんになり現在も治療中です。年齢や今後のQOLの事も考え手術は行なってません。抗がん剤で具合が悪い日も多いです。今までオレンジバルーンという言葉さえ知りませんでした。今後何らかの形でお世話になるかもしれません。
- ・「がん」の怖さばかりが印象づけられてしまっていて「がん」が克服出来る病気であるという“知らせ”が大切なので、もっとOBPという考えを世に広めて欲しい。
- ・緩和ケアをどのような形で一般の方に普及されるのでしょうか？まだまだ認識されてる方は少ないと思います。
- ・金もうけ主義の“がんに効く”と言う健康食品等に反発を感じる。正しい情報が広まってほしい
- ・必要とならなければ知る機会のない事だと思います。多くの必要とされる方への助けとなってあげて下さい。
- ・がんについて考えた事がないのでわかりませんが、心のケアは必要だと思います。人に聞いてもらう事はやすらぎにもなります。
- ・病気になっていない人、病院等へ行く機会の少ない人にはなかなか普及しづらいと思います。今健康である人にこそ普及するような活動を期待します。
- ・今までに一度も聞いた事がなかったので、(オレンジバルーンについて)誰もが知る事が出来る様に、もっと積極的に活動される事を期待します。
- ・認知度を高める事、ホスピスとの違い、患者だけではなく親族への対応等、情報量が少なすぎる為、期待する事が書けません。
- ・実際に癌になったり、家族、知りあいが癌患者にならないと“緩和ケア”までに触れることは少ないと思います。今回のアンケートを通して知ることたくさんあったので、続けていただきたいと思いました。また、介護施設などで講習会など開いて頂けたら良いなとも思います。
- ・広く一般の人々に知ってもらう(知らせる)努力をお願いしたい。
- ・テレビで知った位の事で余り知りません。全国的にこういう病院があればと思います。
- ・誰でもこれから先いつガンになるかわかりません。早期診断、早期治療は受けるようにしていますが、もっとマスコミ(特にTV・新聞)などで「緩和ケア」について所在地、費用なども知らせて頂けたらと思います。国民年金受給者でも入所出来るようになればと希望します。
- ・もっと病院・学校等にPRされくわしい内容を知りたい人達に広められたらよろしいのではと思います。
- ・1人でも多くの人にわかりやすい様にして下さい！頑張ってください！
- ・以前TV番組でガン患者のすい弱は栄養失調からくるという話を知りました。父をガンで亡くしましたが、すい弱でだるさや痛みが増えてQOLが低下するのはホント悲しいことです。もう少し緩和ケアが一般化することを希望します。あと受けた病院により受けれる治療の質があまりにもちがわないようにしていただきたいです。
- ・広報〇〇毎月でているので、くわしく説明してほしい。やまいは気から話し相手になってあげる事は大変いいことだと思います。私は糖尿病で動悸がはげしくて大変こまっています。ある人がことばたくみに大ウソを言って歩くので、今一人も友達がいません。もう22年もしじめられ

ています

- ・今、興味を持った。
- ・父がスキルス胃ガンによりまた義父もガンにより亡くなっています。(10年位前) 2人ともとくに義父はモルヒネだと思うのですが、意識がない寝かされている状態が続き本人には痛みの感じはなくても意識もなくなっている状態でそのまま亡くなりました。痛みがとれて意識があれば、家族との最後の会話ができたのにと思いました。病院にはかならずかかるので病院で事業の事が目につくようになれば良いかと
- ・初めて聞く言葉でした(オレンジバルーンプロジェクト)
- ・より一層の普及啓発を期待したい。
- ・まず医療従事者が緩和ケアを具体的に知る事が必要だと思います。往診医が“緩和ケア”とは言っていたが、麻薬をうまくコントロールできていなかった。ホスピス経験のDrは、やはり緩和ケアは薬の使用法、心のサポートともに上手くいっていた。薬も必要ではあるが、音楽療法等もすべて含めて多くの方に知らせてほしいです
- ・モルヒネ投与などによって、どう痛みが和ぎ、どんなふうにQOLが向上するかの具体例、といった具体的方法を知ることができればと思います
- ・カゼだと思ひ込み長引く様でしたらこわがらず医者に行く事。つかれたと思ったら医者に行くこと。いつもより食欲が無かったら(続いたら)医者に行くこと
- ・自分や身近な人ががんになってから知るのではなく、事前に少しでも知っていれば、がんにならなってしまう際に心にゆとりが持てると思う
- ・初めて聞く事だったり緩和ケアなどがあるのを初めて知りました。「オレンジバルーンプロジェクト」も初めて知りました。ピンクリボンで乳ガンと言うのは知っていましたがもっと前に出して緩和ケアをもっと私達の様な者にもわかるように！！
- ・がんと診断された主人が痛みをひどく訴えている時でさえ、主治医から緩和ケアの提案はありませんでした。国民に広く認知される以前に、医療関係者(特に医師)がもっと緩和ケアについて勉強する必要があると思います。
- ・膀胱ガンと胆管ガンの末期の母は胃の調子が悪いからと2週間食欲がありながら絶食を指示され、食べたかったのをずーとがまんし、そのあと治療がないから次の日から何を食べても言いつわられましたが食べられなくなってしまいました。緩和ケアを何度もお願いしたのにモルヒネをもらえず、筋肉注射の痛みの中最後はおしめを替えるのも絶叫し痛みが見ていただけませんでした。壮絶な痛みの中の3日間を忘れられません。私の知識がもっとあればホスピスが近くにあれば…後悔ばかりでした。今も〇〇病院に不信感を持ったままです。母を安らかに逝かせてあげたかった。悲しい。もうじき3回忌です。
- ・がんは遺伝という認識を持っているので自分がかんになるという確率の高さを一種の覚悟もっています。友人の家族がホスピスに入っていたのを聞いた時、私もそれを望みたいと思いました。しかしそのような情報を得ることができません。ぜひもっと広く情報が得られればと思います。父は何度も開腹手術をし、最期はともつらそうでした。今考えても涙が出ます。その時自分はがんになったらそれを受け入れ静かに死をとと思いました。
- ・「オレンジ…」の言葉は初めて知りました。新聞などでもっと宣伝しなければ普通の人は知らないと思います
- ・緩和ケア病棟をすすめられたけど、やっぱり家で過ごしたいと言う患者さんが点滴、注射に外来にギリギリまで来られていた。その方の話はどれも胸にひびくもので、死と背中合わせにした人は、おだやかにいろいろ話してくれた。病院で最後を迎えたくないという患者さんは今だに多い

声が上がっている。自分はどうするのかなあ？

- ・緩和ケアについて興味はあるのですが、その情報の入手先がわかりません。私はパソコンができないので情報はテレビ、新聞、書籍、病院での資料くらいからしか入手できません。いつか自分もお世話になるかもしれない…と頭のすみをかすめる程度ですが知識は得たいと思っております。大きなスポンサーが付いて、テレビ等で目立つ様にPRして頂けるとうれしいです。私も含め、多くの方が緩和ケアについての情報は必要になってくると思います。病院の待合室にパンフレット資料がおいてあるとみる人も多いのでは…
- ・あくまでも私の個人の思いとして「がん」という言葉だけで心のバランスが大きく狂っていくものだと思う。多くのストレスがかかり、体も精神も人によって、どこまでたえられるか。がんの痛みは体と心の両方のケアとを必要絶対問題でしょう。
- ・オレンジバルーンプロジェクトが広く普及して行くよう願っています。
- ・医療に関して全く知識がないので、言葉も知らなかった為、もっと世間に認識できるように広めてほしい。知人はがんになり抗がん剤をしたが副作用ばかりで苦しんでいた…その姿を身近で見てきたので、もっと良いと思う緩和ケアという方法があるのなら、早く広めてほしい！！
- ・ショッピングセンター等人の集る場所で、パネル展示等をして積極的な活動を願います。
- ・このProjectは弱き者、助けを求む人を勇気付けるものと考えております。更なる発展を期待しております。
- ・天下りの温床とならない様に
- ・新聞、テレビ等でくわしくお知らせ下さい
- ・社会に普及させてほしい。皆に広く知らせてほしい。知らなくて困っている人の役に立つようになればうれしい。きっと知らない人も沢山いらっしゃると思う。
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」の言葉もしらないしどういうケア方法なのかも知らない。普及して欲しい。7年前大腸がんを患って現在膀胱がん悩んでいるが医療機関も詳しい説明が欲しい。一方的に手術、将来像についても何も語ってくれない不安の日常である
- ・痛みが緩和されれば前向きに生活できると思います。がんばって下さい。
- ・お父さん、かあさん、会いたいけど少し待って下さい。まだ～、でも人間て、一回は、死、悲しい
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」と言う事業を理解していないのもっと勉強しなければ何も分かりません
- ・ありがたい事業と思います。多くの人にこの事業が正確に情報伝達出来る様に願っています
- ・ガンは死亡原因第1位なのでこのプロジェクトにより緩和ケアが普及するのは大変良いと思う。しかし個人宛のこのアンケート等の様に膨大な経費を掛けるより各医療機関（患者は必ず病院へ行ので）に対象者に緩和ケアについての説明（施設紹介や精神ケアー治療費他）を徹底させることにこのプロジェクトは力（経費）をつくした方が効率的だと思う。
- ・オレンジバルーンプロジェクト言葉をこのアンケート用紙で初めて目にしましたので事業内容が私にはまったく解りませんのでお答えする事が出来ません申し訳ありません
- ・この様な事業を充実推進され広く国民の周知するところとなることは非常に有り難い事柄ですが、お互いの人間関係の中での信頼感の構築は大変だと思います。現場での対応にやさしさをレベルアップ出来ればそれだけでも患者は救われます。マニュアル通りにしか動けない人材は不向きだと思います。
- ・こんなよいことがあるのに地方では何も知りません。分る様にして下さい。
- ・最近がんで友人（女）をなくしました。つらい思いをして死にました。私もつらい毎日でした。

もっと楽になる薬はないのか…。モルヒネが一般的と言われました。人間には寿命があり、がんになったら苦痛から解放されたいと思います

- ・より多くの人に緩和ケアについて正しい情報を知ってもらい、緩和ケアを利用しやすいようになることを望みます
- ・身近な事にあれば利用しやすいと思います
- ・がんになってから「緩和ケア」などにたよるのでなくそれまでの食生活等々に、力を入れたり、勉強会したりして…。なるべく気をつけて。それでも、今はがんが多いので病気になったときは、ケアをしてほしいと思います。
- ・自分自身未経験であり、周囲にも体験者もないので、余り関心を持った事はない。しかし今後何時罹患することも限らないので、緩和ケアについての情報をインターネットで調べられるように願いたい。調査と同時にPRも、もっと広めるべきと思う。
- ・今年、父ががんになって初めて、緩和ケアや、その他治療のことを知った。がんが必ずしも苦しみながら死に至る病ではないこと。治療をしながらも、色々とコントロールしていけば、やりたい事もできるし、うまくつきあっていくことのできる病気だということ、もっと広めていってほしい。
- ・広く情報提供をお願いしたい。(問4-2などの手段)
- ・国民にもっと広く知られる様に広報活動に力を入れるべきである。誰でも利用出来る様になる事を希望します
- ・緩和ケアという言葉も、オレンジバルーンプロジェクトという活動があることも知りませんでした。もっとみんなに知られるようにがんばって下さい。だれもが“がん”になる恐れがあるので、もっとこの活動が普及させられるようになって下さい。何も知らなくてごめんなさい。
- ・もう少し認識されるようにPR(TV、ポスター、新聞)をして欲しい。
- ・全ての病院の待ち合い場所等にポスターを貼り、予防出来ることや緩和出来ることを呼びかけたらよいと思います。受付の所よりも診察室の周辺が大きな病院だと目に付きます
- ・よろしく願い申しあげます
- ・隣家の御主人が緩和ケアを受けておられ少し知っている程度です。亡くなられて数年が経過してこの言葉に接する機会も減りました。一度誘われて(隣家から)勉強会へ参加した事がある私ですが、身近で講演会等開かれたら自分自身の事として認識を深めたいと考えます。誰もが、がんと診断されない保証は無いのですから。
- ・ガン治療は多額のお金がかかると聞きます。金銭めんでも、安心できる治療をと願います。
- ・肺がんになって6年になり現在がんより脳梗塞になり、手が不足のため字が書けにくくなっております乱筆にて失礼します。肺がんは通院で〇〇センター(〇〇)に3~6月に一度通院しています。無事の様ですが脳梗塞で生活に不自由しています。
- ・私の住む町は専門医がいない上に、様々な面で出来ない事が多く、自治体は「出来ない」で済ませてしまうのがほとんどです。オレンジバルーンプロジェクトが、地方の小さな町に住んでいる人々も利用出来るので有れば良いのですが、実際どうなのでしょう。
- ・がん検診事業に関する職場にいますので情報はあります。
- ・もっと宣伝して情報入手しやすいようにして欲しいと思いました。(全く知らなかったため)
- ・いつ病気やがんになるか、毎日健全であっても恐怖を感じます。まだまだがんの治療の緩和ケアについてすべての通信において、報道すべきだと思う。
- ・痛みの緩和、心のケアどちらも病人にとっては辛いことだと思うので「緩和ケア」がどの医療機関でも受けられるようになり、さらにガン以外の病院でも「緩和ケア」ができると良いと思

ます。

- ・緩和ケアを受れる際、対応するのは精神科医だと思う。身体的なケアの他にも心のケアが大きように思うので。
- ・Orange Balloon Projectの活動が広く国民に理解され活用できるようにがんばって下さいませ。
- ・希望する人誰もが気軽に利用できるものであってほしい。利用料が心配です。
- ・テレビ等で普及するのであれば、できるだけ多くの人が見る可能性のある時間帯の放送を希望します。
- ・父はがんでなくなりました。病院に行った際、すでに末期がんであり、病院の対応も良いものではありませんでした。そして本人が最期は家で、いう希望で在宅ケア(？)、先生の訪問もあるところをお願いしました。とても良い先生で、しっかりとした説明のもとで医療用麻薬を使いました。毎日苦しい思いから解放された父は、たとえ一時であってうれしそうでした。最初の病院(医師)の対応は今でも胸がいたみます。ぜひ緩和ケアを普及していただき患者本人、そして家族と、多くの人やすくわれる様期待しております。
- ・私は昨年一年間、C型肝炎でインターフェロンの治療をしましたがその時の副作用は大変なものでした。もし肝ガンであったらもっと苦しい治療になると思います。緩和ケアが身体的・精神的に少しでも苦痛を和らげるものであれば全面的に期待したいと思う。そして地域差のない、しっかりとした対応を願いたいものである。
- ・多くの人ガン克服してほしい。心身両面からあらゆる方法を使ってガンという病気に勝ってほしいと思う。
- ・全く知らなかったので、今後緩和ケアというものについて広く知ってもらえるよう活動して下さい。
- ・緩和ケアの事を今まで知りませんでした。色々な方面で見たり聞いたり出来る様をお願いします。
- ・緩和ケアの情報等は年令と共に知っておく必要があると思われる。
- ・お金の無い人にもすみずみまでいきわたるケアをお願いします
- ・新聞などでもう少し詳しく知る機会を増して欲しい。場所(全国的に)費用(負担する費用や補助など)
- ・ガン=痛みという思いがありますが、ガンにかかっても痛みが無く人間らしい生活が最後までおくれる為に期待しております
- ・緩和ケアを受けられる病院が家の近くにあるようになってほしい(ふえてくれれば安心だ)緩和ケアをしている病院名がわかるとよい
- ・緩和ケアという言葉聞くのが今回初めてです。病院に行っても目にした事ありませんでした。テレビなどで宣伝して行ってもらいたいと思います。
- ・このアンケートのおかげで少しは認識できましたので、今後の活動に注目します。
- ・現在はガンとゆう病気は珍しくない病名になりましたが、かといって自分がガンと診断されたら、どうしてよいのが判りません。少ない年金暮しの私には一番にお金のかかる病気だと思います。どんなに優れたケアが実施されていても、それを受けるにはお金が必要です。安心して治療を受けられる制度が出来れば、この様なアンケートも関心がありますが、現在の自分には関係のない事に思えます。どうか老齢の医療費収入によって無料になる事を切に願っております
- ・始めて聞くことば全く知らない
- ・緩和ケアによって救われる患者、また家族はたくさんいると思います。ただ、まだ認知度は少ないと思います。広く知ってもらえるような広報活動、情報提供に期待したいです。

- ・現在は、縁がないので無知ですが、何らかの形で必要になる時がきた時は、是非参考にしたいと思いました。患者が少しでも楽になる事が出来る環境作りに期待します。
- ・直面してみないとわからない事が多い。実際、経験した事がないのでよくわからない。世間に情報が少なすぎると思う。どこに相談してみたらいいのかも見当もつかない
- ・がんに対してあまり身近に感じられないので、もっと若者に広めていただければと思っています。
- ・全然知らないのもっといろいろな方法で情報が入るようにしてほしい
- ・1. がん患者が入院できる病院（ターミナル）の増設。在院日数の短縮化により※1には長期入院は不可能療養型病院は診療報酬のからみで受け入れ困難（不可）在宅は家族の受け入れ協力が無ければ困難、患者さんの行き先がありません。2. 既卒医師への教育・研修が必須と思います
- ・このプロジェクトの事は全く知りませんでした。明日は我身の病気だし家族や友人にもふりかかる病気です。このプロジェクトをもっと広めていただければと思います頑張って下さい！！
- ・当時者以外の人も事業のことを知りたい
- ・今後も広く御活躍下さい
- ・オレンジバルーンプロジェクトの事全く知りませんでした。身近な人ががんになった時、それから勉強したのでは遅いので、もっと緩和ケアの事知りたいので、活動に期待します。
- ・身近に利用できるようにしてほしいです！田舎には利用できる病院が少ないです
- ・各家族に資料を配布
- ・「緩和ケア」という言葉も初めて、知り、読ませていただく中で少しわかる事が出来ました。良い対策になる事であれば広がっていけば良いなと思い、皆さんが利用出来る用になればと思います。
- ・ごくろうさまです。知らない事ばかりでした。この機会で知れてよかったです。テレビのコマーシャルなどで流すと、もっといろんな人に知ってもらえると思います。
- ・あまり知らなくてこれから勉強したいと思います
- ・もっと緩和ケアについてのアピールが必要では…。病院内でもポスターなど見かけたことがあります。
- ・私は今ヘルニアの為、病院に通っていますが、リハビリを16年間行っています。気休めの為です。毎日の生活には不自由ありません、元気がなによりです。
- ・がんにかかったと云うだけで、本人又は家族全員がばっぴんになり、すぐ死に結びつけてしまいます。少しでも多くの情報が聞くことが出来る場所があれば、心の平静をたもてます。もっと、多くの人が知る事が出来る様にお願いします。
- ・市民の緩和ケアに対する理解を深めるために、もっと活動を広め日本の緩和ケアを充実させたい。
- ・身近にがん疾患者がいないとあまり知り得ない情報であるので、広く世間一般に知識として知れ渡る様に、広報されることが望まれる。
- ・ピンクリボン活動のように、インチキ活動にならないようにしてもらいたいですね。営利目的の取り巻き、芸能人等を使わないように頑張って下さい。
- ・もしガンにかかったら、その時の不安、恐ろしさはなまじっかTV等で知っているだけに、大きくなる一方だと思えます。少しでもそのつらさを肉体的、精神的にも補助して頂けるならば、とてもありがたいです。（このアンケートで初めて知りましたので）宜しくをお願いします
- ・正直、オレンジバルーンプロジェクトの活動は全く知りませんでした。実際にガンになって治療する時に、医者が緩和ケアという選択肢があるという事をきちんと説明し、施設など紹介して頂ければ、現在緩和ケアを知らなくても問題ないと思います。そこら辺がどこまで進んでいるのかわかりませんが…。一般市民が緩和ケアを正しく理解していなくても、全てのガン患者が正しく

理解出来る様にする事が大切だと思います。

- ・事業が存在することも知りませんでした。もっと、ピンクリボンプロジェクトのように、マスコミ、ネットなどを利用し、理解されるようになればいいと思います。
- ・「緩和ケア」という言葉自体初めて目にしました。がんは誰にとっても、心配なものです。緩和ケアの活動の情報をもっと目につくところに流してほしいものです。
- ・緩和ケアを良く勉強したいです
- ・私自身、この緩和ケアに対しての知識が全くありませんでした。ですが「もし自分がガンになったら…」と考えさせられました。もっと身近で目にする機会が増えたら良いと思います。
- ・正しい知識を採山のの人に広めてほしい。
- ・私も勉強不足でぜんぜん知らなかったのもっと身近にポスターとかでわかるようにしてほしいです。知らない人は私をふくめまだまだ、たくさんいると思います。
- ・テレビ等のCM等でオレンジバルーンプロジェクトについて知らせてほしい。活動している内容などほとんどしらなかったのも、テレビ、新聞、雑誌等よく目にするものに広告を出し、くわしくはホームページ等で説明するなどあってもよいかもしい。
- ・オレンジバルーンプロジェクトのみなさま、緩和ケアという事は、さっぱりわかりませんでした。これからはがんばって下さい
- ・全く知りませんでした。もっと広く知られるべきことだと思います。今までの活動内容、方法の大幅見直しが必要では？税金、費用のムダ使いしてませんか？
- ・がんと言えばまだ、不治の病というイメージがまだ強いので、完治はしないが疼痛緩和することで、自分の生活が充実できるということがもっと広がればいいと思います。
- ・TVやメディアなどで情報をもっと発信して欲しいです。
- ・普及活動を更に強化した方が良い。簡便に具体例（事例）、費用負担等を知りたい。緩和ケアの有無比較など利用すれば周知され易いのでは。
- ・実際に働きながらガンと向き合っている人のためにも、行きやすい場所と受けとめてくださる人、その方の知識実行力など安心できて、たよりがいのあるプロジェクトであってほしいと思います。現在、かかる方の多いのにはびっくりします。かからない様にする方法、つまりガンというものの知識の普及、検診の充実も大事ですが、かかってからのケアですので長い期間といろいろなやみに対処できる事業であってほしいです。
- ・オレンジバルーンについてまったく知らない。これからの医療のあり方を示すものであるなら、もっとPR活動をするべきだと思う。これからネットで調べてみます。
- ・心のケアはやはり体験者でないと、その方の気持ちに近づけない様な気がします。人事でなくその方の身になって考えて頂く、一時的なものでなく（気やすめ程度でなく一失礼な言葉でしたらすみません）どこまでも、患者さんの心になってケアして頂く事、お願いさせて頂きたいと思います。真（まこと）、真心で
- ・人が人として尊厳を持ち、最後を迎えられる事の説明と医療従事者が麻薬管理を徹底する事の説明
- ・活動内容を広く世間に知らせて欲しい
- ・もう少し宣伝してほしい（いろいろなところで）
- ・一人でも多くの方が心の不安、いたみを取り除かれますように願っています。ありがとうございました。
- ・「緩和ケア」という言葉もほとんど聞かないので「緩和ケア」とは何かといった所から広報活動に力を入れて行って下さい。

- ・今回のアンケートで緩和ケアがある事を知りました。幅広く宣伝をしてほしいです
- ・病院等でPRしてください。友だちに手術した人がいて話を聞くがピンとこない。もし自分が病になったら苦しんだり痛くない方法をお願いしたいと思っています
- ・父親を直腸ガンと心臓病の合併症で亡くしました。妻はクモ膜下出血で倒れました。共に10年近く前の事です。それなりに医療には詳しいつもりですが、今回の件については全く知りませんでした。市県の公報にもっと積極的に取り上げてもらう必要があります
- ・がんばって下さい
- ・「オレンジバルーンプロジェクト」という言葉をこのアンケートで初めて知ったので、各地域の公共機関は集会等を開きプロジェクトの詳細を教えてください。
- ・今年親友をガンで亡くしました。彼女は長年ガンとたたかって（10年以上）亡くなりました。胸、リンパ、脳、何回も手術をし、入院、退院をくり返し最初の病院に見捨てられ、ホスピス行きを言われて次の病院では期待を持たせてくれました。一番は心のケアだと思います。
- ・私は今回のこのアンケートで「緩和ケア」を始めて知りました。私自身7年前にPSA（前立腺ガン）数値が7～8と診断され〇〇医大で組織を3回（3年連続）受けましたが、「ガン組織は見当ない」との結論となり、現在は3ヶ月一度医大で検診を受けています。今後「緩和ケア」のお世話になるかも知れません。早速ですが資料など送って頂ければ幸いです。
- ・身内に激痛を伴うガン患者がいないので緩和ケアの認識が少なかった。病院でのケアは受けやすいがボランティアの人でどの様に接するか興味ある。自分が当事者になったら友に話せない事を窓口でケアを受けると思う
- ・緩和ケアという事を少し誤解して理解してたように思います。もっと、わかりやすく、広めていったほうが良いと思います。
- ・全くといっていいほど知りませんでした。TVなど、目と耳に入ってくるもので、もっと広告されてはいいのでしょうか。大切な事だと思いますので。
- ・ガンになった本人だけではなく、家族もどう対応してよいのか分からないコトもあると思うので、相談できればいいなと思いました。
- ・これからは、病棟以外でも広く多くの人に知ってもらいたい。新聞、テレビ等で緩和ケアを広めてほしい
- ・1、健康状態の人には必要なく、発病時にプロジェクトの存在を知れば良いのかも知れないと思う反面、今から知っておいた方が良いと思う気持ちもあります。ほとんど知らなかった小生としては、おどろいている次第であります。やはり、マスメディアによるPRは必要なのではないのでしょうか。2、情報を得る手段として、最初から、人（担当者）に依存するのは不安、人によって知識・経験・誠意にバラツキがあり、あたりはずれがありますよね。小生は、お役所というところは、あまり信頼をおいていません。当方に知識があって、はじめて、相手から引出せることも多くあると思います。そう云った意味では、ビジュアルに媒体による手段が有効であると認識する次第です。良く練られた内容のビデオ・DVD・CDなどが作成され、それを、役所・図書館・学校・団体etc・企業も含めて、貸出することができれば良いのではと思うのです。その上で、いざという時に事前知識をもってしかるべきところに相談に行くことにより、中味の濃い指導・援助を引き出し、受け入れることができるのではと思うのであります。おぎなりの説明しかならない担当者も中には出てくると思いますので、そう云った輩を排除していくシステムも必要ですね。そうしないとせっかくのシステムが意味をなさなくなります。小生の家系は、ガンによる死亡が多く、おそらく小生も、事故にあわなければ、がんでいくのではと、思っていて、覚悟もしています。そういった意味で、今回の調査は意味深いものでありました。もう少し、勉強しようと思

っております。回答が遅れましたこと、誠に申し訳ございません。すでに、一日過ぎてしまっております。まにあえば良いのですが。2010年12月11日

- ・今年の2月に乳ガンで仕事場の方がなくなりました。その時に、他の人が話をしていたのです。「緩和ケア」の事を、でも、私には全々、関係のない事だと思いあまり深く考えませんでしたし私には、そんな心配はないと思っていたのです。そしたらこの様な調査が来たので、びっくりしました。でも、私の住んでる町では、あまり聞きません。
- ・がんとわかったら告知して欲しいと家族と話しています。痛みに対する不安はあり心の緩和ケアも大切と思っていますので普及して欲しいです。
- ・ピンクリボン知っているが、そのような事業があることは知りませんでした。もっと普及に努めるべきと思います。
- ・すみません。勉強不足なのでそのプロジェクトについて知識がありません。私のような者の目にも止まるような活動を期待します。
- ・まだまだ知らないこともあり、忘れることもあるので、知りたい時に情報が得られると有難いと思います。
- ・オレンジバルーンプロジェクトについては正直知りませんでした。医療用麻薬は認められるのに安楽死や尊厳死が認められていないことに疑問があります。安楽死や尊厳死も緩和ケアにならないのでしょうか？
- ・緩和ケアに関わる医療スタッフの確保をがんばって欲しい
- ・がんの痛みにはたえられず亡くなった身内がいます。痛みは人それぞれですが、苦しい思いをして亡くなると本人も苦しいが家族も苦しいです。緩和ケアで楽にしてあげてほしい。
- ・緩和ケアという言葉を知りませんでしたがこれを読んで自分がもしがんならったら受けてみようと思います。詳しい事を知りたいです。
- ・「緩和ケア」のアンケートで初めて「オレンジバルーンプロジェクト」と言う事業が有る事を知った。期待する前にもっと色々な方法で世の中に普及できると良いですね。
- ・がんになってしまった人の中には、お金がなく治療を受けられない人も、いるかも知れません。まずしいがんの人も、治療を受けれるように、なったらすくわれる人も増えると思います。
- ・この調査で私も含めてこのプロジェクトの事を知らない人が多いのであれば、計画の進め方を考え直した方が良いのではないのでしょうか？税金を少しでもつかっているなら、「全く知らない」という欄に○をつけさせないでほしい。恐らく非常に大切なこれからの医療の情報だと思えますが、少なくとも、知らない人に対しても「オレンジバルーン…」なんて名前じゃなくて、事業名を聞いただけである程度事業の内容をそうぞうできる名前にした方が良いのでは？
- ・優しい名称だとは思いますが、緩和ケアとイメージがつながりにくく、別の事業があるのかと思ってしまいました。緩和ケアを普及させたいのであれば、別事業ではなく、一部署として扱う事、それを知ってもらうことが重要でしょう。しかし、緩和ケアを普及するための「オレンジバルーンプロジェクト」では本末転倒。地域の病院で地道に広めていただくのがだとうではないでしょうか？
- ・「緩和ケア」ドラマの中の世界でしか知らない事が多くアンケート用紙をもらう迄は知らない言葉であったり（オレンジバルーンプロジェクト）3～4人に一人はがんになる人が多い日本、もっと病になる前から、色々な事を知っておくべきだと思います。講演会など地方でも多く開くとか…
- ・がん＝死とってしまう。しかし緩和ケアによって最後まで前向きに自分らしく生きることが出来たら、と思います。

- ・患者本人の心の痛みと同様に家族の不安などを一緒に相談できるような場所もできるといいと思う。患者と家族が同じボランティアの人に話せるといいと思う。あと、治療にかかる費用についても分割ができるなど色々な組みくみをおねがいします。
- ・知らない事が沢山ありますので、もっと身近な存在となれる様、広く知る機会が増えるといいです。「がん」と聞くと不安なことしか浮かびません。
- ・事業の存在自体知らなかったなので、もっと情報を流してほしい。
- ・手術をしてから17年たちました。今だ食事がつかえたり血糖値が下がったりします。今は何もせず家でごろごろなさけないです。歩かなければいけないのに歩きもせずなさけない
- ・いろいろな方にもっと知ってもらって普及していくとよいと思います。
- ・緩和ケアは治療費がかかりとても継続するのは難しいように思いますが、誰もが公平に受けられるように国に働きかけて頂けたらと思います。期待しています！！
- ・この度の“緩和ケア”に関する調査に協力する機会に会うまで緩和ケアに対して意識もしていませんでした。この度の調査内容を参考に勉強させて戴きたいと思います。有りがとう御座居ました。貴、普及事業の関係者の皆様の活躍を期待しております。
- ・もっと広報してください。
- ・心の痛みなどのケアを充分にやってもらえないと家族もさうとう疲れます。在宅で看護する場合緩和ケアはただ痛みだけをとる方向でなかなか心のケアをできる医師がいないと思います。内科の医師だけでなく精神科の医師と連携をとってもらい安心できる医療をうけたいと思っています
- ・ガンの進行を遅くする又は停止する為の薬や治療方法を出来るだけ社会全般へ知らしめる（病院へ入院すると高額な費用がかかる為、自宅療養したい）。ガンの発生は一部活性酸素のしわざと言われており、対策として活性酸素を多量に含んだ水を飲む事が活性酸素を体外に除去出来る事と現在は証明されている。全国一般に普及している自治体製造の水道水に含まれる塩素が活性酸素である、外国から来る人は決して日本の水道水を飲まないようにしている。まず医療機関では率先して良い水を供給すべきと思われる。
- ・言葉すら知らなかったなので、まずは認知度を上げることから始めるのが大切ではないでしょうか。広く推進されることを願っています
- ・がんという病気になって関心を持つ事だと思いますが、事前に知っておきたいと思う方も多数いらっしゃると思いますので今後の情報発信に期待いたします
- ・認知度が低いと思う。TVCMが一番認知度があがるのでは？痛みだけでなく、病気になるとお金の心配が大きい。緩和ケアを受けると医療費がどうなるか知りたい
- ・緩和ケアについては、正直全く知りませんでした。ホスピスの様なものなのでしょうか？私の身近な所に緩和ケアを必要としている者がいないからなのか？年令的にも今ではないとしてもいづれ必要になる事があると思います。出来るだけ多くの人にこの様な事を知ってもらうことで関わる全ての人の意識が変わると思います。理解しやすい様にそして安全に安心して今後緩和ケアが受けれる事に期待致します
- ・小さな子でも理解ができるように絵本のようなものがあればいいと思う。
- ・もっと人々に知ってもらう為にテレビなどで放送して下さい
- ・医師に痛みをとってもらおうようなことをしていただいている途中で急患が入り、治療途中で終わってしまった者がいます。そのため痛みが残ったままの状態が続くことがあったので、ちゃんと受けられる体制を整えて欲しいです
- ・まず「オレンジブループロジェクト」「QOL」のような補足の必要な言葉は使用すべきでは

ない。意味が通じにくい→興味を持たない。インターネットは便利だがお年寄りには不向き。おそらく見れない人多数。必要な人に迅速に情報が伝わるよう整えて下さい。

- ・“緩和ケア”の知名度が低い様に思います。このアンケートがなければ私は全く知りませんでした。病気になってから知るのでなく、日頃から知っていれば病気に対する不安も解消されると思います。多くの方に知れわたる様にお願いします。
- ・私自身、言葉すら知らなかったのでピンクリボンのように、世の中にもっと伝わるようにしていただきたいです。
- ・麻薬という言葉はどうしてもイメージが良くないので、その説明をきちんとしてほしいです。そうでないと使うのにちゅうちょしてしまいそうです。
- ・知人を見舞いに行った時、おだやかな顔でしたのが今でも心に残っています。まもなく他界しましたが…後は入院等にかかる費用が個人的に心配です。生まれたら亡くなるのは当然の感ですが、心静かに終れる様にと 생각합니다。期待致しております。
- ・テレビで俳優が演技をしているコマーシャルを流して普及させるのも一つの方法ではないでしょうか。(コマーシャル料がかかるからガンを経験した方々が命の大切さをうったえる為、ボランティアで出演してガンはこわくないと多くの人に知ってもらえればと思います)
- ・もう少し名前と意味を多くの人に知って頂く為に頑張ってください。
- ・友人の中で終末期にホスピスで緩和ケアを受けたが、自分がガン患者でないと意識は薄いので、国が行っている「オレンジバルーンプロジェクト」が全市民に浸透するよう広報活動を行ってほしい。カタカナの名称では年令が高い人では理解しがたいので、日本語で分かりやすく伝えていくことが大事。
- ・もっとたくさんの人に知ってもらえる活動がんばってください。
- ・地域による医療格差がありますが、緩和ケアの普及も格差があっては困ります。地方では大きな病院も少なく、不安など心の問題も多いのではないのでしょうか。
- ・この質問紙が届いて初めて「緩和ケア」や「オレンジバルーンプロジェクト」があるのを知りました。もっとたくさんの人に知ってほしいです。がんは身近な事なので詳しく知りたくまりました。
- ・10月に母がすい臓がんと診断されました。すでにステージ4で余命6ヶ月と宣告され、あまりにも突然の事で父親をはじめ家族の不安ははかり知れません。母の残りわずかな人生をどうやって過ごすのが1番ベストなのか娘として日々悩んでおります。もしご相談にのって頂けるのであればご連絡をさせていただきますが…宜しくお願いします。
- ・良いことなので、もっと皆に知られる様にアピールした方が良いと思う。受けた人もたくさんいると思う
- ・緩和ケアはいつでもどこでも誰でもうけれることを、もっともっと広めていただきたいと思ます
- ・オレンジバルーンプロジェクトと言う名前も聞いた事がないと言う人もいます。もっと多くの人に知ってもらう為に、インターネット等に載せたら多くの人を知ることができると思ます。
- ・QOLの事を一般の人がよく知って、自然体で少しでも協力出来る様に。又自分がそうなった時に、かかわってもらえる様に地域で勉強会等開いてほしい。
- ・もっと幅広く活動して頂きたい。もし私や私の中で緩和ケアを受ける事がある時は十分に利用させて頂きたい。
- ・少しは知っていると思っていましたが、内容を考えると全く知らないと思いました。家に居

- ることが多くTVや雑誌しか知ることがないので、TV等に番組を放送してほしいと思いました。
- ・今、私のまわりの人々が、ガンになってる人はいませんが、これから先、私自身もどうなるかわかりません。そんな時にこの活動がある事を知れば、本当に心強いと思います。これからの活動に大いに期待したいと思います。
 - ・今回の「質問紙」が来る迄、「緩和ケア」という言葉も内容もまったく知りませんでした。今後、関心を持ちたいと思うと同時に、ぜひ広報、そして内容の充実等をよろしく。
 - ・この調査まで、緩和ケアについて全く知らなかった。同世代の人たちは、がんなどに対してあまり大きな関心がないのか、このことについて知っている人は少ないと思う。実際自分の身近にがんが現れたときではなく、事前に知識をもっていれば、楽だと思うので、普及を継続してほしい。
 - ・事業内容について知る機会があるといいと思います。
 - ・医療費、診療費、入院費が高い。年金生活者には負担が大きい。収入減、支出増をなんとかしろ、少子高齢化になれば国保ですら破綻の可能性がある。医療費無料は無理でも、もっと下げるべきだ。
 - ・いろいろ多面的に期待します。
 - ・緩和ケアについて新聞、テレビ、ラジオ等で日常的に考え、知る事ができるように、また勉強会等で深く知る事ができるように、機会を増やしてほしいと思います。自分や身近な人ががん患者がいなくても、広くみんなが共有できるように学校等でも授業のひとつとして組み込んでほしいと思います。
 - ・ガン=辛い治療や死というものを思い浮かべます。抗ガン剤は強い副作用を伴い、患者の身体を蝕むと聞きます。例えガンになり治療をせざるをえなくなっても、人間らしく快適に暮らす手段があるのだということを、患者の方それ以外の方にも広く伝えて欲しいです。
 - ・うちの家、がんの患者がいままでいないので、「オレンジバルーンプロジェクト」、衆人緩和ケアを普及するための事業、うち家人大賛成です。
 - ・「緩和ケア」という言葉自体始めて聞きました。認知度がまだ低いと思います。この様な不特定多数の人に郵便で配付回収を行う前に、事前にTVでの告知等マスコミを使用して行う事が必要です。(家の人は何の事か分からずゴミ箱に入れていました)
 - ・頑張ってください。遅くなってすみません。
 - ・今よく話題になっている。現在の緩和ケアをもっと進めてほしい
 - ・本人に告知はした方が良いか知りたいです。(末期の場合)麻薬を使う事に患者の家族が抵抗がある場合も多いと思うので、家族用のちらしか何かを作って病院等で配っていただけると嬉しいです。中毒や副作用について詳しく知りたいです。

IV 調査票

[単純集計結果付]

Ⅲ 調査票 [単純集計結果付]

一般市民を対象にした「緩和ケア」に関する認識度調査 質問紙

※ nに表示のないところは2,312（人）を基数とする。

※ 数字は%である。

【ご記入に際してのお願い】

- 1) 宛名の方ご本人がお答えください。
- 2) ご記入は質問の番号にそってお願いします。
- 3) 一部の方だけにお答えいただく質問もございますが、その場合は、(…の方に) といった指示があります。
- 4) お答えはあてはまる番号に○印をつけてください。
- 5) 「その他」に○をつけられた場合には、() 内に具体的にご記入ください。
- 6) ご記入は鉛筆または、黒・青のペン、ボールペンでお願いします。
- 7) 記入上おわかりにならない点などがありましたら、下記の**新情報センター**までお問い合わせください。

ご記入いただきました質問紙は、**12月10日（金）まで**に返送用封筒（切手貼付済み）にてご投函
くださいますようお願い致します。

平成22年11月

【調査主体】 NPO 法人日本緩和医療学会
厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業 Orange Balloon Project」
調査責任者：内布 敦子（NPO 法人日本緩和医療学会理事）
うちめの （兵庫県立大学看護学部教授）

【調査実施機関】 社団法人 新情報センター
（問い合わせ先） ○○○○○○

最初に、あなたご自身のことについて、お尋ねします。

問1-1 【ご年齢】

20代	8.3	60代	24.1
30代	12.7	70歳以上	21.5
40代	14.3	無回答	0.6
50代	18.4		

問1-2 【性別】

1 男性	44.1	2 女性	55.5	無回答	0.3
------	------	------	------	-----	-----

問1-3 【お住まいの都道府県】 あなたが、現在お住まいの都道府県はどちらになりますか。

() 都・道・府・県	北海道・東北	11.6	中国・四国	11.0
	関東	29.4	九州・沖縄	11.0
	中部・北陸	18.2	無回答	0.8
	近畿	18.0		

問1-4 あなたは、がんを経験されたことはありますか。(○は1つ)

1 はい	7.4	2 いいえ	91.9	無回答	0.7
------	-----	-------	------	-----	-----

→ 問1-5へ

補問1 (問1-4で1「はい」をお選びの方に) n=171

一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。(○は1つ)

1 6ヶ月未満	3.5		
2 6ヶ月以上1年未満	7.6		
3 1年以上3年未満	15.8		
4 3年以上5年未満	14.0		
5 5年以上	53.8	無回答	5.3

補問2 (問1-4で1「はい」をお選びの方に) n=171

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。(○は1つ)

1 はい	11.1	2 いいえ	85.4	無回答	3.5
------	------	-------	------	-----	-----

問1-5 あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。(○は1つ)

1 はい	43.1	2 いいえ	54.0	無回答	2.9
------	------	-------	------	-----	-----

問1-6 あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。(○は1つ)

1 はい	6.2	2 いいえ	90.9	無回答	2.9
------	-----	-------	------	-----	-----

次に、あなたのご家族について、お尋ねします。

問2-1 あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1	はい	42.1	2	いいえ	57.1	→ 問3-1へ	無回答	0.8
---	----	------	---	-----	------	---------	-----	-----

補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に) n=973
あなたと、がんになられた方のご関係について、当てはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

回答計=126.5

1	(あなたの) 配偶者	17.4	5	(あなたの) 孫	0.1
2	(あなたの) 子ども	3.3	6	(あなたの) 祖父母	22.6
3	(あなたの) 親	55.1	7	その他	9.1
4	(あなたの) 兄弟	15.6		無回答	3.3

補問2 (問2-1で1「はい」をお選びの方に) n=973
ご家族の中で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けた方はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1	はい	38.6	2	いいえ	57.7	無回答	3.7
---	----	------	---	-----	------	-----	-----

緩和ケアについて、お尋ねします。

問3-1 「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(○は1つ)

1	言葉を知っていて、その内容も知っている	19.9	無回答	4.5
2	言葉は知っているが、その内容は知らない	33.7		
3	言葉もその内容も知らない	41.8	→ 次ページの問3-2へ	

補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に) n=1,240
「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(○は1つ)

1	インターネット	1.9	6	勉強会(シンポジウム、セミナーなど)	3.2
2	新聞	28.9	7	医療者	14.6
3	テレビ	36.9		(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)	
4	ラジオ	0.4	8	知人	5.2
5	ポスターなどの掲示物	1.6	9	その他	6.0
				無回答	1.4

問3-2 「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は1つ）

1	がんの治療中から受ける	57.8	3	終末期になってから受ける	7.4
2	がんの治療が終わってから受ける	1.7	4	わからない	27.2
				無回答	5.8

問3-3 お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。（○は1つ）

1	はい	15.4	2	いいえ	83.2	無回答	1.4
---	----	------	---	-----	------	-----	-----

問3-4へ

補問1 （問3-3で1「はい」をお選びの方に） n=356

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。（○はいくつでも）

回答計 =215.4

1	病院・診療所	56.7	4	在宅療養（往診、訪問看護）	31.2
2	緩和ケア病棟	63.5	5	医療機関であればどこでも	7.0
3	ホスピス	57.0	6	その他	-

問3-4 あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。（○は1つ）

1	周囲の人のほとんどが知っている	5.1	3	周囲の人のほとんどは知らない	48.7
2	周囲の人のいくらかは知っている	41.8		無回答	4.5

問3-5 あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。（○は1つ）

1	周囲に緩和ケアを受けた人がいる	8.5	無回答	2.0
2	周囲に緩和ケアを受けた人がいない	28.5		
3	わからない	61.0		

「緩和ケア」情報についてお尋ねします。

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。（○はいくつでも）

回答計=413.7

1	がんの治療方法について	46.6		
2	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報	44.7		
3	がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報	40.7		
4	不安などのこころの問題への対処法について	48.2		
5	医療用麻薬の効果や副作用について	36.4		
6	緩和ケアを受けられる施設について	57.0		
7	緩和ケア病棟の診療費や入院費について	58.7		
8	自宅での療養方法について	41.3		
9	地域の相談窓口について	31.7		
10	その他	2.2	無回答	6.2

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(○はいくつでも) 回答計=293.6

1 身近な医療者（医師、看護師など）	57.1	7 ビデオ、DVDなどの動画映像	5.6
2 病院の中にある相談室 (がん相談支援センターなど)	52.1	8 図書館	3.5
3 インターネット	40.4	9 書籍（雑誌含む）	11.9
4 新聞	28.6	10 ポスターなどの掲示物	11.8
5 テレビ	38.9	11 自治体などの窓口や広報誌	23.2
6 ラジオ	5.4	12 勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	12.0
		13 その他	1.0
		無回答	2.4

医療用麻薬という言葉についてお尋ねします。

問5-1 がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。(○は1つ)

1 はい	72.5	2 いいえ	26.5	無回答	1.0
------	------	-------	------	-----	-----

問5-2 あなたは、がんの痛みの大部分は医療用麻薬とその補助薬によって取ることができると言われていていることをご存じですか。(○は1つ)

1 はい	45.7	2 いいえ	53.3	無回答	1.0
------	------	-------	------	-----	-----

問5-3 あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。(○は1つ)

1 強い抵抗がある	3.5	3 あまり抵抗はない	36.4		
2 やや抵抗がある	28.9	4 抵抗はない	28.3	無回答	3.0

「オレンジバルーンプロジェクト（Orange Balloon Project）」という言葉についてお尋ねします。

問6-1 国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。(○は1つ)

1 はい	2.2	2 いいえ	96.7	無回答	1.1
------	-----	-------	------	-----	-----

補問1 (問6-1で1「はい」をお選びの方に) n=52

「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。
(○は1つ)

1 インターネット	15.4	6 勉強会（シンポジウム、セミナーなど）	7.7
2 新聞	19.2	7 医療者	28.8
3 テレビ	15.4	(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)	
4 ラジオ	1.9	8 知人	1.9
5 ポスターなどの掲示物	3.8	9 その他	5.8

緩和ケアについて、下記の項目をどのくらいご存じですか？

問7 「緩和ケア」は、以下にあげることを目指して行っています。
 (ア)～(ク)の各文章を読んで、あてはまるものに○をお付けください。

(ア～クまで、それぞれ○は1つずつ)

		知っている	少し知っている	全く知らない	無回答
ア	緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する	1 22.6	2 31.4	3 43.3	2.8
イ	緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる	1 14.4	2 23.8	3 58.5	3.3
ウ	緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる	1 9.6	2 17.0	3 69.5	3.8
エ	緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている	1 8.3	2 18.2	3 69.7	3.8
オ	緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛 <small>とうつう</small> の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない	1 8.3	2 15.0	3 72.9	3.8
カ	緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない	1 15.9	2 17.0	3 63.1	3.9
キ	緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院(※1)でも、緩和ケアを受けることができる	1 8.1	2 15.4	3 72.6	3.9
ク	緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOL(※2)は改善するといわれている	1 15.5	2 24.4	3 55.8	4.3

※1 がん診療連携拠点病院 ⇒ 国によって指定された、がん治療病院。

※2 QOL ⇒ Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ) の略。生命、人生、生活の質を指す。
 いかに充実した生活が送れているかを示すもの。

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバルーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

以上、ご協力ありがとうございました。ご記入いただきました質問紙は、返信封筒(切手貼付済み)にてご投函くださいますようお願い致します。尚、質問紙も封筒も無記名で結構です。

V 2010年度メンバー紹介

作業部会メンバー

内布 敦子 (日本緩和医療学会) 部会長
本家 好文 (日本緩和医療学会)
松島 たつ子 (日本ホスピス緩和ケア協会)
田村 恵子 (日本ホスピス緩和ケア協会)
高宮 有介 (日本死の臨床研究会)
蘆野 吉和 (日本ホスピス・在宅ケア研究会)
田中 京子 (日本がん看護学会)
加賀谷 肇 (日本緩和医療薬学会)
加藤 雅志 (日本サイコオンコロジー学会)
川崎 優子 (日本緩和医療学会) 事務局兼

アドバイザー

恒 藤 暁 (日本緩和医療学会理事長) 2010年6月より理事長
江口 研二 (日本緩和医療学会理事) 2010年6月まで理事長
志真 泰夫 (日本ホスピス緩和ケア協会理事長) 2010年8月より
山崎 章郎 (日本ホスピス緩和ケア協会理事長) 2010年7月まで
末永 和之 (日本死の臨床研究会世話人代表) 2010年12月より
渡 辺 正 (日本死の臨床研究会世話人代表) 2010年11月まで
大頭 信義 (日本ホスピス・在宅ケア研究会理事長)
鈴木 志津枝 (日本がん看護学会理事長)
鈴木 勉 (日本緩和医療薬学会代表理事)
大西 秀樹 (日本サイコオンコロジー学会理事長)